

小ヅケ遺跡（第4次）・石名田遺跡・
柳垣内遺跡（第2次）発掘調査報告

— 津市安濃町内多 —

2021（令和3）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例　言

1. 本書は、平成30年度中勢沿岸流域下水道安濃北幹線（第3工区）管渠工事に伴い実施した小ブケ遺跡（第4次）・石名田遺跡、令和元年度中勢沿岸流域下水道安濃北幹線（第4工区）管渠工事に伴い実施した柳垣内遺跡（第2次）の発掘調査報告書である。
2. 調査地は、三重県津市安濃町内多に所在する。
3. 発掘調査は、三重県教育委員会が三重県県土整備部から依頼を受けて工事立会として実施した。発掘調査及び整理作業の経費は、三重県県土整備部から執行委任を受けたが、令和2年度のみ三重県中南勢流域下水道事務所と受託契約を締結し、整理作業にあたった。
4. 発掘調査期間と面積

小ブケ遺跡（第4次）	平成30年10月22日～平成31年1月8日	399m ²
石名田遺跡	平成30年10月22日～平成31年1月8日	414m ²
柳垣内遺跡（第2次）	令和元年10月7日～令和元年12月11日	334m ²
5. 発掘調査及び整理作業・報告書作成の体制は、以下のとおりである。

調査主体	三重県教育委員会
調査担当	三重県埋蔵文化財センター　調査研究1課
平成30年度	小ブケ遺跡第4次（工事立会）・石名田遺跡（工事立会）
担当者	技師　水谷侃司　主幹　中村法道
令和元年度	柳垣内遺跡第2次（工事立会）
担当者	主幹　中村法道　主査　倉野雅文
令和2年度	整理作業・報告書作成
調査研究1課	課長　總檍裕昌　課長代理　原田恵理子　角正芳浩 主幹　中川　明　北井　徹　中村法道　主査　森川常厚　櫻井拓馬 主任　元座範子　技師　土橋明梨紗　樋口太地
6. 本書の執筆は、穂積・原田・中村・水谷・土橋・樋口があたり、文責は目次に記した。編集は原田が担当し、写真撮影は水谷・中村が行った。
7. 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

1. 本書では、国土地理院発行の1:25,000地形図「津東部」「津西部」「白子」「椋本」、三重県共有デジタル地図の1:2,500地形図を用いた。
三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合の承認を得て使用した（承認番号：令和2年4月1日付け、三総合地第2号）。
2. 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。
3. 標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。
4. 本書で用いた遺構略号は以下のとおりである。
S B : 堀立柱建物 S A : 柱列 S E : 井戸 S K : 土坑 S D : 槽 S R : 流路・旧河道
S Z : 不明遺構 Pit : 柱穴
5. 土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、2011年34版）に掲めた。遺物観察表における土器の色調表記もこれに従う。
6. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
 - ・実測番号は当センター所蔵の遺物実測番号である。
 - ・色調は標準土色帖の色名を記す。
 - ・胎土の緻密さは、粗、やや粗、やや密、密の4段階である。
 - ・焼成状態は、不良、やや不良、やや良、良好の4段階である。
7. 写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

目 次

例言・凡例.....	i
目次.....	iii
I 前言.....	(水谷・中村) 1
1 調査の経緯と経過	
2 既往の調査	
3 調査の方法	
4 文化財保護法にかかる諸手続き	
II 位置と環境.....	(徳積) 4
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 小ブケ遺跡（第4次）.....	8
1 基本層序及び遺構.....	(原田) 8
2 遺物.....	(徳積・水谷) 17
3 小結.....	(徳積) 23
IV 石名田遺跡.....	34
1 基本層序及び遺構.....	(原田) 34
2 遺物.....	(土橋・水谷) 46
3 小結.....	(土橋) 55
V 柳垣内遺跡（第2次）.....	69
1 基本層序及び遺構.....	(徳積・中村) 69
2 遺物.....	(土橋) 80
3 小結.....	(徳積) 87
VI 結語.....	94
1 小ブケ遺跡・石名田遺跡・柳垣内遺跡の遺構形成.....	(徳積) 94
2 条里との関係.....	(穂口) 96

挿図目次

第1図 調査区位置図.....	3	第9図 小ブケ遺跡（第4次）S Z423、SD424・Pit17、 S B427、SD433平面図・土層断面図.....	16
第2図 周辺遺跡地図.....	5	第10図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図①.....	18
第3図 安濃城跡概要図.....	7	第11図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図②.....	20
第4図 小ブケ遺跡（第4次）1区西壁土層断面図.....	9	第12図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図③.....	21
第5図 小ブケ遺跡（第4次）2区南壁土層断面図.....	10	第13図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図④.....	22
第6図 小ブケ遺跡（第4次）1区平面図.....	12	第14図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図⑤.....	24
第7図 小ブケ遺跡（第4次）2区平面図.....	13	第15図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図⑥.....	25
第8図 小ブケ遺跡（第4次）SK408・417・420、SD 419平面図・土層断面図・遺物出土状況図.....	15	第16図 石名田遺跡南壁土層断面図①.....	36

第17図	石名田遺跡南壁土層断面図②	37
第18図	石名田遺跡平面図①	39
第19図	石名田遺跡平面図②	40
第20図	石名田遺跡 S D 16遺物出土状況見通し図、 S D 23・27・28土層断面図、S A33・34平面図・ 土層断面図	42
第21図	石名田遺跡 SK 8・15平面図・土層断面図、 SK 40遺物出土状況模式図	44
第22図	石名田遺跡出土遺物実測図①	47
第23図	石名田遺跡出土遺物実測図②	48
第24図	石名田遺跡出土遺物実測図③	50
第25図	石名田遺跡出土遺物実測図④	51
第26図	石名田遺跡出土遺物実測図⑤	52
第27図	石名田遺跡出土遺物実測図⑥	53
第28図	石名田遺跡出土遺物実測図⑦	54
第29図	柳垣内遺跡（第2次）1区南壁土層断面図、 2区西壁土層断面図①	70
第30図	柳垣内遺跡（第2次）2区西壁土層断面図②	71
第31図	柳垣内遺跡（第2次）2区西壁土層断面図③	72
第32図	柳垣内遺跡（第2次）1区・2区平面図①	74
第33図	柳垣内遺跡（第2次）2区平面図②	75
第34図	柳垣内遺跡（第2次）SK 5・6・9・12、 S E 7平面図・土層断面図	77
第35図	柳垣内遺跡（第2次）SD 8・20、SK 10、 SA 23、SR 13平面図・土層断面図	78
第36図	柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図①	81
第37図	柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図②	82
第38図	柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図③	83
第39図	柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図④	84
第40図	柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図⑤	85
第41図	柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図⑥	86
第42図	柳垣内遺跡（第1次）調査出土の 古瀬戸四耳壺	95
第43図	集落域の変遷模式図	96
第44図	調査区の構・流路と条里方向	97
第45図	津市芸濃町萩野付近に残る条里地割	98

表目次

第1表	小ブケ遺跡（第4次）遺構一覧表	27
第2表	小ブケ遺跡（第4次）遺物観察表	29
第3表	石名田遺跡遺構一覧表	57
第4表	石名田遺跡遺物観察表	62
第5表	柳垣内遺跡（第2次）遺構一覧表	89
第6表	柳垣内遺跡（第2次）遺物観察表	90

写真図版一覧

写真図版1	（小ブケ遺跡第4次・遺構1）	101
写真図版2	（小ブケ遺跡第4次・遺構2）	102
写真図版3	（小ブケ遺跡第4次・遺構3）	103
写真図版4	（小ブケ遺跡第4次・遺構4）	104
写真図版5	（小ブケ遺跡第4次・遺構5）	105
写真図版6	（小ブケ遺跡第4次・遺物1）	106
写真図版7	（小ブケ遺跡第4次・遺物2）	107
写真図版8	（小ブケ遺跡第4次・遺物3）	108
写真図版9	（小ブケ遺跡第4次・遺物4）	109
写真図版10	（小ブケ遺跡第4次・遺物5）	110
写真図版11	（小ブケ遺跡第4次・遺物6）	111
写真図版12	（小ブケ遺跡第4次・遺物7）	112
写真図版13	（小ブケ遺跡第4次・遺物8）	113
写真図版14	（小ブケ遺跡第4次・遺物9）	114
写真図版15	（石名田遺跡・遺構1）	115
写真図版16	（石名田遺跡・遺構2）	116
写真図版17	（石名田遺跡・遺構3）	117
写真図版18	（石名田遺跡・遺構4）	118
写真図版19	（石名田遺跡・遺構5）	119
写真図版20	（石名田遺跡・遺構6）	120
写真図版21	（石名田遺跡・遺構7）	121
写真図版22	（石名田遺跡・遺物1）	122
写真図版23	（石名田遺跡・遺物2）	123
写真図版24	（石名田遺跡・遺物3）	124
写真図版25	（石名田遺跡・遺物4）	125
写真図版26	（石名田遺跡・遺物5）	126
写真図版27	（石名田遺跡・遺物6）	127
写真図版28	（柳垣内遺跡第2次・遺構1）	128
写真図版29	（柳垣内遺跡第2次・遺構2）	129
写真図版30	（柳垣内遺跡第2次・遺構3）	130
写真図版31	（柳垣内遺跡第2次・遺構4）	131
写真図版32	（柳垣内遺跡第2次・遺構5）	132
写真図版33	（柳垣内遺跡第2次・遺構6）	133
写真図版34	（柳垣内遺跡第2次・遺物1）	134
写真図版35	（柳垣内遺跡第2次・遺物2）	135
写真図版36	（柳垣内遺跡第2次・遺物3）	136
写真図版37	（柳垣内遺跡第2次・遺物4）	137
写真図版38	（柳垣内遺跡第2次・遺物5）	138
写真図版39	（柳垣内遺跡第2次・遺物6）	139
写真図版40	（柳垣内遺跡第2次・遺物7）	140
写真図版41	（柳垣内遺跡第2次・遺物8）	141

I 前 言

1 調査の経緯と経過

本書で報告する調査は、平成30年度安濃北幹線管渠工事及び令和元年度安濃北幹線管渠工事に伴って実施した、埋蔵文化財の記録保存にかかるものである。当事業の主体は、三重県県土整備部、実施機関は、三重県中南勢流域下水道事務所である。

津市安濃町内多では、下水道管新設に伴う工事が計画されており、周知の埋蔵文化財包蔵地である小ブケ遺跡・石名田遺跡・柳垣内遺跡が事業地内に存在することが明らかになった。そのため、平成24年度に範囲確認調査を実施した。その結果、事業地において、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が存在することが明らかになった。

範囲確認調査を受け、中南勢流域下水道事務所と埋蔵文化財保護に関する協議を行ったが現状保存は困難であるとの結果に達し、記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査が行われた。

調査期間は、小ブケ遺跡（第4次）及び石名田遺跡が平成30年10月22日～平成31年1月8日、柳垣内遺跡（第2次）が令和元年10月7日～12月11日である。各調査進行の概略は、以下の調査日誌（抄）の通りである。

【調査日誌（抄）】

【小ブケ遺跡（第4次）】〔平成30（2018）年〕

第1週（10月22日：1区調査開始～10月26日）

- 0～40m 挖削・記録：SK 401・SD 402・SK 403・SK 404・SD 405・SK 406

第2週（10月29日～11月2日）

- 40～100m 挖削・記録：SK 407・SK 408・SK 409・SR 410

第3～4週（11月8日：2区調査開始～11月16日）

- 0～60m 挖削・記録：SD 411・SD 412・SD 413・SD 414・SD 415・SD 416・SK 417

第5週（11月19日～11月21日）

- 20～100m 挖削・記録：SD 418・SD 419・SK 420・SD 421・SD 422・SB 431

第6週（11月26日～11月30日：調査終了）

- 80～122m 挖削・記録：SD 422・S Z 423・

S D 424・S K 425・S D 426・S B 427・S K 428・S D 429・S D 433

・109mあたりで白磁玉縁碗が出土

【石名田遺跡】〔平成30（2018）年〕

第1週（11月29日：調査開始～11月30日）

- 0～20m 挖削・記録：SR 1・SD 2・SD 3
- 第2週（12月3日～12月7日）
 - 0～90m 挖削・記録：SB 4・SD 5・SK 6・SK 7・SK 8・SD 9・SK 10

第3週（12月10日～12月14日）

- 60～120m 挖削・記録：SK 12・SK 13・SD 14・SK 15・SD 16・SK 17・SK 19・SD 20・SK 21・SD 23・SD 24・SK 25・SK 26・SD 11
- 12月11日：SD 16から綠釉陶器3点等出土

第4週（12月17日～12月21日）

- 100～175m 挖削・記録：SD 27・SD 28・SD 24・SD 23・SD 22・SK 21・SK 25・SK 26・SD 29・30・31・SK 32・SB 33・34

第5週（12月25日～2019年1月8日：調査終了）

- 120～230m 挖削・記録：Pit・SK 36・SD 37・SD 38・SD 39・SK 40・SD 41
- 12月27日：SK 40から土師器甕の他、ロクロ土師器皿が30点以上出土

【柳垣内遺跡（第2次）】〔令和元（2019）年〕

第1週（10月7日：1区調査開始～10月10日）

- 1区1～7 挖削・記録：SR 1
(4mごとに矢板設置、1.5m以深を掘削)

第2週（10月15日～10月16日）・1区7～12

第3週（10月21日：2区調査開始～10月24日）

- 2区1～4 挖削・記録：SR 2

第4～7週（10月28日～11月21日）

- 2区5～28 挖削・記録：SR 2・SD 3・S Z 4・SK 5

第8週（11月25日～11月28日）

- 2区29～35 挖削・記録：SK 6・SE 7・SD 8・SK 9～12・S R 13・SK 14・SD 15

- ・11月25日：SK 12から漆器・炉壁片等出土
- ・11月26日：SR 13から土師器羽釜などが大量に出土

第9～10週（12月3日～12月11日：調査終了）

- ・2区35～46 挖削・記録：SD 15・SD 16・SK 17・SD 18・SK 19・SD 20・SR 21・22

2 既往の調査

小ブケ遺跡では、これまでに三重県埋蔵文化財センターにより、二度の発掘調査が行われている。

第1次調査は、平成25年度に行われ、調査地は第4次調査の南東の農道部分である。（第1図）第1次調査の面積は570 m²で、主な遺構として堅穴建物4棟、土坑9基、溝14条、自然流路3条、柱穴多数が確認されている。遺構のほとんどは、弥生時代後期後葉～古墳時代前期のものであった¹⁾。

第3次調査は、平成29年度に行われ、調査地は第1次調査の南東の農道部分である（第1図）。第3次調査の面積は235 m²で、主な遺構として、堅穴建物3棟、土坑2基、溝16条、自然流路6条、柱穴多数が確認されている。弥生時代中期中葉や古墳時代前期の堅穴建物が検出された²⁾。

なお、小ブケ遺跡は、平成25年11月に津市教育委員会によっても電柱新設に伴う工事立会が行われている。

柳垣内遺跡は、これまでに三重県教育委員会文化課による発掘調査が行われている。昭和53年の県営圃場整備事業に伴うもので、幅2m、長さ60mの排水路部分において本調査を行った³⁾。調査の結果、土坑、溝などの遺構および、鎌倉時代から室町時代の山茶桜・山廬・古瀬戸・土師皿・鍋片等が多数出土した⁴⁾。この第1次調査が行われた調査地点は現在の石名田遺跡中央部に該当すると思われる⁵⁾。なお、石名田遺跡としての発掘調査は今回が初めてであるため、発掘調査次数は石名田遺跡（第1次）、柳垣内遺跡（第2次）とした。

3 調査の方法

（1）調査区の設定

調査区は直線区間ごとに区切り、小ブケ遺跡（第4次）で1・2区、石名田遺跡で1区、柳垣内遺跡（第2次）で1・2区を設定した。

（2）掘削と記録保存

碎石層及び耕作土層は重機で掘削を行い、遺構検出・遺構掘削は人力で行った。

遺構平面図・土層断面図は、当センター職員による手測りで作成した。なお、実測に用いた基準点は国土座標をもとに設定した。

写真の撮影には、一眼レフデジタルカメラを用いた。遺構写真は、ニコンD3300で撮影し、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いた。

遺物写真は、ニコンD800Eを用いた。

4 文化財保護法にかかる諸手続

本発掘調査に伴う埋蔵文化財の文化財保護法等に関係する法的措置は、以下のとおりである。

- ① 文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（県教育委員会教育長あて三重県知事通知）

〔小ブケ遺跡（第4次）・石名田遺跡・柳垣内遺跡（第2次）〕

・平成24年12月14日付け、中下第455号

- ② 文化財保護法第100条第2項に基づく「埋蔵文化財の発見・認定通知」（津警察署長あて県教育

委員会教育長通知）

〔小ブケ遺跡（第4次）・石名田遺跡〕

・平成31年2月6日付け、教委第12-4424号

〔柳垣内遺跡（第2次）〕

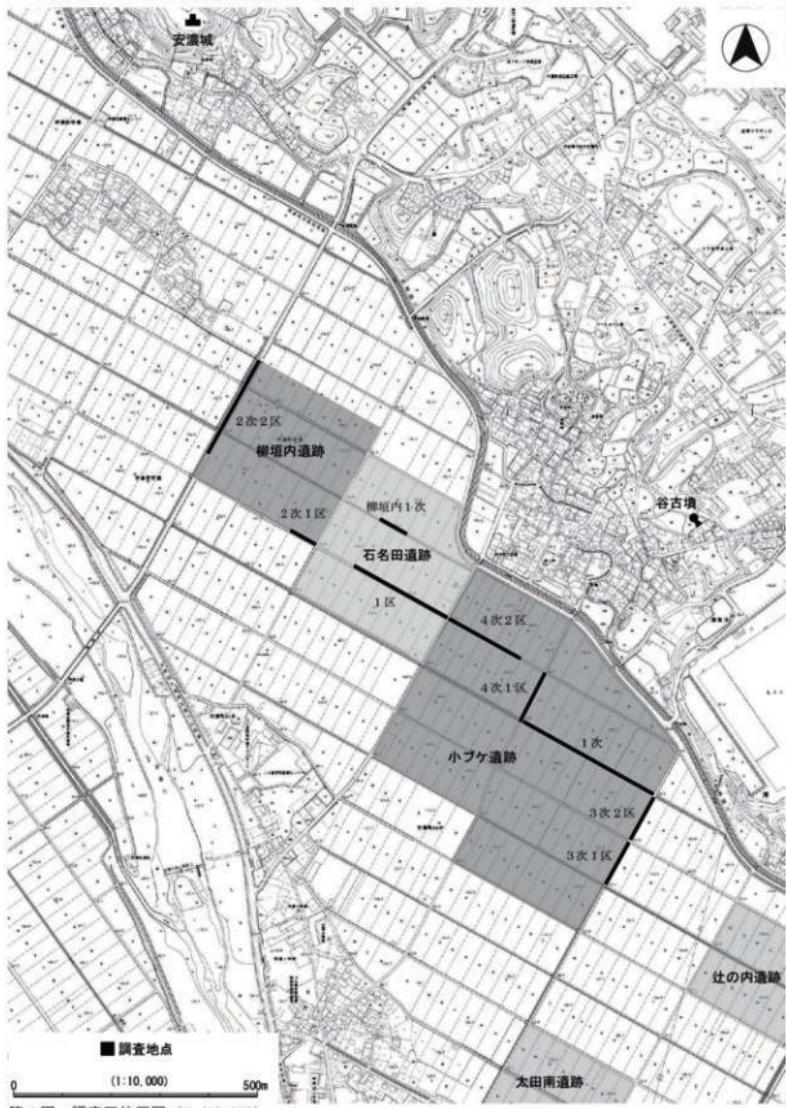
・令和2年1月28日付け、教委第12-4419号

註

- 1) 三重県埋蔵文化財センター 2015『小ブケ遺跡発掘調査報告』
- 2) 三重県埋蔵文化財センター 2019『小ブケ遺跡（第3次）発掘調査報告』
- 3) 安濃町史編纂委員会 1994『安濃町史 資料編』

- 4) 三重県教育委員会 1978『三重県埋蔵文化財年報8』
5) 柳垣内遺跡（第1次）発掘調査の報告書は未刊行であり、
調査地点については、埋蔵文化財包蔵地調査カードをも

とに推定した。
三重県埋蔵文化財センター『埋蔵文化財包蔵地調査カード』（記載は1978年頃と推定）



第1図 調査区位置図 (1/10,000)

II 位置と環境

1 地理的環境

小ブケ遺跡（1）・石名田遺跡（2）・柳垣内遺跡（3）は、津市安濃町内多に所在し、二級河川・安濃川左岸の沖積地に位置している。

安濃川は、標高約677mの布引山系錦杖ヶ岳付近に源を発し、標高819mの経ヶ峰を回り込んで平野部に出て南東方向へ流れ、途中流路を東側へ転じた後、伊勢湾に注ぐ総延長28.9kmの河川で、このうち三重県が管理する二級河川としての安濃川は延長23.9km、流域面積110.7km²である¹⁾。

安濃川左岸域は、津市芸濃町萩野から東南方向に延びて、津市安濃町を経て津市觀音寺町に至る標高50~80mの高位段丘である見当山丘陵（=長岡丘陵）によって北東側を画され、その丘陵裾を安濃川から

の分流水路である美濃屋川が流れている。安濃川左岸域の水田は、基本的に美濃屋川から取水し、水田を潤わせた後、安濃川へ排出される。ただし、美濃屋川は、現在の水路に固定化される以前は、かなり蛇行を繰り返す流路であり、残された地割からも流路変更や分流が頻繁に繰り返されていた状況が看取される。

内多地区は、安濃川および美濃屋川によって形成された河岸段丘、自然堤防、沖積平野などによって構成される。このうち、小ブケ遺跡・石名田遺跡・柳垣内遺跡の所在地は、美濃屋川右岸の沖積地に相当する。

2 歴史的環境

当地域の歴史的展開については、すでに小ブケ遺跡の第1次調査及び第3次調査の報告書で詳述されているため²⁾、ここでは石名田遺跡と柳垣内遺跡の盛期がある古代から中世について、簡単に触れておきたい。

遺跡のある安濃川左岸域の内多地区は、令制の安濃郡に属しており、『倭名類聚抄』に記載された内田郷にあたると推定されている³⁾。安濃郡の郡衙は現在まで発見に至っていないが、安濃郡の中心的な集落群は安濃川対岸の右岸域の沖積部の微高地上にあり、なかでも浄土寺南・米買遺跡⁴⁾では、縁袖陶器や円面鏡をもち、倉庫群を伴う有力な古代集落が出現する。また、近傍の三反田遺跡では、かつて均整唐草文軒平瓦や八葉複弁蓮華文軒丸瓦などが採集されており⁵⁾、浄土寺集落を含む一帯が古代安濃郡の中心城のひとつであったようだ。

一方、石名田遺跡などがある左岸域は、浄土寺南・米買遺跡など右岸域の有力古代集落に肩を並べるほどの古代集落は知られてなかったが、今回、石名田遺跡から相当数の縁袖陶器が出土し、遺物のうえでは右岸域の有力集落にも遜色しない集落の存在が明らかとなった。今回の石名田遺跡の発掘は、狭いト

レンチ調査だったため、遺構の全貌を示すことができず、その多くは未解明のままだが、今後、注視していく必要のある遺跡である。

左岸域で注目されるのは、見当山丘陵に所在する宮ノ裏B遺跡では竪穴建物内から鉄造に用いたとみられる銅製の取瓶が⁶⁾、また宮ノ裏A遺跡では埴輪が出土し⁷⁾、金属器鉄造に関わる集団の存在が窺えることである。これらの遺跡は、集落としては小規模な掘立柱建物や竪穴建物が散在するだけだが、すぐ東側には古墳時代の所産である須恵器・埴輪併焼窯である内多古窯跡群があり⁸⁾、手工業生産に関わる諸施設が丘陵内に散在していた可能性が提起される。

そして、宮ノ裏B遺跡や内多古窯跡群から谷筋を東側に下ると、旧芸濃郡の志登茂川流域に至り、古墳時代から古代にかけての有力遺跡である六六A遺跡や六六B遺跡とも至近の位置関係となる。六六A遺跡までは伊勢湾から志登茂川を遡って舟が登ってきたことが推定されており、実際、現状で列島最大となる準構造船の波切堅板も出土している⁹⁾。この六六A遺跡から谷筋を通って内多古窯跡群を経て安濃川左岸域に至るルートは、志登茂川流域と安濃川



1 小ブケ遺跡	15 内多馬場A・B遺跡	29 淨土寺南・米貫遺跡	42 横堀内遺跡	56 君ヶ尾城跡	70 山の下古墳群
2 石名田遺跡	16 内多古窯跡群	30 辻の内遺跡	43 六大A遺跡	57 草生城跡	71 大塙古墳群
3 露垣内遺跡	17 大城遺跡・大城古墳群	31 太田南遺跡	44 六大B遺跡	58 前田城跡	72 平岡古墳群
4 露林院青木遺跡	18 筒井東遺跡	32 曽根北溝遺跡	45 安養院跡	59 二子城跡	73 明合古墳
5 下川遺跡	19 清水田遺跡	33 曽根東溝遺跡	46 逢田大塙内遺跡	60 井圓城跡	74 日野丘1号墳
6 稲本南方遺跡	20 世古遺跡	34 清水北溝遺跡	47 石切山遺跡	61 家所城跡	75 長谷山村古墳
7 松山道跡	21 多倉田遺跡	35 泉遺跡	48 高野尾遺跡	62 速郎城跡	76 東谷古墳群
8 大塙久保遺跡	22 川西塙田遺跡	36 中跡部遺跡	49 野呂氏新跡	63 今使城跡	77 谷古墳
9 善妻・リロ遺跡	23 コモラ遺跡	37 松ノ木遺跡	50 露林院城跡	64 安濃城跡	
10 出屋敷遺跡	24 挿田遺跡	38 太田遺跡	51 前山城跡	65 藩ヶ森城跡	
11 桜垣内遺跡	25 井坪遺跡	39 森山東遺跡	52 萩野城跡	66 淨土寺城跡	
12 柱遺跡	26 中井・藤ヶ森遺跡	40 長道跡	53 岡本城跡	67 太田城跡	
13 宮ノ裏A遺跡	27 ゆふけ道跡	41 大古曾遺跡	54 城坂城跡	68 雄谷中世墓	
14 宮ノ裏B遺跡	28 三反田遺跡	42 大古曾遺跡	55 山出城跡	69 瞳合中世墓群	

第2図 周辺遺跡地図 (1/50,000) (国土地理院1/25,000『津東部』『津西部』『白子』『棕本』)

流域を結ぶルートとして古くに遡ることが遺跡分布からも窺えるが、志登茂川流域からこのルートを経て安濃川左岸域に出たところが、まさに小ブケ遺跡や石名田遺跡、柳垣内遺跡の所在地となる。

10世紀後半以降になると、安濃郡は東大寺領も含むが、多くが伊勢神宮領となり¹⁰、遅くとも平安時代末頃には条里制が施行されていたらしい。ちなみに下流域の情報ではあるが、安濃川流域の条里地割の方位は、N 30° Eとされている¹¹。

なお、安濃川左岸の津市芸濃町松山遺跡では、平安時代の駅路かとみられる道路遺構が発見されている¹²。平安時代の安濃郡内の駅路は、右岸の沼瀬原を避けて安濃川左岸を通っていたとの想定があり¹³、今回の調査遺跡との関連でも注意される。

南北朝以降、安濃郡及び庵芸郡南部は現在の津市美里町北長野の長野城に拠った国人領主・長野氏の支配となる。長野氏は、安濃城や草生城（ともに津市安濃町）、家所城（津市美里町）、雲林院城（津市芸濃町）など大型の支城に一族衆や有力被官を配して領城支配を推し進めたと考えられ、さらにその下位には、それぞれの在地支配の拠点となる小規模な城館があり、連部城や今徳城跡、藤ヶ森城跡、前田城跡など安濃川右岸域の諸城¹⁴はこれにあたるとみられる。

そして、それら右岸域の諸城を統括したとみられるのが、柳垣内遺跡の北方丘陵端部に所在する安濃城である。安濃城は、16世紀に長野氏の分家、細野氏により築城されたと伝えられ、巨大な四方土壘に囲繞された主郭の東側に、四方もしくは三方土壘を伴う方形区画が500mにわたって累々と続く中勢地域屈指の城跡である¹⁵。城将以下、一族・家臣など膝下の多くの者が集住しうる機能を備えていた。

城跡の南側の丘陵下には、古代から中世の遺物が多く散布する出屋敷遺跡と桜垣内遺跡が連なっており、安濃城の城下の様相を呈している。このうち出屋敷遺跡では、中世瓦片も採集されており、注目される¹⁶。

桜垣内遺跡の東側に位置する柳垣内遺跡も、これら集落の一連として、安濃城との密接な関係を有していたとみられる。前述のように、柳垣内遺跡では昭和53年には県営圃場整備事業に伴う柳垣内遺跡の

発掘調査（現在の遺跡地図上では石名田遺跡地内）が排水路部分の幅2m×長さ60mを対象に行われており、土坑、溝などの遺構と、鎌倉時代から室町時代にかけての山茶碗・山皿・古瀬戸・土師器皿・鍋片等の出土遺物が多数出土している¹⁷。年代的には安濃城の存続年代とも一部重なっているとみられるところから、同時代のものを含むとみてよからう。なお、同発掘調査では、それよりも先行する14世紀頃とみられる古瀬戸の菊花文四耳壺も出土しており¹⁸、安濃城築城以前の当地に拠った有力者層の存在を窺わせている。

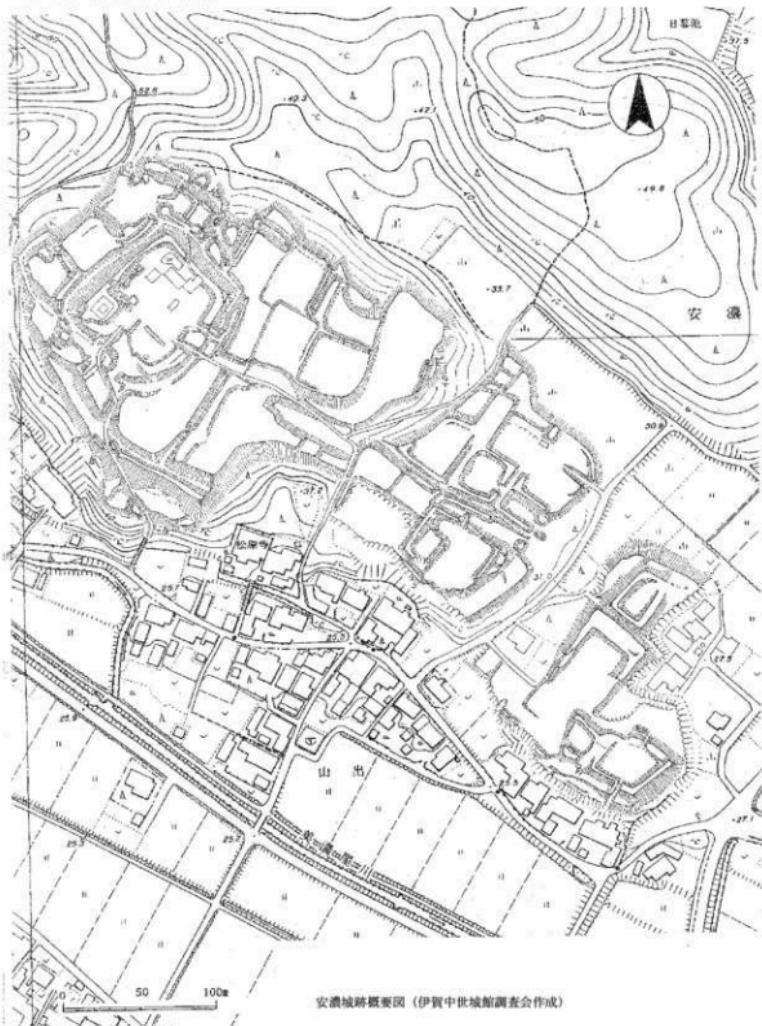
また、小ブケ遺跡とは美濃屋川を挟んだ北東側対岸に位置する大城遺跡では、全11基で構成される中世墓群があり、常滑や瀬戸産の藏骨器等が出土している¹⁹。安濃川流域や見当山丘陵を超えた志登茂川流域にはこうした中世墓が点在しており、当地域の中世社会構成を考えるうえで集落・居館／居宅とともに重要な資料となっている。

註

- 1) 三重県2004『安濃川水系河川整備基本方針』
- 2) 三重県埋蔵文化財センター-2015『小ブケ遺跡発掘調査報告』、2019『小ブケ遺跡（第3次）発掘調査報告-津市安濃町内多一』
- 3) 安濃町史編纂委員会編1999『安濃町史』通史編 安濃町
- 4) 元々は別の遺跡として把握されていたが、下記文献より一括把握されている。津市教育委員会2011『三重県津市遺跡地図』。なお、遺跡の詳細は、下記による。中村信裕「安芸郡安濃町」 津土寺南遺跡;『昭和55年度県営圃場整備事業地城埋蔵文化財調査報告』三重県教育委員会、早川裕巳「安芸郡安濃町」 津土寺米賀遺跡;『昭和56年度県営圃場整備事業地城埋蔵文化財調査報告』三重県教育委員会
- 5) 安濃町史編纂委員会編1999『安濃町史』資料編 安濃町
- 6) 安濃町教育委員会・安濃町遺跡調査会1998『宮ノ垂B遺跡発掘調査報告書』
- 7) 前掲註5)
- 8) 前掲註5)
- 9) 三重県埋蔵文化財センター-2002『一般国道23号中勢道路（8工区）建設事業に伴う六大陸A遺跡発掘調査報告』前掲註3)
- 11) 仲見秀雄1979「庵芸・安濃・一志郡の条里」『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版
- 12) 宮田勝功2008『松山遺跡』『三重県史資料編考古2』三重県
- 13) 米山浩之1999「安濃郡の駅路の想定」『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う位田遺跡発掘調査報告』三重県埋

蔵文化財センター

- 14) 前掲註5)、三重県教育委員会1976『三重の中世城館』
15) 前掲註5)
16) 前掲註5)。なお、町史段階で出屋敷遺跡は出屋敷A・B・Cの3遺跡として把握されており、中世瓦の散布はこのうちの出屋敷A遺跡の部分。
- 17) 三重県教育委員会1977『三重県埋蔵文化財年報8』、前掲註5)
18) 三重の考古遺物編集委員会1981『三重の考古遺物』、前掲註5)
19) 安濃町教育委員会他 1998『大城遺跡発掘調査報告書』



第3図 安濃城跡概要図(伊賀中世城館調査会提供)

III 小ブケ遺跡(第4次)

1 基本層序及び遺構

a 基本層序

小ブケ遺跡は、石名田遺跡の南東に隣接している。第4次調査区は、小ブケ遺跡でも中央から西側に位置している。調査区は2箇所に分かれ、1区は遺跡中央に近い箇所を南北方向に入れた約1.8m、長さ99.4mのトレーナーである。1区北端から西へ50mで2区東端に至る。2区は幅約1.8m、長さ122mである。2区西端は石名田遺跡の東側に接している。

1区現地表の標高は、南端で約19.5m、北へ向かって徐々に低くなり南端から45mで19.4mとなる。さらに北へは高くなり、北端で19.85mとなる。層序は、基本的に上からアスファルト、造成土、旧水田、15・33などのオリーブ褐色シルト～暗褐色シルト層が堆積する。調査区南端から15m以北で旧水田の層序(13・14層)が確認できる。旧水田が認められない調査区南端は造成土直下で古墳時代初頭の遺構があり、当時の地盤はやや高かったと思われる。

2区現地表の標高は東端で19.6m、西へ向かって徐々に高くなり、西端で約20.5mとなる。層序は、基本的に上からアスファルト、造成土、旧水田、オリーブ褐色や暗黃灰色、暗黃褐色シルト(23・30・34層)が堆積し、その下層50・51層で地山に至る。調査区東端から約60m以西は23層直下から遺構の掘削が認められるが、60m以東は23層直下と30層直下、34層直下から遺構掘削が認められる。調査区東半では、遺構の掘削面が複数みられるものの、地山となる50・51層の直上で検出した。

本体工事の進捗に合わせて調査したため、1区の遺構番号は基本的に南から北に向かって、2区は東から西に向かって、順次付与した。今回の報告は調査区毎で、遺構番号順に記述する。

b 1区遺構

S K 401 西側が調査区外となるが、長径1.32m以上×短径1.95mの楕円形を呈する。検出面から深さ0.72mを測る。層序からS K 406より新しく、S K 403より古い。埋土から古墳時代初頭の土師器が多く出土した。

S D 402 幅約2.76m、検出面から最深で0.37mの断面不整形で、方位はN 38° Wである。後述する流路帯S R 432の埋積層から掘削している。埋土から古墳時代前期～中期の土師器が出土している。

S K 403 S K 401の北に接している。0.38以上×1.12m以上、深さ0.42mである。層序からS K 401より新しく、S K 404より古い。埋土から、古墳時代初頭の土師器が出土した。

S K 404 S K 403の北に接し、0.37以上×1.00m、深さ0.32mである。S K 403より新しい。埋土から、古墳時代初頭の土師器が出土した。

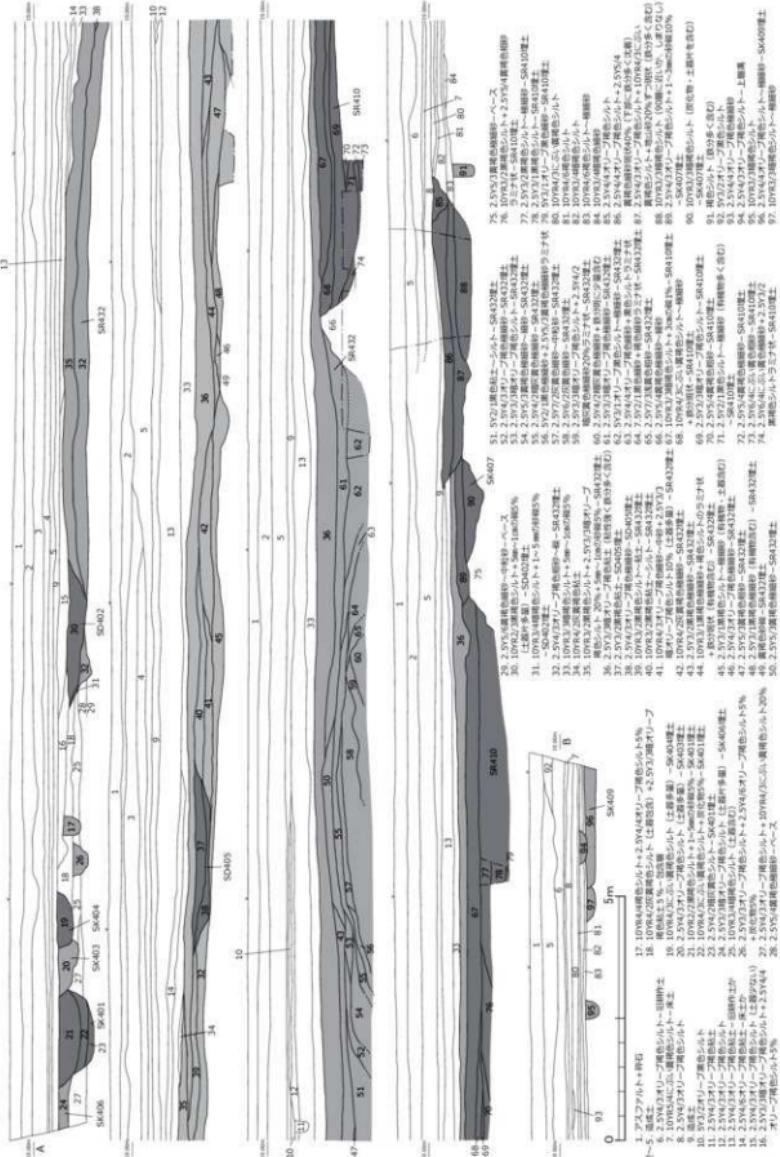
S D 405 幅1.46m、検出面からの最深0.32mの浅い皿状の溝である。向きはN 47° Eである。後述する流路帯S R 432がその都度流れを変えるなか、S D 405を掘削、S D 405の埋積後、更に洪水等に伴う堆積で覆われたとみられる。

埋土から古墳時代前期の土師器片が出土している。
S K 406 調査区南端で確認した。南側・西側が調査区外となり、北側はS K 401と重複しているため規模は不明である。検出面からの最深0.25mである。層序からS K 401より古い。

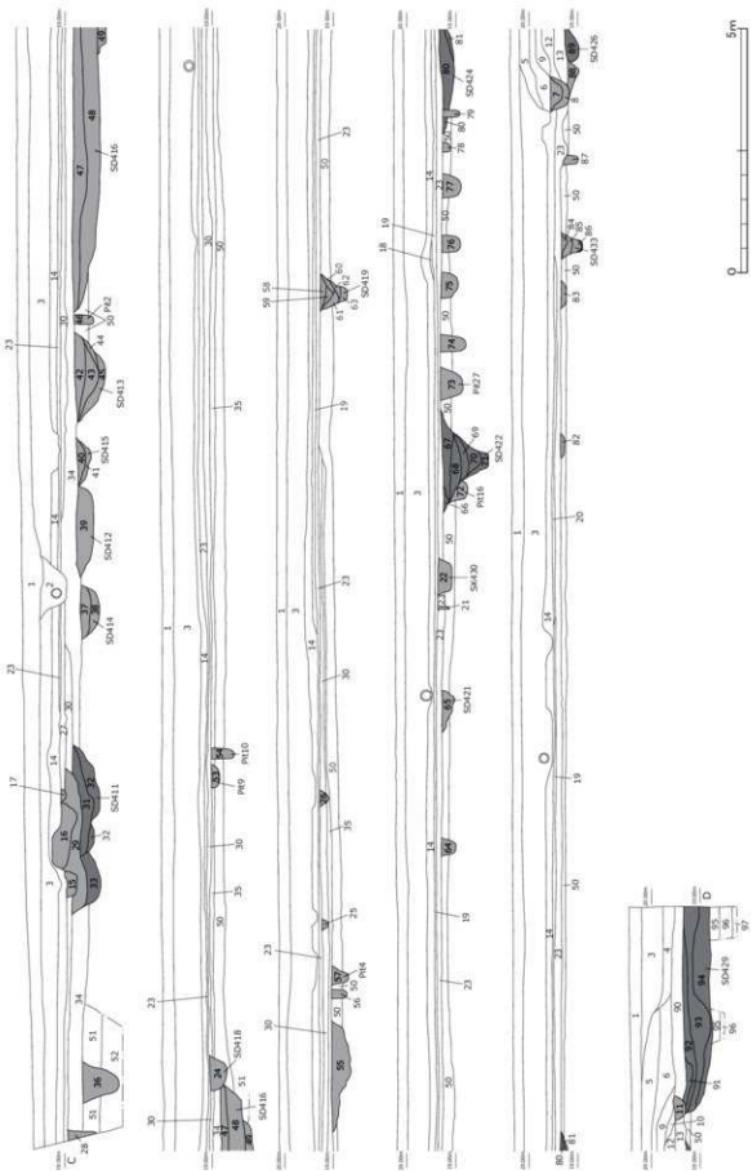
埋土から古墳時代初頭の土師器片が出土している。
S K 407 3.00×0.45m以上、検出面からの深さ0.60mである。層序からS R 410より新しい。土師器小片が出土したのみである。

S K 408(第8図) 東側が調査区外となり全容は不明だが、2.80以上×1.75m以上の隅丸方形を呈するようみえる。堅穴建物の可能性も考えたが、壁周溝や柱穴、貯蔵穴、床面の硬化などは認められず、土坑とした。埋土から近世陶器小片が出土したが、混入とみられる。

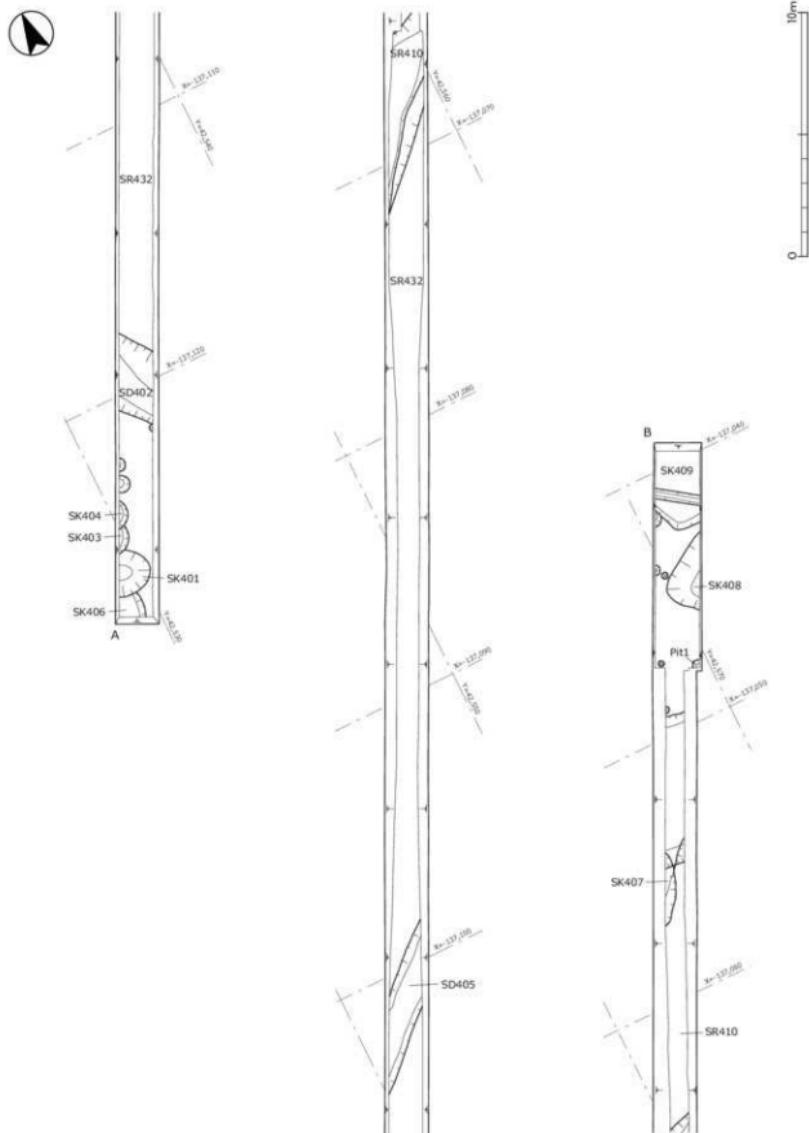
S K 409 調査区北端で確認した。遺構の南端のみ確認でき全容は不明だが、3.00以上×3.00m以上の隅丸方形を呈するようみえる。S K 408と同様、堅穴建物の特徴を示す要素が確認できなかったため、土坑とした。遺物は確認できなかった。



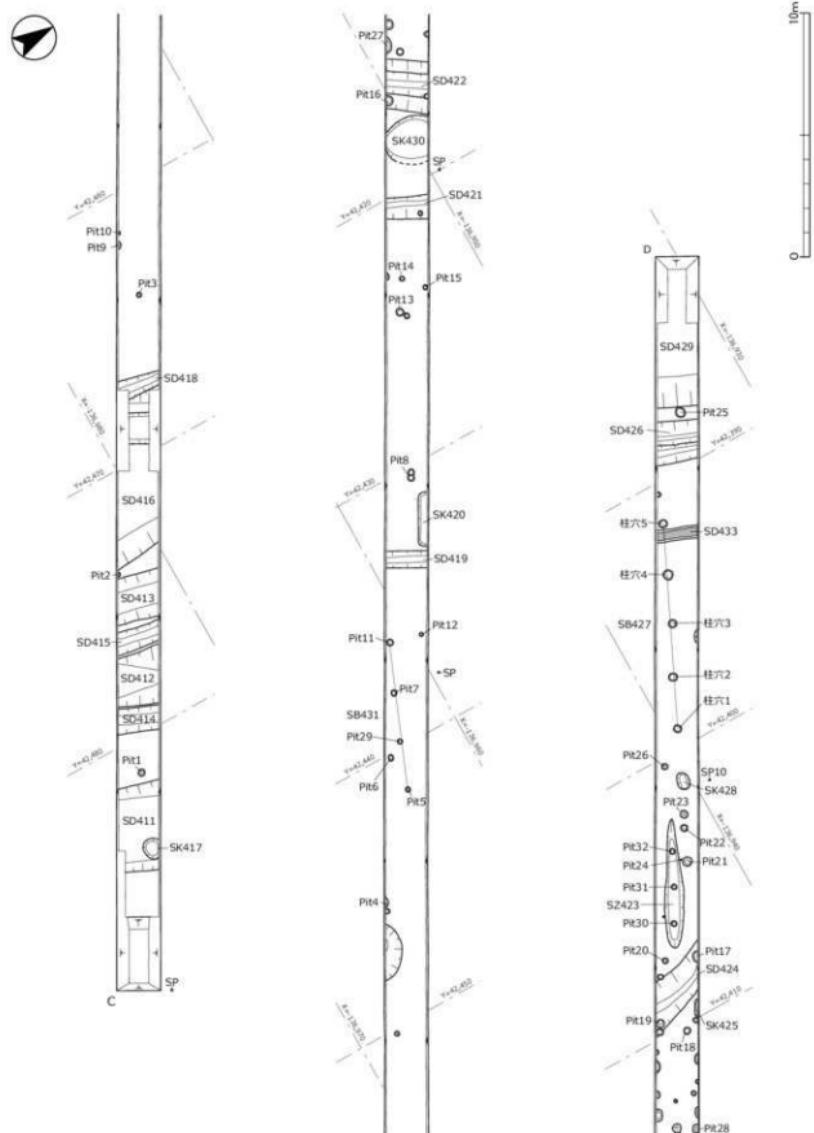
第4図 小ブケ遺跡（第4次）1区西壁土層断面図（1/100）



第5図 小ブケ遺跡（第4次）2区南壁土層断面図（1/100）



第6図 小ブケ遺跡（第4次）1区平面図（1/200）



第7図 小ブケ遺跡（第4次）2区平面図（1/200）

S R 410 調査区南端から63~83mで確認した。幅18m以上で、埋土にはシルト~粗砂まで複雑に堆積している。調査区の幅が狭く、安全を考慮して部分的に深掘りしたため、底の深さは不明である。調査区南壁の層序からS R 410の上に後述するS R 432が覆っている。また、S K 407より古い。

埋土上層からは古式土師器片が出土している。

S R 432 調査区南端から11~82mで確認した。いくつかの流路が流れを変え、流路帯となる。埋積する過程でS D 405を掘削、S D 405の埋積後、更に洪水等に伴う堆積で覆ったとみられる。最上層は粘土層でほぼ溝水し安定した地盤となる。S R 432埋積後、S D 402を掘削していることから、古墳時代中期までには埋没したと考えられる。埋土から弥生時代後期から古墳時代前期までの土器が出土した。

Pit 1 調査区南端から90mで確認した。埋土から、土師器小片が出土したのみである。

c 2区遺構

S D 411 調査区東端から6mで確認した。幅3.6m、検出面からの深さ0.56mである。調査区南壁をみると33層の堆積後改めて掘削したのか、断面不整形である。向きはN 21° Eを示す。

埋土から、図示したものの他に、土師器皿・鍋、ロクロ土師器、灰釉陶器小片が出土している。

S D 412 調査区東端から13mで確認した。幅2.32m、検出面からの深さ0.36mである。断面形は皿状を呈す。向きはN 27° Eを示す。

出土遺物は、図示したもののみである。

S D 413 調査区東端から16mで確認した。幅1.90m、検出面からの最深0.64mの断面形U字状の溝である。向きはN 12° Eである。

埋土からは、図示したものの他、土師器甕、ロクロ土師器皿片が出土している。

S D 414 S D 412の東側で確認した。幅1.02m、検出面からの深さ0.4mである。断面形はU字状を呈す。向きはN 25° Eを示す。

埋土から、平安~鎌倉時代とみられる土師器小片が出土したのみである。

S D 415 S D 412とS D 413の間で確認した。幅0.92m、最深0.30mの断面不整形を呈す。向きは

S D 413と同じで、N 12° Eである。

埋土から、11世紀から12世紀にかけての遺物が出土している。

S D 416 S D 413の西で確認した。幅6.20m以上、最深で0.62mである。向きはほぼ南北を示す。S D 418より古い。埋土からは、11世紀から12世紀にかけての遺物が出土している。

S K 417 (第8図) S D 411の掘削を進めたところで確認した。0.85×0.74mの梢円形を呈す。埋土から、図示できなかったが山茶椀の小片が出土した。

S D 418 S D 416の西側で確認した。幅0.80m、最深0.34mで、断面形U字状である。埋土から、図示し得るものはなかったが、平安から鎌倉時代とみられる土師器、陶器小片が出土している。

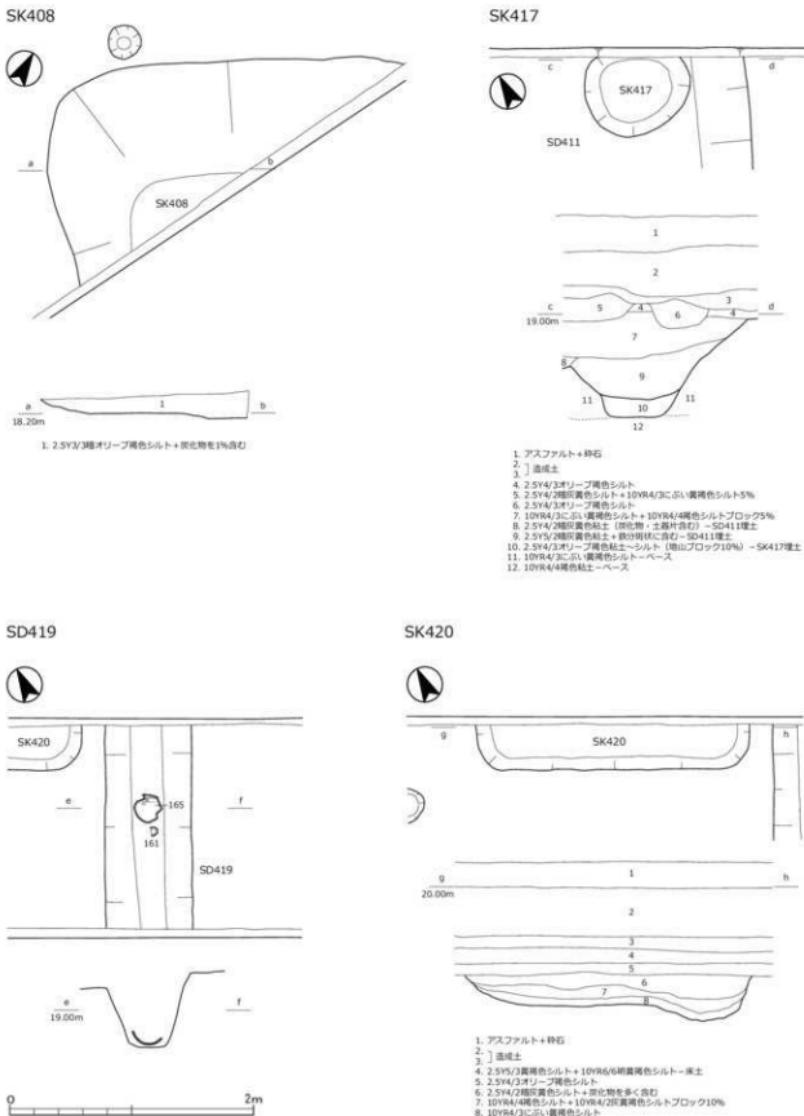
S D 419 (第8図) 調査区東端から64mで確認した。幅0.7m、最深0.57mで断面形はややV字状である。向きはN 28° Eを示す。埋土からは、12世紀から13世紀代の遺物が出土している。

S K 420 (第8図) S D 419の西側で確認した。長さ2.2m、最深部0.38mで北側が調査区外となる。埋土から、図示したものの他、土師器甕ないしは鍋、ロクロ土師器、灰釉陶器小片も出土している。

S D 421 調査区東端から78mで確認した。幅1.00m、最深で0.48mの断面不整形の溝である。向きはN 26° Eを示す。埋土からは図示できなかったが、土師器甕、ロクロ土師器、黒色土器、山茶椀小片が出土している。

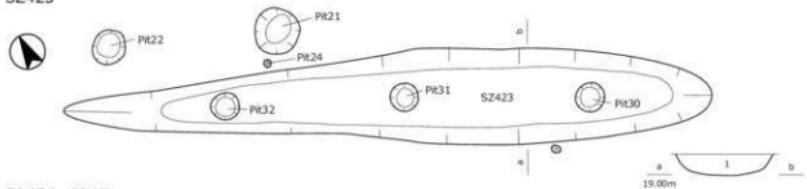
S D 422 調査区東端から83mで確認した。幅2.04m、検出面からの最深0.94mである。断面形はV字状を呈す。向きはN 36° Eを示す。埋土からは図示したものの他に、土師器、ロクロ土師器、黒色土器、常滑産陶器片が出土している。

S Z 423 (第9図) 後述するS D 424の西側で確認した。長さ5.30m×幅0.78m、検出面からの深さ0.18m、不整の長梢円形を呈す。底部に1.5m等間の柱列2間分を確認した。調査区が狭いため、南北方向の広がりが不明瞭であるが、掘立柱建物の基礎を布縦状に掘削した可能性がある。当初、土坑としていたが、不明遺構として報告する。埋土から、図示できなかったものの、土師器、灰釉陶器小片が出土している。

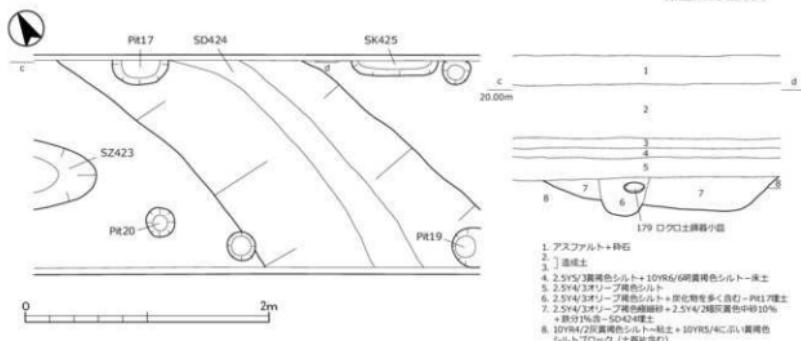


第8図 小ブケ遺跡（第4次）SK408・417・420、SD419平面図・土層断面図・遺物出土状況図（1/40）

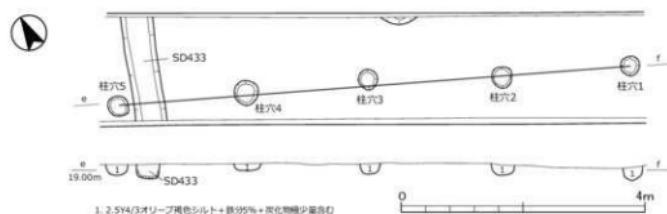
SZ423



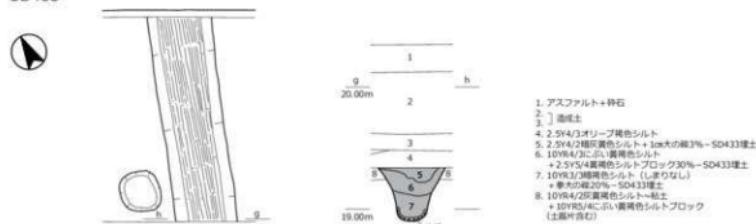
SD424・Pit17



SB427



SD433



第9図 小ヶ遺跡(第4次) SZ423、SD424・Pit17、SB427、SD433平面図・土層断面図(SB427=1/80、その他=1/40)

S D 424 (第9図) 調査区東端から90mで確認した。幅1.54m、深さ0.32m、断面形は不整形を呈し、西側が浅く、東側が深い。向きはN20°Wを示す。遺物は認められなかった。

S B 427 (第9図) 調査区東端から約102~111mで確認した。東から、柱穴1~5となり、主軸はW26°N、2.1m等間である。柱穴底の標高は、東から19.04、19.13、19.16、19.18、19.11mとばらつきがあり、柱穴1が最も低い。調査区が狭く、柱列で確認したが、掘立柱建物の可能性が高い。建物を構成する柱穴は、柱穴1が0.32×0.30mの楕円形、柱穴2が0.35×0.33mの楕円形、柱穴3が0.35×0.32mの楕円形、柱穴4が0.40×0.40mの円形、柱穴5が0.34×0.32mの楕円形である。

S K 430 S D 421とS D 422の間で確認した。調査区南壁の観察から、S D 421やS D 422を覆う23層からの掘削が認められ、これらの溝より新しい。

埋土からは、土師器小片のみ出土した。

S B 431 調査区東端から約54~60mで確認した。東からPit 5・29・7・11で、主軸はW21°N、2.05m等間である。柱穴底の標高は、東から18.72、18.70、18.65、18.75mとばらつきがある。調査区が狭く、柱列で確認したが、掘立柱建物の可能性が高い。埋土からはPit 5から山茶楢小片、Pit 7・11から時期不明の土師器小片が出土したのみである。

S D 433 (第9図) S B 427の西側柱の内側に位置する幅0.5m、深さ0.44mの溝で、底面に竹櫛が敷かれている。向きはN21°EでS B 427とおむね直交し、西側柱列のすぐ内側に存在するが、S B 427と同時存在かどうかは不明である。竹櫛は、径3cm程の細竹を平行に樋状に組まれたもので、幅広

で若干外側に向けて立ち上がるU構形断面を呈している。竹櫛は溝の底面から法面に貼り付いた状態で存在した。土器等の出土遺物はなかった。

2区では、石名田遺跡ほどではないが、Pitを多数確認した。Pitも、東から調査を進め、検出・掘削し、基本的には遺物が出土したものに、1番から順次付与している。結果、Pit 32まで附番した。また、S B 427を構築する柱穴は、調査時に柱穴1~5まで附番していたため、そのまま報告する。

Pitは調査区東端から24mのS D 418以西で少しずつみられるようになり、Pitが重複する程ではないが、調査区西端の溝まで認められる。

Pitの中には、3間ないしは4間の等間に並ぶ柱列となるものも確認でき、掘立柱建物になる可能性が高い。Pitについては、規模等基本的な情報は遺構一覧表に掲載し、主だったもののみ記述する。

Pit 5 S B 431を構成する東側の柱穴である。0.22×0.20mの楕円形である。山茶楢小片が出土している。

Pit 7 S B 431の東から3番目の柱穴である。0.27×0.24mの楕円形である。時期不明の土師器小片のみ出土している。

Pit 11 S B 431の最も西に位置する柱穴である。0.27×0.27mの円形である。時期不明の土師器小片のみ出土している。

Pit 17 (第9図) 調査区東端から93mの北壁付近で確認した。0.46×0.20m以上の規模となる。S D 424より新しい。埋土から、ロクロ土師器を中心とした遺物が多数出土している。

Pit 29 S B 431の東から2番目の柱穴である。0.20×0.20mの円形である。遺物の出土はなかった。

2 遺 物

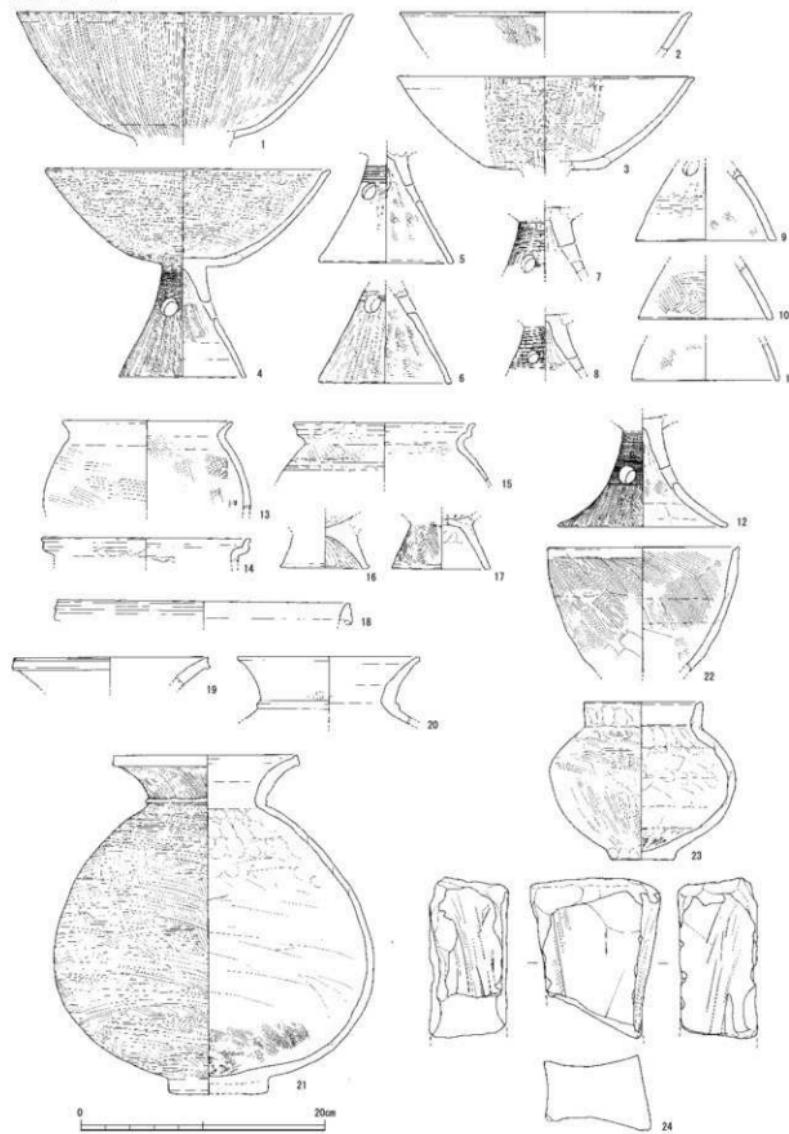
a 1区出土遺物

S K 401 (1~24) 古墳時代初頭から前期に属する土師器と砥石がある。1~6・9~11は有稜高杯、12は楕状高杯脚部、13~17は甌、18~21は壺、22は小形鉢、23は小形短頸甌、24は砥石である。高杯は、いずれも概ね圓窓II式後半に相当しよう¹³⁾。有稜高杯3・4は、いずれも高杯の内面をタテミガキ後ヨコミガキしている。有稜高杯脚部はやや内溝傾向が

あり、一方楕状高杯は脚根がラッパ状に開くが、楕状高杯は当初より外反しているので、基本的に同時期とみてよかろう。14・15はS字甌で、14はA類、15はB類で若干の時期幅がある。18は、肥厚させた口縁端部に擬回線を入れる広口壺で、やや古相を示す。

S K 403 (25~35) いずれも古墳時代初頭の土師器である。25・26はく字形甌、27~31はS字甌、32

SK401 (1~24)



第10図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図① (1 / 4)

は小形鉢、33は器台、34は有稜高杯脚部、35は蓋である。このうち、26は口縁部が内湾して端部を肥厚させた布留式系の甕、27~31はS字甕A類、33は受部が2段に屈折する器台で、六大A遺跡・雲出島貢遺跡とともに器台Bとしたものに相当する。蓋35は、口縁部を欠損するが、広口蓋に復元できるであろう。

S K 404 (36~42) 古墳時代初頭の土師器である。36・37は楕状高杯、38・40は有稜高杯、39はく字形甕、41・42はS字甕。S字甕は小片だが口縁外面に列点がなく、B類とみられる。く字形甕39は口縁部に注ぎ口が付く。

S K 406 (43・44) 43は土師器の無頸鉢である。タテミガキを施した精製品で、古墳時代初頭の所産であろう。44は土師器有稜高杯である。

S D 402 (45~53) 45・46・48は土師器屈折脚高杯、47は楕状高杯、49~51はS字甕、52は短頸壺、53は須恵器杯身である。47とS字甕C類の49は古墳時代前期に属するが、他は中期に属しよう。短頸壺52は、ハケやオサエ痕跡が頗著に残る粗製のもので、口縁部はあまり開かない。須恵器杯身53は、天井部を丁寧にクロコケズリし、シャープな棱をもつTK 208号窯式²¹に相当する。

S D 405 (54~57) 54~56は土師器高杯、57はS字甕A類で、いずれも古墳時代前期に属する。57は、土師器の台付甕である。

S R 432 (58~91) 流路出土ということもあり、弥生時代後期から古墳時代前期まで若干時期幅のある遺物を含む。56・57が弥生後期の弥生土器で、他は古墳時代初頭~前期の土師器である。58・64は楕状高杯、59~63は有稜高杯の杯部、65~66・80~83・88は有稜高杯脚部、67は小形器台もしくは小形高杯の脚部、68は蓋、70・71は甕もしくは蓋の底部、72は蓋底部、73~75は広口蓋、76も蓋だがおそらく短頸甕に復元できるであろう。77・91は受口甕、78・84・90はS字甕、79は小形の高杯ないしは器台の脚部、85は小形有頸鉢、89は六大A遺跡でC1類と分類した小形高杯の杯部である。このうち、広口蓋73は、74・75に比べて口縁部の外反が弱い一方、口唇部の棒状浮文の貼付が丁寧で、弥生後期の可能性もある。

1区包含層 (92~103) 94が弥生時代後期の高杯、

96が弥生土器もしくは土師器の蓋甕類の底部である他は、古墳時代の土師器である。92・93は、楕状高杯もしくは有稜高杯の杯部、94は山中式期の弥生土器高杯、95は有稜高杯脚部、97・98は屈折脚高杯、99~103はS字甕である。97は同一個体として配置したが、杯部と脚部は接合しておらず、別個体かもしれない。その場合、ミガキが頗著な杯部は若干時期が遡るであろう。

b 2区出土遺物

S B 427柱穴4 (104) 104は白磁碗で、口縁外面を玉縁状に肥厚させてている。

S K 417 (105~107) 105~107は山茶碗である。107は底部が厚く、高台の断面形が三角形状でモミガラ压痕がない藤澤編年²²第4型式、105は第5型式から第6型式に相当する。

S K 420 (108・109) 108は土師器小皿、109は陶器山茶碗である。小皿は扁平な器形で、口縁外面にヨコナデによる面をもつ。

S D 411 (110~118) 110は山茶碗の小椀、111は山皿、112~118は山茶碗である。113・114の口縁部は玉縁状を呈し、藤澤編年第6型式に相当する13世紀前半代の所産であろう。

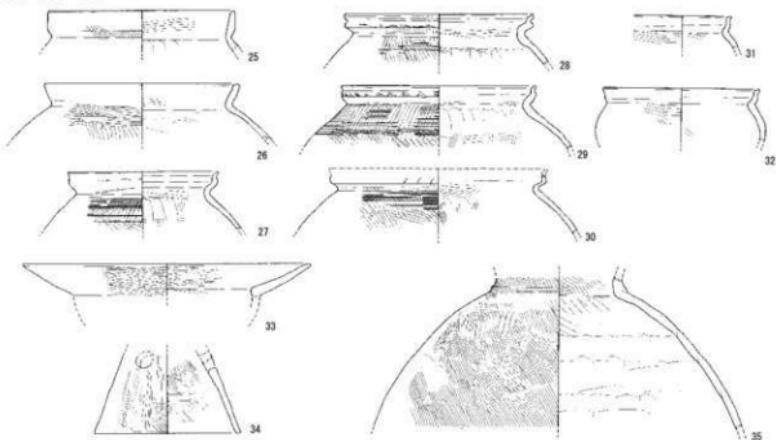
S D 412 (119) 山皿である。

S D 413 (120~122) いずれも土師器で、120は小皿、121は南伊勢系の鍋、122はクロク土師器の台付小皿である。鍋121は口縁部片で、伊藤編年II a段階に相当し²³、13世紀初頭前後の所産であろう。

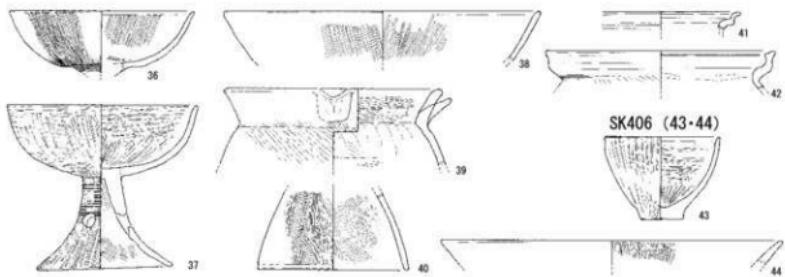
S D 415 (123~132) 123は土師器小皿、124は皿、125は小形甕、126~129は甕、130・131は山茶碗、132は砥石である。甕はいずれもナデ・オサエ・ケズリによる成形で、口縁部はヨコナデによる内斜面をもつ。鍋に移行する直前、伊藤分類の甕 a 3に相当し、11世紀後葉の所産であろう。モミガラ痕の付いた断面三角状の高台が残る山茶碗131も、藤澤編年第4段階、12世紀頃のものであろう。

S D 416 (133~158) 133~135は土師器の小皿、136~142は皿、143は杯、144は南伊勢系の甕もしくは鍋、145~148は陶器山皿、149~158は山茶碗である。144は伊藤分類の甕 a 3から鍋 a 1の移行期に相当し、11世紀後葉から12世紀前葉頃の所産であろう。山茶碗は、概ね藤澤編年の第4型式から第5型

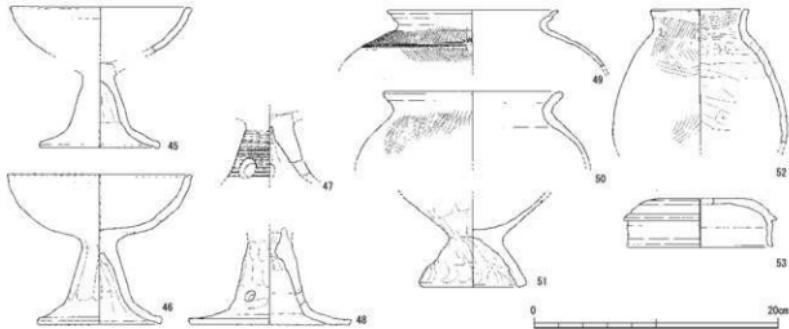
SK403 (25~35)



SK404 (36~42)

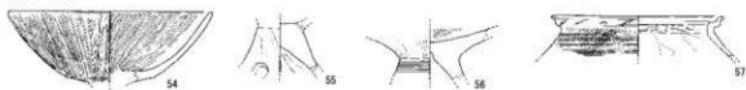


SD402 (45~53)

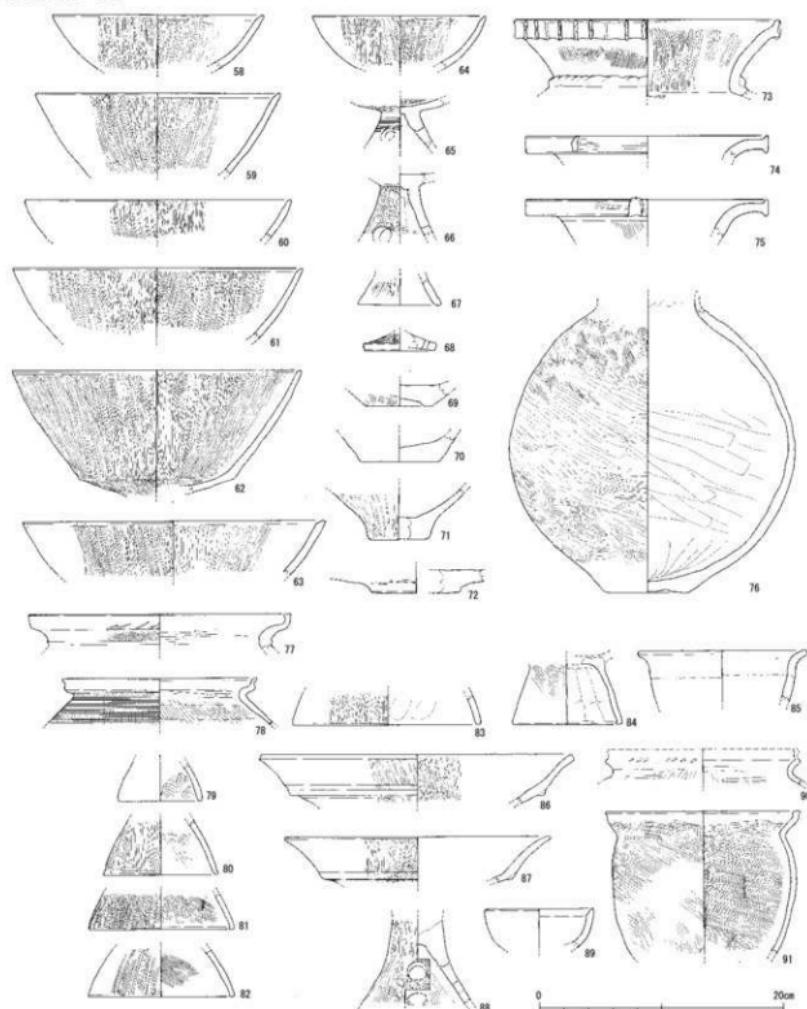


第11図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図②（1 / 4）

SD405 (54~57)

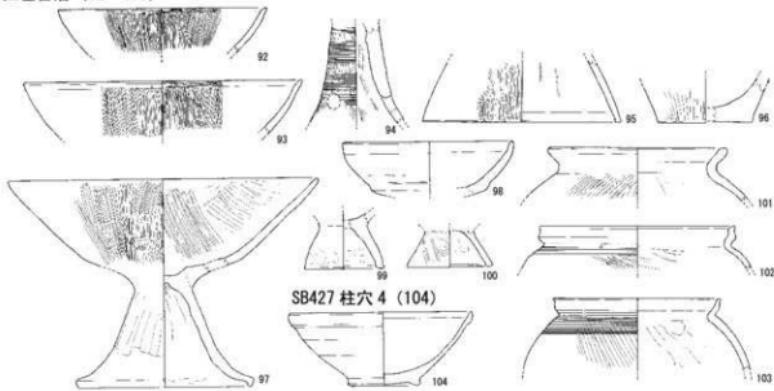


SR432 (58~91)

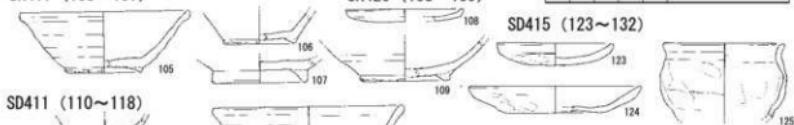


第12図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図③（1 / 4）

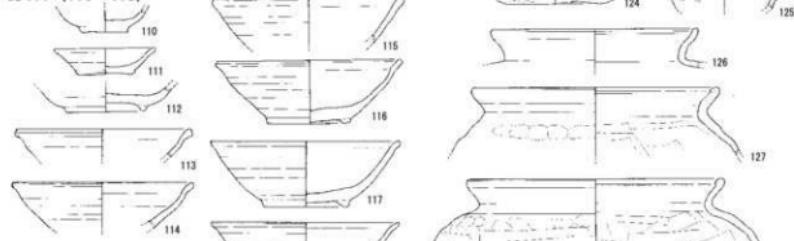
1区包含層 (92~103)



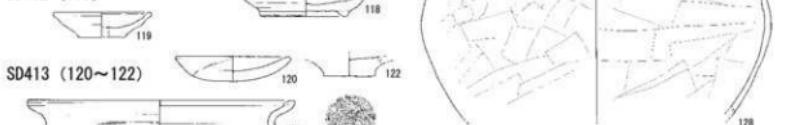
SK417 (105~107)



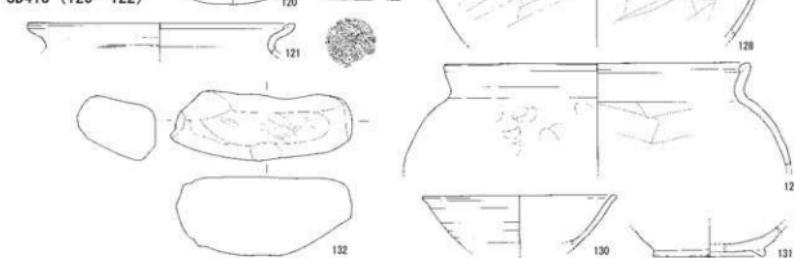
SD411 (110~118)



SD412 (119)



SD413 (120~122)



第13図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図④（1／4）

式に相当し、土師器と矛盾はない。

S D 419 (159~165) 159は土師器小皿、160はロクロ土師器の小皿、161は南伊勢系の甕もしくは鍋、162・163は陶器山皿、164・165は山茶椀である。161は、体部内面の上半にハケ、体下半部は内外共にケズリ調整している。

S D 422 (166~169) 166は青磁の皿、167・168は山茶椀小椀、169は山茶椀である。小椀の存在や、底部が厚くモミガラ圧痕のない高台を持つ169から、藤澤編年第4型式に相当し、12世紀前葉から中葉頃とみられる。

S D 426 (170・171) 170はロクロ土師器の皿もしくは小皿、171は山茶椀もしくは山茶椀的小椀で、藤澤編年第4型式であろう。

Pit 6 (172) 172は山茶椀である。

Pit 16 (173) 173は山茶椀である。底部が厚く、藤澤編年第4型式とみられる。

Pit 17 (174~194) 174~178は土師器小皿、179~186はロクロ土師器の小皿、187~190はロクロ土師器の皿、191・192はロクロ土師器の椀もしくは小椀、193は山皿、194は白磁椀である。ロクロ土師器を中心とした多数の遺物が出土していることから、

ピットとしているが実際は小さな土坑だったのである。

Pit 18 (195・196) 195・196はロクロ土師器の台付小皿である。このうち195は、高台となっている。 **Pit 19 (197)** 197は黒色土器の椀で、内外ともに黒化した黒色土器B類である。

Pit 21 (198・199) 198・199は土師器小皿である。199は、底部が丸みをもつ。

2区包含層 (200~280) 200~210は土師器小皿、211・212は皿、213~215は杯、216・217は甕、218~220は南伊勢系の鍋、221は須恵器の甕である。222~225は陶器山皿、226~277は山茶椀、278は青磁の輪花椀、279は白磁椀、280は砥石である。山皿224と山茶椀234、236には底部外面もしくは外側面に墨書きがあり、234は○の中に×が記されている。また、236は、漢字が1字のみ墨書きされたもので、筆遣いから底部側を上にして記されたとみられ、その場合「氷」の可能性がある。山茶椀は、233が第3型式に遡る可能性がある他は第4型式以降が中心で、第7型式まで広く存在する。226と227は高台がない段階で、全体形が残っていないため不確定要素が残るが、第8型式以降の所産の可能性がある。

3 小 結

a 遺構について

今回の小ブケ遺跡（第4次）調査は、小ブケ遺跡のなかでも西半部に相当する。調査区は2箇所に分かれており、西半部のなかでも東側の南北トレンチである1区と、西側の石名田遺跡に東接する東西トレンチである2区に分かれている。調査の結果、東西の調査区では、遺構と遺物の様相が全く異なっていることが判明した。すなわち、1区は、東方の小ブケ遺跡（第1次）調査区、さらに第3次調査区と一緒にとなる弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物が中心であった。一方、2区は、古墳時代の遺構は乏しく、西側に位置する石名田遺跡の遺構とあり方が共通し、10世紀後半から13世紀の平安時代後期の遺構が中心で、鎌倉時代の遺構も若干散含む。

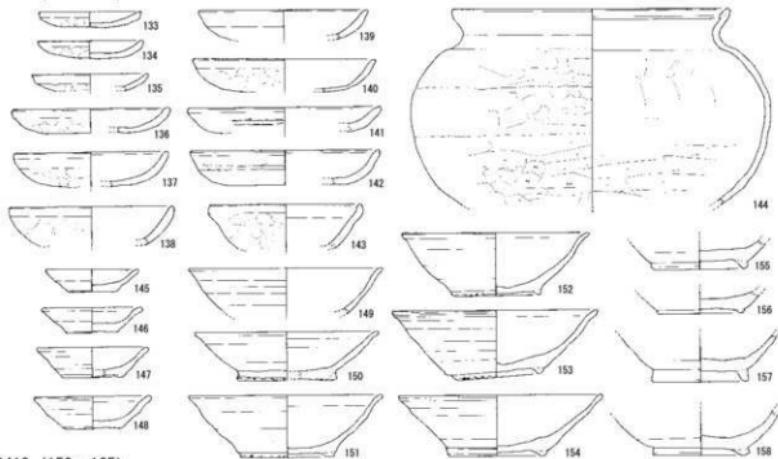
つまり、小ブケ遺跡は遺跡の東半側（第1次調査区・第3次調査区・第4次調査1区）が弥生時代後期から古墳時代前期の集落（一部に弥生中期の遺構

含む）、遺跡の西半側（第4次調査2区）が石名田遺跡に連なる平安時代後期から鎌倉時代を中心とした古代から中世前期の集落と判明した。小ブケ遺跡の歴史的な展開を知る上で、重要な見知である。

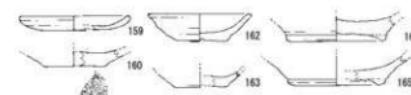
調査区幅が狭く、掘立柱建物は把握しづらいが、2区で複数の柱列が確認でき、掘立柱建物の可能性を考えた。S B 427とS B 431とした遺構のほか、小さな構を切り込む2間の柱列であるS Z 423も掘立柱建物だった可能性がある。他にも遺構番号としては付与していないが、柱穴とみられるピットが複数あり、掘立柱建物はさらに存在していた可能性がある。なお、S B 427の西側から2番目の柱穴（柱穴4）壠形から白磁の大形破片（104）が出土した。

注目されるのは、S B 427の西側柱列（推定）のすぐ内側に位置する竹桶を設置したS D 433である。古墳時代の導水施設に伴う木桶であれば、県内でも伊賀市川東の水衛遺跡で類例がある⁵⁾、今回確認

SD416 (133~158)



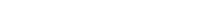
SD419 (159~165)



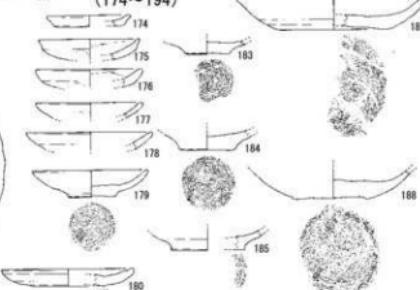
2区 Pit 6 (172)



2区 Pit 16 (173)

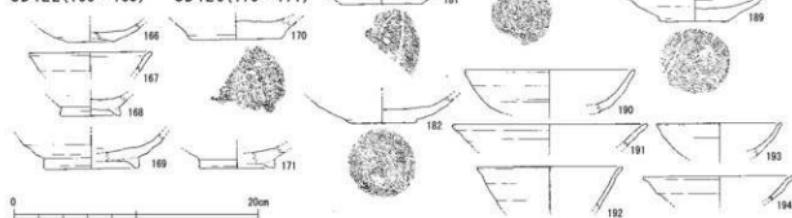


2区 Pit 17
(174~194)

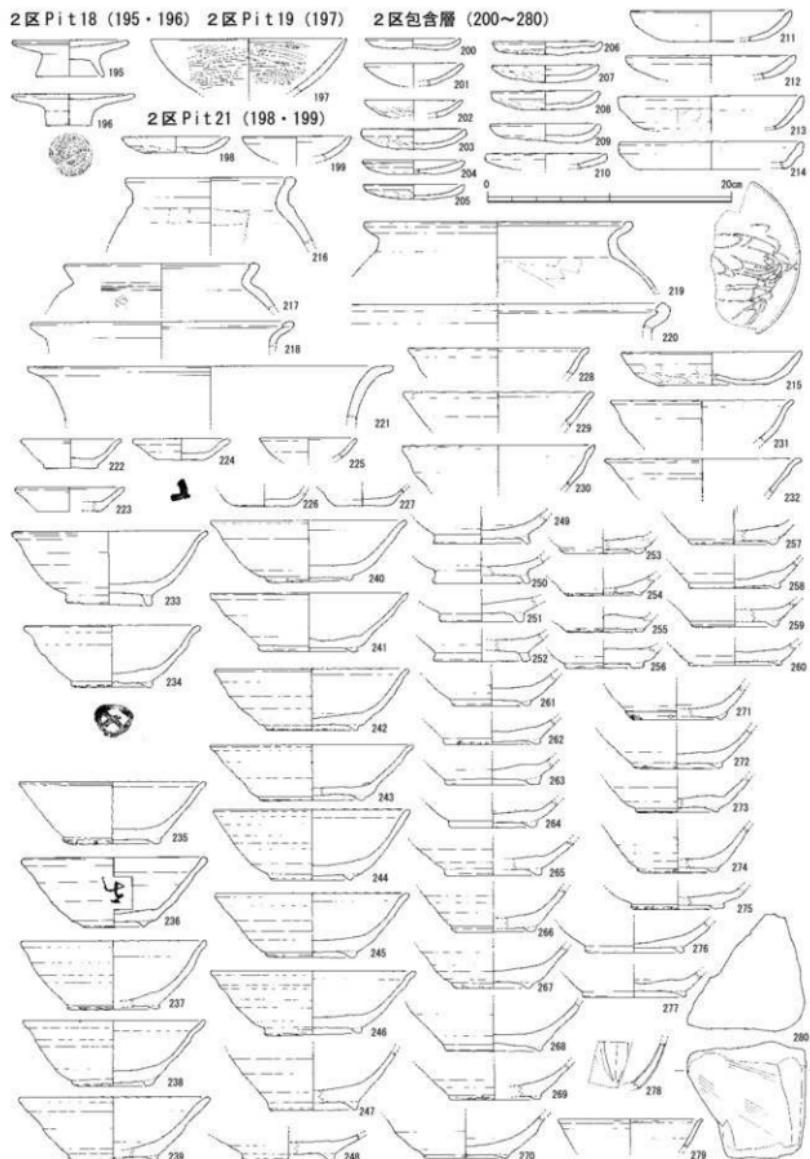


SD422(166~169)

SD426(170・171)



第14図 小ブケ遺跡（第4次）出土遺物実測図⑤（1/4）



第15図 小ブケ遺跡(第4次)出土遺物実測図⑤ (1 / 4)

したものは竹製である S B 427 を含む周辺遺構の状況から、平安時代の所産であった可能性が高い。調査区幅が限られるため溝及び竹櫛の両端部の状況が不明だが、あえて竹櫛を設置していることは溝の肩部が崩れることなく定量の水量を安定的に一定期間流すことを意図したための措置とみられ、周辺部に特定機能をもつ施設の存在が予想される。

b 遺物について

小ブケ遺跡（第4次）調査の出土遺物は、平安時代後期から鎌倉時代を中心とする一群に分かれている。前者が主に1区、後者が主に2区から出土し、分布の対称性が明らかで、遺構の分布とも照応している。

遺構全体を完掘したものは少ないが、SD 415やSD 416、SD 419などは南伊勢系土師器鍋と土師器小皿、ロクロ土師器、陶器山茶碗などが共伴した資料であり、平安時代後期から鎌倉時代の安濃川流域の土器組成を考えるうえで基本的な資料になる。

さて、小ブケ遺跡（第3次）調査の報告書において、当地への布留式土器の波及が問題とされた。そのことに關係して興味深いのは、東海の廻間II式期後半に併行するSK 401出土遺物のうち、東海系の有稜高杯である3・4の杯部内外面に、タテミガキの後の最終調整として、横方向のヘラミガキが施されていることである。通常、伊勢や尾張を含む東海地域の古墳時代初頭の土器様式では、有稜高杯の調整は縦方向のヘラミガキを基本としている。このことは、当該期の土器が多量に出土した津市六大A遺跡や雲出島貴遺跡の土器相も然りである。

北勢地域では、廻間II式期になると、有稜高杯にヨコミガキを施す事例が増加するが、その場合は最終調整をタテミガキとし、その前段階にヨコミガキを用いるという⁷⁾。今回の3・4は、タテミガキ後の最終調整としてヨコミガキが用いられており、これまであまり注意されたことはなかった。

一方、布留式に代表される近畿系の高杯は、横方向を基本としている。今回の事例が、廻間II式期から増加する東海系有稜高杯におけるヨコミガキ使用のバリエーションのひとつとして捉えるのか、あるいは当地への近畿系土器の流入と連動させて、近畿系の手法の一部を受容したと捉えるのがなどは、今

後の類例の增加をまって、改めて検討したい。

註

- 1) 以下、古墳時代の土器は、下記文献を参照した。
赤坂次郎1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター、川崎志乃2001「古墳時代前期の雲出島貴遺跡」『嶋抜III』、三重県埋蔵文化財センター、徳積裕昌2002「弥生後期～古墳時代土師器の形式分類」『六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター
- 2) 田辺昭三1966『陶色古窯跡群I』平安学園考古クラブ
- 3) 藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター
- 4) 伊藤裕介2009〔付編 中世成立期における伊勢の土器相〕『嶋抜II』三重県埋蔵文化財センター。なお、伊藤裕介2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』考古編2 三重県も適宜参照した。
- 5) 三重県埋蔵文化財センター1997『水廻跡発掘調査報告－阿山郡伊賀町川字水衛所在－』
- 6) 渡辺和人2019「布留式系土器の受容と展開」『小ブケ遺跡（第3次）発掘調査報告－津市安濃町内多一』三重県埋蔵文化財センター
- 7) 石井智大氏のご教示による

遺構番号	地区	位置	時代	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	底レベル (標高m)	備考
SK401	1	2	古墳初期	1.32以上	1.95	0.72	17.44	SK406より新しく、SK403より古い
SD402	1	10	古墳中後期	—	2.76	0.37	17.92	
SK403	1	3	古墳初期	0.38以上	1.12以上	0.42	17.74	SK401より新しく、SK404より古い
SK404	1	4	古墳初期	0.37以上	1.00	0.32	18.14	SK403より新しい
SD405	1	30	古墳初期	—	1.46	0.32	17.34	
SK406	1	1	古墳初期	0.85以上	1.10以上	0.25	18.17	SK401より古い
SK407	1	81	不明	3.00	0.45以上	0.60	17.76	SK410より新しい
SK408	1	94	不明	2.80以上	1.75以上	0.16	16.17	
SK409	1	98	不明	3.00以上	3.00以上	0.20	16.21	
SR410	1	63~83	古墳初期	—	約18	0.76以上	不明	底まで腐剤できず SK407より古い
SR432	1	11~82	古墳初期	—	—	0.70	17.00	洗掘帶、SR410を覆う 形成途上でSD405を腐剤後さらに堆積
Pit1	1	90	不明	0.34以上	0.27以上	0.20	16.08	
SD411	2	6	平安～鎌倉	—	3.60	0.56	17.99	SK417より新しい
SD412	2	13	鎌倉	—	2.32	0.36	18.10	
SD413	2	16	平安～鎌倉	—	1.90	0.64	17.90	
SD414	2	11	平安～鎌倉	—	1.02	0.40	18.12	
SD415	2	14	鎌倉	—	0.92	0.30	18.16	
SD416	2	20	平安～鎌倉	—	6.20以上	0.62	18.18	SD418より古い
SK417	2	6	鎌倉	0.85	0.74	—	—	深さ不明
SD418	2	24	平安～鎌倉	—	0.80	0.34	18.75	SD416より新しい
SD419	2	64	平安～鎌倉	—	0.70	0.57	18.60	
SK420	2	65	平安～鎌倉	2.23	0.38以上	0.38	18.99	
SD421	2	78	平安～鎌倉	—	1.00	0.48	18.75	
SD422	2	83	平安～鎌倉	—	2.04	0.94	18.48	Pit16より新しい
SZ423	2	96	平安	5.30	0.78	0.18	19.21	EHS423 底に1.5m等間の柱列2間あり
SD424	2	90	不明	—	1.54	0.32	19.04	Pit17より古い
SK425	2	91	平安～鎌倉	0.70	0.23	0.17	19.18	
SD426	2	115	平安～鎌倉	—	0.96	0.28	19.15	
SB427	2	102~111	不明					4間の柱列、2.1m等間
SK428	2	100	平安～鎌倉か	0.74	0.52	0.24	19.09	
SD429	2	116~122	平安	—	6.20以上	0.60	18.83	
SK430	2	81	平安か	1.84以上	1.71以上	0.25	19.16	
SB431	2	54~60	鎌倉					3間の柱列、2.05m等間
SD433	2	110	平安か	—	0.50	0.44	18.90	底面に竹構あり
Pit1	2	9	不明	0.29	0.28	0.30	18.21	
Pit2	2	17	鎌倉	—	—	—	—	規模・深さ不明
Pit3	2	28	不明	0.20	0.20	0.12	18.52	
Pit4	2	50	不明	0.38	0.1以上	0.29	18.72	

第1表 小ブケ遺跡（第4次）遺構一覧表

遺構番号	地区	位置	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底レベル (標高m)	備考
Pit5	2	54	鎌倉	0.22	0.20	0.12	18.72	SB431
Pit6	2	55	鎌倉	0.26	0.21	0.19	18.65	
Pit7	2	58	不明	0.27	0.24	0.18	18.65	SB431
Pit8	2	67	平安	0.28	0.28	0.14	18.94	
Pit9	2	30	不明	0.30	0.10以上	0.16	18.80	
Pit10	2	31	平安	0.16	0.08以上	0.12	18.55	
Pit11	2	60	不明	0.27	0.27	0.13	18.75	SB431
Pit12	2	61	不明	0.19	0.16	0.07	18.78	
Pit13	2	74	平安～鎌倉	0.32	0.30	0.35	18.68	
Pit14	2	75	不明	0.20	0.19	0.10	18.90	
Pit15	2	75	不明	0.18	0.18	0.15	18.83	
Pit16	2	82	平安～鎌倉	0.40	0.26以上	0.41	18.90	SD422より古い
Pit17	2	93	平安か	0.46	0.20以上	0.54	19.03	SD424より新しい
Pit18	2	90	平安	0.30	0.26	0.08	19.21	
Pit19	2	91	平安	0.35	0.32	—	—	深さ不明
Pit20	2	93	平安～鎌倉	0.25	0.24	0.20	19.16	
Pit21	2	97	平安	0.38	0.38	0.20	19.20	
Pit22	2	98	平安	0.27	0.27	0.23	19.15	
Pit23	2	99	平安	0.33	0.30	0.25	19.16	
Pit24	2	97	平安	0.07	0.07	—	—	深さ不明
Pit25	2	115	不明	0.44	0.38	0.09	19.23	
Pit26	2	101	平安～鎌倉	0.26	0.24	0.29	19.03	
Pit27	2	85	不明	0.68	0.20以上	0.56	19.03	
Pit28	2	86	平安	0.36	0.22以上	0.09	19.22	
Pit29	2	56	不明	0.20	0.20	0.10	18.70	SB431
Pit30	2	94	不明	0.25	0.24	0.14	19.12	SZ423内
Pit31	2	96	不明	0.23	0.23	0.27	19.13	SZ423内
Pit32	2	98	不明	0.25	0.22	0.17	19.20	SZ423内
柱穴1	2	103	不明	0.32	0.30	0.19	19.01	SB427
柱穴2	2	105	不明	0.35	0.33	0.18	19.13	SB427
柱穴3	2	107	不明	0.35	0.32	0.14	19.16	SB427
柱穴4	2	109	平安	0.40	0.40	0.11	19.18	SB427
柱穴5	2	111	不明	0.34	0.32	0.15	19.13	SB427

*位置：1区は調査区南端を0として、2区は調査区東端を0として、それぞれ何mの場所にくるかを示す

*深さ：検出面からの深さを示す

*底レベル：底の標高を示す

No.	実測 番号	種類 (属性)	基盤	調査区	遺構 位置	部位 推定	法貫 (cm) 口幅 基盤 高さ	技術・文様の特徴		出土	構成	色調 (赤面)	特記事項	
								内・チダ・ミサニ 内・チダ・ミサニ	内・チダ・ミサニ 内・チダ・ミサニ					
1	003-3	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	27.0	-	新	-	標準M赤テクニ		
2	003-4	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	1/12	24.0	-	新	-	標準M赤テクニ	土塁のリミタ	
3	004-2	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	24.4	-	新	-	標準M赤テクニ	土塁のリミタ	
4	004-1	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	10/12	23.4	10.2	新	-	標準M赤テクニ	土塁のリミタ	
5	004-3	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	2/12	11.0	-	新	-	西高照T.5W8.6		
6	004-4	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	9/12	-	16.0	新	-	西高照T.5W8.6		
7	007-3	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
8	007-5	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
9	007-6	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	西高照T.5W8.6		
10	007-7	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	西高照T.5W8.6		
11	007-8	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	西高照T.5W8.6		
12	007-9	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
13	003-1	土塁跡	實	1区	SR801	壁部	5/12	13.8	-	新	-	標準M赤テクニ		
14	003-2	土塁跡	實	1区	SR801	壁部	5/12	17.0	-	新	-	標準M赤テクニ		
15	003-3	土塁跡	實	1区	SR801	壁部	5/12	15.0	-	新	-	標準M赤テクニ		
16	007-6	土塁跡	合符壇	1区	SR801	壁部	2/12	-	11.0	新	-	標準M赤テクニ		
17	007-7	土塁跡	合符壇	1区	SR801	壁部	2/12	-	12.0	新	-	標準M赤テクニ		
18	003-3	土塁跡	壘	1区	SR801	壁部	5/12	-	12.0	新	-	標準M赤テクニ		
19	003-4	土塁跡	壘	1区	SR801	壁部	5/12	-	16.0	新	-	標準M赤テクニ		
20	001-2	土塁跡	壘	1区	SR801	壁部	3/12	-	14.0	新	-	標準M赤テクニ		
21	001-1	土塁跡	正口壘	1区	SR801	壁部	12/12	15.0	7.6	27.0	新	-	標準M赤テクニ	ハサウエー
22	002-2	土塁跡	林	1区	SR801	壁部	5/12	-	13.0	新	-	標準M赤テクニ		
23	002-3	土塁跡	相馬壘	1区	SR801	壁部	5/12	8.4	2.8	5.7	新	-	標準M赤テクニ	ハサウエー
24	002-1	石塁跡	石壘	1区	SR801	壁部	5/12	-	15.0	新	-	標準M赤テクニ	ハサウエー	
25	010-1	土塁跡	壘	1区	SR801	壁部	5/12	12.1	-	新	-	標準M赤テクニ		
26	010-5	土塁跡	壘	1区	SR801	壁部	5/12	15.9	-	新	-	標準M赤テクニ		
27	010-4	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	5/12	12.3	-	新	-	標準M赤テクニ	標準I	
28	010-2	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	5/12	15.9	-	新	-	標準M赤テクニ	標準I	
29	009-2	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	5/12	15.9	-	新	-	標準M赤テクニ	標準I	
30	010-3	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	5/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
31	011-4	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	5/12	一小点	-	新	-	標準M赤テクニ		
32	011-3	土塁跡	小形壘	1区	SR801	壁部	2/12	-	12.4	新	-	標準M赤テクニ		
33	011-1	土塁跡	合符壇	1区	SR801	壁部	2/12	-	23.7	新	-	標準M赤テクニ		
34	011-2	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	2/12	-	11.8	新	-	標準M赤テクニ		
35	009-1	土塁跡	壘	1区	SR801	壁部	2/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
36	009-2	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
37	009-1	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	15.5	11.3	15.4	新	-	標準M赤テクニ	
38	009-1	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	26.0	-	新	-	標準M赤テクニ		
39	009-2	土塁跡	實	1区	SR801	壁部	3/12	17.4	-	新	-	標準M赤テクニ		
40	007-1	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	12.4	-	新	-	標準M赤テクニ		
41	010-7	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	5/12	一小点	-	新	-	標準M赤テクニ		
42	005-1	土塁跡	合符壇	1区	SR801	壁部	12/12	18.8	-	新	-	標準M赤テクニ		
43	010-2	土塁跡	相馬壘	1区	SR801	壁部	5/12	9.3	3-3	6.8	新	-	標準M赤テクニ	
44	010-5	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	3/12	-	28.0	新	-	標準M赤テクニ		
45	013-5	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	11/12	14.4	9.6	新	-	標準M赤テクニ	標準I	
46	012-2	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	11/12	15.0	10.0	12.3	新	良	標準M赤テクニ	
47	012-4	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	12/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
48	012-4	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	12/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
49	012-4	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	12/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
50	012-5	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	3/12	-	12.8	新	-	標準M赤テクニ		
51	012-2	土塁跡	5字引山縁合付	1区	SR801	壁部	3/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
52	012-1	土塁跡	合符壇	1区	SR801	壁部	12/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		
53	012-3	土塁跡	和壘	1区	SR801	壁部	4/12	11.8	6.7	3.9	新	良	標準M赤テクニ	
54	014-1	土塁跡	高标	1区	SR801下層	壁部	5/12	-	16.6	-	新	-	標準M赤テクニ	
55	014-4	土塁跡	高标	1区	SR801	壁部	12/12	-	-	新	-	標準M赤テクニ		

第2表 小ブケ遺跡(第4次) 遺物観察表

No	測量番号	種類 (変地)	器種	測量区	直積 履歴	断面 構造	断面 寸法	断面 高さ	断面 幅員	技法・文様の特徴			出土	復成	色調 (外観)	特記事項	
										口径	底径	高さ					
36	014-3	土器類	高杯	1区	50455	直筒	11.0	-	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	橙色W17.6	網目1 or II	
37	014-5	土器類	合叶甌	1区	50455	直筒	3.12	14.0	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
58	018-2	土器類	高杯	1区	50452	直筒	11.0	17.0	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	橙色W17.6	網目I	
39	020-6	土器類	高杯	1区	50451	直筒	11.0	20.0	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
40	018-7	土器類	高杯	1区	50452	直筒	11.0	21.0	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	橙色W17.6	網目I	
41	018-8	土器類	高杯	1区	50452	直筒	11.0	24.0	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
62	021-3	土器類	高杯	1区	50451	直筒	11.0	23.0	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
63	020-7	土器類	高杯	1区	50452	直筒	11.0	24.0	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
64	017-9	土器類	高杯	1区	50452	直筒	11.0	14.4	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
65	021-1	土器類	高杯	1区	50452	直筒	6.12	-	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	西式網目II	網目II	
66	018-9	土器類	高杯	1区	50452	直筒	6.12	-	-	内:ナフ、外:ナフ、内:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
67	021-9	手取縁器	手取縁器	1区	50452	直筒	6.12	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
68	021-2	土器類	高杯	1区	50451	直筒	3.12	-	5.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
69	021-5	土器類	甌	1区	50452	直筒	12.0	-	5.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
70	016-7	土器類	甌	1区	50452	直筒	8.12	-	4.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
71	016-6	土器類	甌	1区	50451	直筒	8.12	-	4.1	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
72	020-4	土器類	甌	1区	50452	直筒	8.12	-	7.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
73	022-1	土器類	三口甌	1区	50452	直筒	12.0	21.6	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	西式網目II	網目II	
74	017-2	土器類	三口甌	1区	50452	直筒	12.0	19.8	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	橙色W17.6	網目II	
75	017-1	削平工上	三口甌	1区	50452	直筒	12.0	19.8	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	橙色W17.6	網目II	
76	024-1	土器類	削平甌	1区	50452	直筒	12.0	-	6.7	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	西式網目II	網目II	
77	021-4	土器類	受口甌	1区	50452	直筒	12.0	21.6	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
78	016-2	土器類	手取縁器	1区	50452	直筒	12.0	13.0	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	西式網目II	網目II	
79	022-9	手取縁器	手取縁器	1区	50452	直筒	12.0	-	6.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	西式網目II	網目II	
80	017-4	土器類	高杯	1区	50452	直筒	12.0	-	9.2	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	西式網目II	網目II	
81	017-7	土器類	高杯	1区	50451	直筒	2.12	-	11.8	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
82	017-3	土器類	高杯	1区	50451	直筒	2.12	-	11.9	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
83	017-6	土器類	高杯	1区	50452	直筒	2.12	-	10.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
84	017-5	土器類	手取縁器	1区	50452	直筒	2.12	-	8.8	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
85	016-1	土器類	小形有柄甌	1区	50452	直筒	12.0	-	13.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	黑褐色	網目II	
86	018-1	侈张土器	高杯	1区	50452	直筒	25.6	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
87	018-5	侈张土器	高杯	1区	50452	直筒	21.6	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
88	018-3	侈张土器	高杯	1区	50452	直筒	21.6	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
89	018-5	侈张土器	小形有柄甌	1区	50452	直筒	8.0	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
90	016-1	土器類	手取縁器	1区	50452	直筒	12.0	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
91	022-2	土器類	受口甌	1区	50452	直筒	12.0	15.8	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
92	020-3	土器類	高杯	1区	50452	直筒	12.0	17.0	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
93	020-5	土器類	高杯	1区	50452	直筒	12.0	23.0	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
94	019-3	侈张土器	高杯	1区	50452	直筒	12.0	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
95	019-6	土器類	高杯	1区	50452	直筒	2.12	-	16.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
96	019-5	侈张土器	敞口甌	1区	50452	直筒	7.6	-	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
97	022-1	土器類	高杯	1区	50452	直筒	2.12	-	25.4	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
98	020-2	土器類	高杯	1区	50452	直筒	2.12	-	14.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
99	019-7	土器類	高杯	1区	50452	直筒	2.12	-	6.4	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
100	020-1	土器類	手取縁器	1区	50452	直筒	12.0	-	7.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
101	019-4	土器類	高杯	1区	50452	直筒	12.0	14.4	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
102	019-1	土器類	手取縁器	1区	50452	直筒	12.0	16.0	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
103	019-2	土器類	手取縁器	1区	50452	直筒	12.0	18.8	-	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
104	010-1	石器	甌	2区	50417	直筒	7.12	15.0	5.1	6.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II
105	014-1	山系類	甌	2区	50417	直筒	6.12	14.0	6.0	5.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II
106	019-5	山系類	甌	2区	50417	直筒	5.12	-	3.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
107	010-1	山系類	甌	2区	50417	直筒	11.12	-	7.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
108	019-6	山系類	小甌	2区	50418	直筒	5.12	-	1.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
109	019-4	山系類	甌	2区	50418	直筒	5.12	-	2.0	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	
110	019-7	山系類	小甌	2区	50411	直筒	12.12	-	3.6	内:ナフ、外:ナフ	内:ナフ	内:ナフ	未	未	青色	網目II	

No	測量番号	種類 (產地)	器種	測量器	温度 測定部	部位 測定度	流量 (cm) 口径 / 流速 / 高さ		技法・文様の特徴	地土	構成	色調 (内面)	特記事項
							内	外					
111	044-2	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	8.2	4.5	2.15 内：ロタリーナズ 外：ロタリーナズ、高麗りんご	泥	良	底白/3V7/1	
112	044-2	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	-	4.5		泥	良	底白/3V7/1	内面にスヌードル文様がある
113	044-3	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	14.4	-		泥	良	底白/3V7/1	内：ロタリーナズ、輪打付け高台。赤留り墨
114	045-2	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	15.0	-		泥	良	底白/3V7/1	内：ロタリーナズ
115	045-4	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	15.5	-	内：ロタリーナズ	泥	良	底白/3V7/1	内：ロタリーナズ
116	045-2	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	15.0	6.7	5.2 内：赤留、ロタリーナズ、一方通行	泥	良	底白/3V8/1	内：ロタリーナズ、輪打ナズ。赤留りナズ。板状泥
117	045-3	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	15.4	6.7	5.4 内：ロタリーナズ	泥	良	底白/3V8/1	内：ロタリーナズ
118	045-1	山東柄	刷	2区	SD411	12/12	15.3	7.0	5.15 内：ロタリーナズ、輪打ナズ	泥	良	底白/3V7/0	内：ロタリーナズ、輪打ナズ。セミガラ風。赤切
119	049-8	山東柄	刷	2区	SD412	12/12	4.0	3.8	2.1 内：ロタリーナズ 外：ロタリーナズ、高麗りん	泥	良	底白/3V8/1	
120	050-6	土蔵柄	小瓶	2区	SD413	11/12	9.2	-	2.3 内：ロタリーナズ	泥	-	12.5V1・題字7/4	
121	050-1	土蔵柄	刷	2区	SD413	11/12	22.0	-	内：ナズ	泥	-	底白/10V8/2	
122	050-2	12.5上蔵柄	台形小瓶	2区	SD413	10/12	-	4.0	内：ナズ、ハラシ約1cm/7cm	泥	-	12.5V1・題字	
123	050-5	土蔵柄	小瓶	2区	SD415	12/12	9.4	-	1.8 内：ナズ	泥	-	底白/10V8/3	
124	052-1	土蔵柄	刷	2区	SD415	12/12	14.0	-	2.2 内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/2	
125	052-5	土蔵柄	小野變	2区	SD415	12/12	10.0	-	内：ナズ、オサニ 外：ロタリーナズ	泥	-	12.5V1・題字7/4	
126	052-2	土蔵柄	變	2区	SD415	12/12	16.6	-	内：ナズ、エ真珠	泥	-	底白/10V8/2	
127	052-2	土蔵柄	變	2区	SD415	12/12	20.0	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	12.5V1・題字	
128	053-1	土蔵柄	變	2区	SD415	12/12	20.8	-	内：ナズ、エ真珠	泥	-	12.5V1・題字	
129	052-1	土蔵柄	變	2区	SD415	12/12	25.0	-	内：ナズ、エ真珠	泥	-	12.5V1・題字	
130	050-3	山東柄	刷	2区	SD415	12/12	12.8	-	内：ナズ、オサニ 外：ロタリーナズ	泥	良	底白/3V7/1	
131	050-1	山東柄	刷	2区	SD415	12/12	-	8.9	内：ロタリーナズ	泥	-	底白/3V7/1	
132	052-4	石瓢柄	瓶石	2区	SD415	-	5.0	15.9	5.7 内：ナズ、エ真珠	泥	-	-	重合7kg
133	046-3	土蔵柄	小瓶	2区	SD416	12/12	4.1	-	1.3 内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/3	
134	046-5	土蔵柄	小瓶	2区	SD416	12/12	8.6	-	1.5 内：ナズ、オサニ	泥	-	桃1066/6	
135	046-1	土蔵柄	小瓶	2区	SD416	12/12	9.4	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	桃1067/6	
136	047-5	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	13.0	-	2.0 内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/3	
137	047-6	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	12.6	-	2.8 内：ナズ、オサニ	泥	-	12.5V1・題字	
138	047-1	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	12.8	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/2	
139	046-6	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	13.8	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/3	
140	047-2	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	14.9	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/3 底白/12.5V1・題字	
141	047-6	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	15.8	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	10V8/2	
142	047-4	土蔵柄	刷	2区	SD416	12/12	15.4	-	2.9 内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V8/3	
143	047-3	土蔵柄	杯	2区	SD416	12/12	12.2	-	内：ナズ、オサニ	泥	-	底白/10V7/2	
144	046-1	山東柄	瓶	2区	SD416	12/12	22.6	-	内：ナズ、オサニ 外：ナズ、オサニ、ハラシズ	泥	-	底白/10V8/2	
145	046-7	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	7.4	3.8	1.9 内：ロタリーナズ	泥	-	底白/10V8/3 底白/12.5V1・題字	
146	046-6	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	6.0	4.2	2.1 内：ロタリーナズ、自然模様、ロタリーナズ、赤留り墨	泥	良	底白/3V7/1	
147	049-1	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	9.0	3.6	2.5 内：ロタリーナズ、輪打ナズ、セミガラ風、ナズ	泥	良	底白/3V7/2	
148	049-5	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	9.3	4.5	2.7 内：自然模様、ロタリーナズ、赤留り墨	泥	良	底白/3V7/2	
149	049-2	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	15.8	-	内：ロタリーナズ	泥	良	底白/10V8/1	
150	049-1	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	14.6	7.8	4.0 内：ロタリーナズ、輪打ナズ、セミガラ風、ナズ	泥	良	底白/3V7/1	
151	049-1	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	15.7	7.5	5.1 内：ロタリーナズ、自然模様、セミガラ風、ワカ絞	泥	良	底白/3V6/6	
152	049-2	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	15.2	6.7	3.2 内：ロタリーナズ、輪打け高台、赤留り墨ナズ	泥	良	底白/3V6/6	
153	049-1	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	16.7	6.6	5.5 内：ロタリーナズ、自然模様、ワカ絞	泥	良	底白/3V6/6	
154	049-3	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	16.5	7.6	3.0 内：ロタリーナズ、輪打け高台、赤留り墨ナズ	泥	良	底白/3V6/6	
155	049-7	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	-	7.2	内：ロタリーナズ、輪打け高台、赤留り墨ナズ	泥	良	底白/3V6/6	
156	049-3	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	-	6.7	内：ロタリーナズ、輪打ナズ、高麗りん	泥	良	底白/3V6/6	
157	049-6	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	-	7.6	内：ロタリーナズ、輪打け高台、赤留り墨ナズ	泥	良	底白/3V6/6	
158	049-5	山東柄	刷	2区	SD416	12/12	-	7.6	内：ロタリーナズ、自然模様、ロタリーナズ、ナズ	泥	良	底白/3V6/7	
159	045-2	土蔵柄	小瓶	2区	SD419	12/12	-	5.5	内：ナズ、ナズ、赤留り	泥	-	12.5V1・題字	
160	045-1	12.5上蔵柄	小瓶	2区	SD419	12/12	-	6.2	内：ナズ、ハラシ約1cm/7cm、セミガラ	泥	-	底白/10V8/2	
161	044-1	土蔵柄	瓶	2区	SD419	12/12	22.6	-	内：ナズ、ナズ、セミガラ風、ナズ	泥	良	12.5V1・題字	
162	045-3	山東柄	刷	2区	SD419	12/12	8.4	6.0	2.2 内：ロタリーナズ、赤留り墨ナズ	泥	良	底白/3V6/1	
163	045-6	山東柄	刷	2区	SD419	12/12	-	4.2	内：ロタリーナズ、高麗りん	泥	良	底白/3V8/1	
164	045-4	山東柄	刷	2区	SD419	12/12	-	7.6	内：ロタリーナズ、自然模様、ロタリーナズ、ナズ	泥	良	底白/3V7/3	
165	045-4	山東柄	刷	2区	SD419	12/12	-	7.6	内：ロタリーナズ、輪打ナズ。高麗りん	泥	良	底白/3V7/1	
166	045-10	河緑	刷	3区	SD422	-	-	3.8	内：輪打ナズ、ロタリーナズ	泥	良	底白/2.5V8/1	
167	049-9	山東柄	小瓶	2区	SD422	12/12	-	19.0	内：ロタリーナズ	泥	良	底白/3V6/2	

No	測量番号	種類 (產地)	器種	測量区	測定 部位 測定位 置	部位 測定度	法量(OK) 口径(ミリ) 速度(秒)			技法・文様の特徴	地土	構成	色調 (内面)	特記事項
							直	横	高					
168	040-7	山奈柏	小瓶	2区	SB422	直	—	4.8	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.518/3	
169	040-7	山奈柏	瓶	2区	SB422	直	—	10.2	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.517/1	
170	041-6	ヨツヨ上園錦	近山小瓶	2区	SB426	直	—	7.4	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.517/1	
171	041-5	山奈柏	近山小瓶	2区	SB426	直	—	11.2	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.517/1	
172	040-2	山奈柏	瓶	2区	P110	直	—	16.0	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.517/2	
173	038-5	山奈柏	瓶	2区	P1116	直	—	6.12	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.517/1	
174	040-5	上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	6.8	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
175	040-4	上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	6.2	—	内：ナラ、オサニ	泥	良	灰白2.518/2	
176	040-3	上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	9.8	—	内：ナラ、其具裏	泥	良	灰白2.518/3	
177	040-2	上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	10.4	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
178	040-2	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	11.2	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
179	040-2	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	11.6	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
180	040-2	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	11.6	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
181	040-4	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	11.4	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
182	040-6	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	11.6	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.517/1	
183	040-6	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	12.0	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
184	040-5	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	12.0	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
185	040-1	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	12.0	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
186	040-1	ヨツヨ上園錦	小瓶	2区	P1117	直	—	12.2	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
187	040-1	ヨツヨ上園錦	瓶	2区	P1117	直	—	12.2	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
188	040-5	ヨツヨ上園錦	瓶	2区	P1117	直	—	12.6	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.517/1	
189	039-2	ヨツヨ上園錦	瓶	2区	P1117	直	—	13.0	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
190	040-1	ヨツヨ上園錦	瓶	2区	P1117	直	—	13.8	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
191	040-3	ヨツヨ上園錦	近山小瓶	2区	P1117	直	—	13.8	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
192	040-2	ヨツヨ上園錦	近山小瓶	2区	P1117	直	—	13.8	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
193	040-7	山奈柏	瓶	2区	P1117	直	—	16.2	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
194	030-8	白蘿	瓶	2区	P1117	直	—	16.4	—	内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
195	030-2	ヨツヨ上園錦	叶付小瓶	2区	P1118	直	—	16.0	—	内：ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
196	030-1	ヨツヨ上園錦	叶付小瓶	2区	P1118	直	—	16.6	—	内：ロコモチ	泥	不	灰白2.518/2	
197	030-3	淡色土器	瓶	2区	P1119	直	—	16.0	—	内：ナラ、ガガ、無彩色	泥	良	灰白2.517/2	
198	030-1	上園錦	小瓶	2区	P1211	直	—	16.0	—	内：ナラ、ナラ、無彩色	泥	良	灰白2.517/2	
199	030-5	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	16.6	—	内：ナラ、オサニ	泥	良	灰白2.518/2	
200	030-4	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	17.0	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
201	030-3	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	17.4	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
202	030-5	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	17.6	—	内：ナラ	泥	不	灰白2.518/2	
203	030-4	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	17.6	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
204	030-6	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	18.2	—	内：ナラ、船上鉢底	泥	良	灰白2.518/2	
205	030-2	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	18.6	—	内：ナラ	泥	不	灰白2.518/2	
206	030-7	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	19.0	—	内：ナラ	泥	不	灰白2.518/2	
207	030-5	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	19.6	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
208	030-1	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	20.0	—	内：ナラ	泥	不	灰白2.518/2	
209	029-3	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	20.6	—	内：ナラ、オサニ	泥	良	灰白2.518/2	
210	030-6	上園錦	小瓶	2区	P1212	直	—	20.6	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
211	029-4	上園錦	瓶	2区	P1212	直	—	21.2	—	内：ナラ、ヒビナガオサニ	泥	良	灰白2.518/2	
212	030-5	上園錦	瓶	2区	P1212	直	—	21.8	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
213	032-5	上園錦	杯	2区	P1212	直	—	21.8	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
214	032-6	上園錦	杯	2区	P1212	直	—	21.8	—	内：ナラ、オサニ	泥	良	灰白2.518/2	
215	030-2	上園錦	杯	2区	P1212	直	—	21.8	—	内：ナラ、オサニ	泥	不	灰白2.518/2	
216	025-1	上園錦	甕	2区	P1212	直	—	21.8	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
217	030-2	上園錦	甕	2区	P1212	直	—	21.8	—	内：ナラ、ハラク、ナラ芯	泥	良	灰白2.517/1	
218	030-2	上園錦	甕	2区	P1212	直	—	22.2	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
219	029-1	上園錦	甕	2区	P1212	直	—	22.0	—	内：ナラ、工具ナメ(幅2.2cm)	泥	不	灰白2.518/2	
220	030-3	上園錦	甕	2区	P1212	直	—	22.4	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
221	030-1	俄羅	甕	2区	P1212	直	—	26.0	—	内：自然施、ロコモチ	泥	不	灰白2.518/2	
222	030-1	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	26.2	4.2	— 2.9 内：自然施、ロコモチ	泥	良	灰白2.518/2	
223	030-6	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	26.9	3.2	— 2.0 内：自然施、不規	泥	良	灰白2.517/1	
224	032-4	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	26.6	3.5	— 1.50 内：自然施、不規	泥	良	灰白2.517/1 製造	
225	030-2	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	27.8	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.517/1	
226	030-6	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	28.0	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
227	030-2	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	28.2	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	
228	027-1	山奈柏	甕	2区	P1212	直	—	28.4	—	内：ナラ	泥	良	灰白2.518/2	

No	測量番号	種類 (產地)	器種	調査区	道府 県	部位	法量・寸法			技法・文様の特徴	地土	構成	色調 (墨面)	特記事項
							面積 面積	口径 直径	高さ					
229	031-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	15.6	-	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/3		
230	031-7	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.0	-	-	外: ロココ調	良	灰白0.3W/1		
231	030-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	14.8	-	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
232	030-7	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.0	-	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
233	025-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.0	6.5	6.1	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
234	031-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	14.3	5.5	5.1	内: ロココ調	良	灰白0.3W/1	黒墨	
235	030-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	15.2	7.0	5.1	内: ロココ調	良	灰白0.5W/3		
236	031-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	14.7	5.0	5.7	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1	黒墨	
237	030-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	15.1	7.3	5.0	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
238	031-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	13.0	5.2	5.4	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
239	032-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	15.6	6.4	5.2	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
240	032-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.0	6.3	5.1	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
241	030-4	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.2	7.2~	7.4	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
242	032-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	15.8	7.2	5.0	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
243	032-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.6	8.0	8.6	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
244	040-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.0	6.4	5.8	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
245	037-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	15.7	7.0	5.3	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
246	031-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	16.6	7.4	5.8~	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
247	030-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.0	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
248	030-6	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.4	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
249	030-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
250	027-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.6	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
251	030-7	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
252	030-4	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.4	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
253	027-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.0	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/0		
254	031-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.0	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
255	037-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.1	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
256	028-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.0	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
257	028-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
258	028-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.2	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
259	030-7	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.4	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
260	031-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.4	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
261	027-4	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
262	030-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
263	033-7	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.3	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
264	028-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
265	027-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.6	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
266	030-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	6.2	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
267	037-4	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	6.2	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
268	027-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.8	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
269	030-2	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.4	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
270	031-1	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	6.3	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
271	032-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.6	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
272	032-6	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	6.7	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
273	033-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	6.4	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
274	032-6	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	6.0	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
275	033-5	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.6	-	内: ロココ調	良	灰白0.5W/1		
276	033-4	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	7.6	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
277	031-3	山奈桶	桶	2区	佐世保	山奈桶	-	8.2	-	内: ロココ調	良	灰白0.6W/0		
278	032-7	青磁	桶/瓶	2区	佐世保	青磁	-	-	-	内: 青磁、ロココ調	良	灰白0.5W/1		
279	030-6	白磁	桶/瓶	2区	佐世保	白磁	-	-	-	内: 白磁、ロココ調	良	灰白0.5W/2		
280	031-4	石製品	瓶	2区	佐世保	石製品	-	-	-	内: 石、ロココ調	良	灰白0.5W/1		

IV 石名田遺跡

1 基本層序及び遺構

a 基本層序

石名田遺跡は、小ブケ遺跡と柳垣内遺跡の間に所在する。調査区は小ブケ遺跡（第4次）調査2区の西側に接しており、幅約1.8m、長さ230mのトレンド状を呈する。その西側は、範囲確認の結果も踏まえ、85mの間隔をおいて柳垣内遺跡（第2次）調査1区の東側に至る。ただし、石名田遺跡の西側と柳垣内遺跡の1区を含む東部は、遺構としては疎らとなっている部分である。

現地表の標高は、調査区東端で約20.4m、西方へ徐々に高くなり、調査区西端で約21.6mとなる。

層序は、基本的に上からアスファルト、造成土、旧水田、17・18・20・29などのオリーブ褐色シルト～にぶい黄褐色系シルト層が堆積する。東から90m以西では、にぶい黄褐色～灰褐色シルト基調とする遺物包含層が認められた（21・26層）。場所により土質はシルト層・細砂等変化するが、34・37・38・41層直上で、遺構検査を行った。

本体工事の進捗に合わせて調査したため、遺構番号は基本的に東から西に向かって順次付与した。今回の報告も、遺構番号順（概ね東から西へ）に記述する。

b 遺構

S R 1 調査区東端から約16mの範囲で確認した。最深で地表下2.1m（標高18.6m）まで掘削したが、底は確認できなかつた。

43層以下は極細砂が堆積し、その上層にあたる41・42層で粘土～シルト層になる。層序からS D 3及びS D 5より古い。

埋土から、時期不明の土師器細片、山茶楓細片が出土している。

S D 2 調査区東端から約20mで確認した。幅約2.9m、検出面から最深で0.50mの皿状で、ほぼ南北方向である。埋土から古墳時代後期の須恵器および土師器が出土している。

S D 3 S D 2の約2m東側に位置する幅2m、

深さ0.32mの溝で、断面は不整形を呈する。向きはN 30° Eである。S R 1がほぼ埋積したところで、掘削している。埋土は、4層に分層でき、シルト～極細砂を基本とし、場所により中粒砂～粗砂が含まれる。時折水量を変えつつも一定の流れがあったとみられる。

埋土からは、小片ながら土師器片、黒色土器片、陶器片が出土している。

S A 4 調査区東側から48～60mの範囲で確認した。柱間2.4m等間で一直線に並ぶ、5間の柱列である。主軸の方位N 60° Wである。調査区幅が狭いため、確認できなかつたが、おそらく北側、南側へ柱列が広がり、掘立柱建物となる可能性がある。西の柱穴から順に柱穴1、2…とし、柱穴6まで附番した。柱穴の底の高さは、西方がやや低く、柱穴1が標高19.50、柱穴2が19.55mである。

遺物は認められず、時期は不明である。

S D 5 調査区東端から約10mで確認した。幅1.4m、検出面からの最深0.55mの断面形U字状の溝である。向きはN 21° Eである。S R 1がほぼ埋まったところで、掘削している。埋土はシルト～細砂の互層が認められ、一定量の緩やかな水流があり、徐々に埋積したとみられる。

埋土からは、時期不明の土師器小片が出土したのみである。

S K 6 S A 4柱穴1から西へ約5mで確認した。南側が調査区外となるが、長径1.8m以上×短径0.9mの楕円形を呈した土坑で、検出面からの深さは0.20mである。層序からS K 7より古い。

埋土から図示したロクロ土師器及び灰釉陶器片の他に瓦器片が出土しており、平安時代後期頃の所産である。

S K 7 S K 6の西側に接する土坑である。南側が調査区外となるが、長径1.97m以上×短径1.00mの楕円形を呈す。検出面からの深さ0.28mである。層序からS K 6より新しい。

埋土から図示したものの他に灰釉陶器片が出土し

ている。平安後期頃の遺構とみられる。

S K 8 (第21図) S K 7 から西へ3 mで確認した。南側が調査区外となるが、長さ0.84 m以上×幅1.62 mの隅丸方形を呈す。底は南壁の方へすり鉢状に下がり、検出面からの深さは0.20 mである。層序からS D 9より古い。

土坑西端から石製鍾(13)が出土した。その他、図示したものの他に、図示できなかつたが藤澤編年第4型式に相当する山茶椀や土師器甕片、清郷型鍋片、ロクロ土師器片が出土しており、10~11世紀頃のものとみられる。

S D 9 S K 8 の西側で確認した。幅0.30 m、検出面から最深0.16 mの断面形U字状の溝である。向きはN 31° Eである。層序からS K 8 より新しい。埋土はにぶい黄褐色シルトである。

埋土からは、時期不明の土師器小片が出土したのみである。

S K 10 S K 7 とS K 8 の間で確認した。南側が調査区外となるが、長さ0.30 m以上×幅1.50 mの隅丸方形を呈す。検出面からの深さは0.12 mである。南壁土層の層序からPit 7 より新しい。

土師器甕、ロクロ土師器、灰釉陶器とみられる小片が出土したが、図示しうるものはなかつた。

S D 11 調査区東端から約87 mで確認した。幅4.40 m、検出面からの最深0.84 mである。上半部は緩やかだが下半部はU字状の断面形となる。向きはN 29° Eである。層序からS D 20 より新しい。S D 20 が埋積後に掘削をし、さらに南壁123・124層が堆積したのちに再掘削をしている。

埋土からは図示したものの他に、灰釉陶器、綠釉陶器、青磁小片が出土している。

S K 12 S D 11 の東約5 mで確認した。長さ2.2 m×幅0.70 m、深さ0.14 mの長楕円形の土坑である。

埋土から、図示したものの他に、土師器甕及び青磁の小片が出土している。

S K 13 S K 12 の西隣で確認した。長さ0.78 m×幅0.54 m、深さ0.10 mの楕円形の土坑である。

埋土から、土師器皿・鍋、陶器小片が出土したが、図示しうるものはなかつた。

S D 14 S D 11 の東1.5 mで確認した。幅0.95 m、検出面からの最深0.18 mの断面形不整形な皿状の溝

である。向きはN 29° Eである。層序からS K 15 より古い。埋土は暗褐色シルトである。

埋土からは、図示したものの他、灰釉陶器小片が出土した。

S K 15 (第21図) S D 14 の北側で確認した。北側が調査区外となるが、2.50 m以上×0.68 m以上、最深0.56 mの土坑と把握している。S D 14 より新しい。

埋土から、図示したものの他、ロクロ土師器、山茶椀、常滑産陶器片が出土しており、12世紀頃の所産であろう。

S D 16 (第20図) S D 11 の西側で確認した。幅1.50~1.66 m、最深で0.31 mの断面形U字状の溝である。向きはS D 11・S D 14と同じで、N 29° Eである。埋土は褐色粘土、灰黃褐色粘土へシルトで、底部付近では黒色シルトが少量認められた。

溝底部より10 cmほど浮いた所で土師器皿・鉢、ロクロ土師器が、溝底部付近から黒色土器、灰釉陶器、綠釉陶器などがまとまって出土した。

S K 17 S D 16 西側に接している。南側が調査区外となるが、長さ0.96 m以上、幅1.80 m、最深で0.12 mの楕円形とみられる土坑である。底は東側が深く、やや傾斜している。埋土は黄灰色シルトである。

埋土からは、図示した土師器甕、灰釉陶器、綠釉陶器が出土した。

S K 18 S K 17 の西側に接している。南側が調査区外となるが、長さ1.30 m以上、幅2.02 m、最深で0.12 mの不整形である。断面形は皿状で、底は平らである。

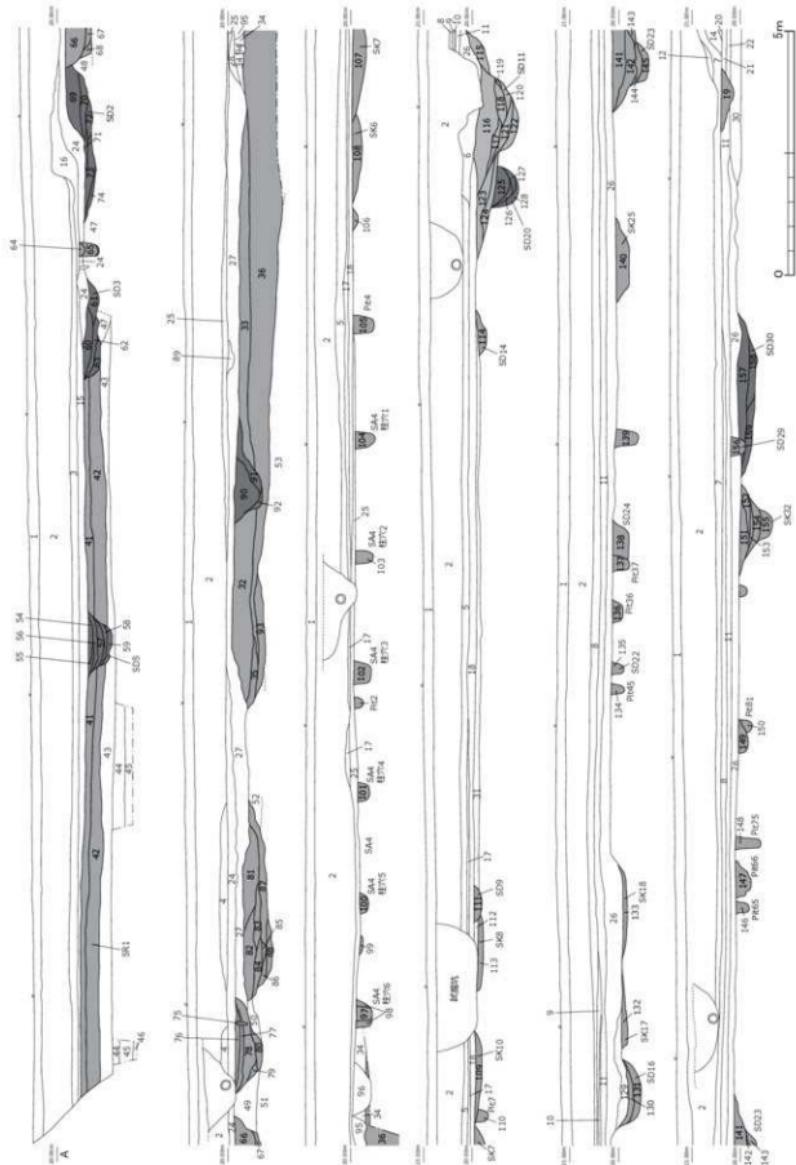
埋土からは、図示したものの他に、土師器甕、ロクロ土師器の小片が出土している。

S K 19 S K 18 から北東へ約3 mで確認した。北側が調査区外となる。長さ0.5 m以上×幅2.2 m、深さ0.13 mの土坑である。

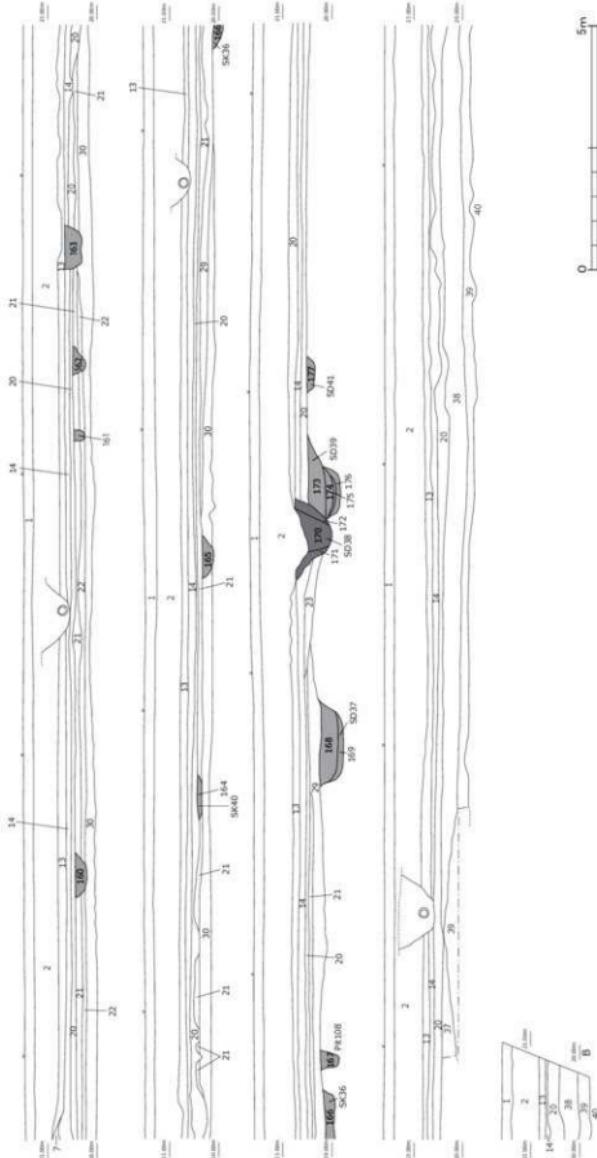
埋土から、図示したものの他に、灰釉陶器、綠釉陶器小片が出土している。

S D 20 S D 11 掘削後に、S D 11 の東側で確認した。幅0.8 m、最深0.56 mで断面形はU字状である。向きはS D 11 とほぼ同じである。

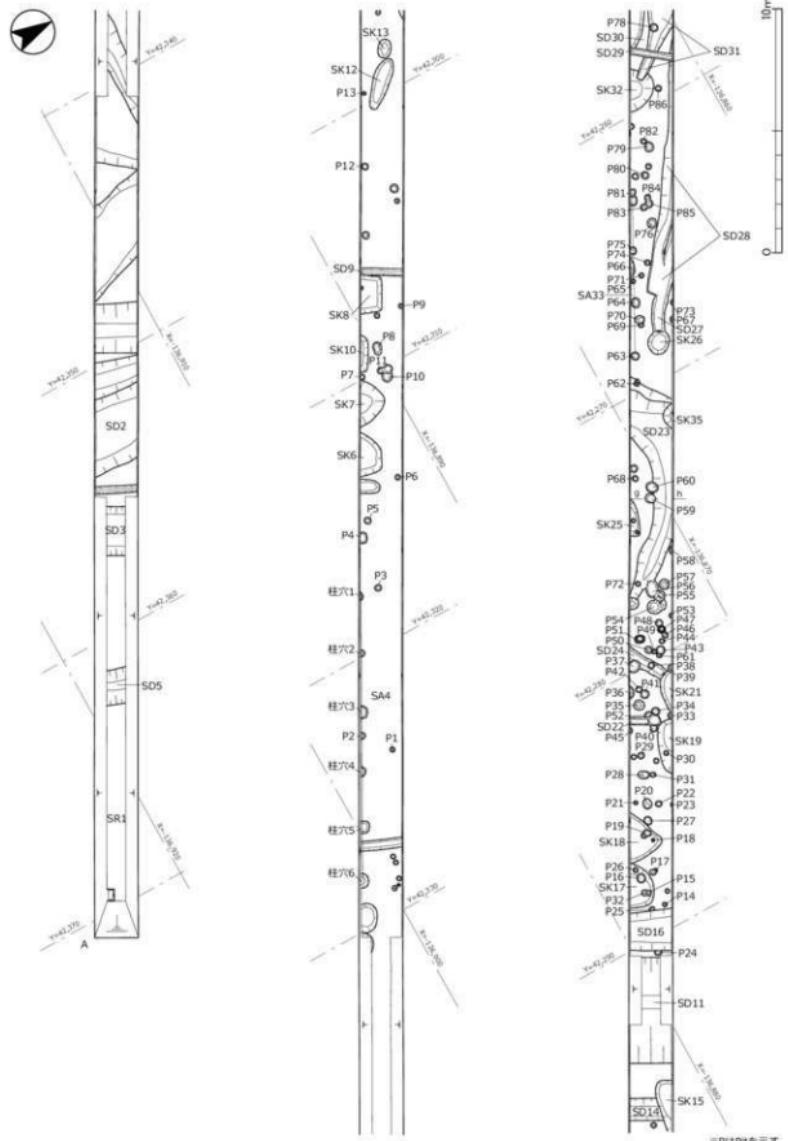
図示できなかつたものの、埋土からロクロ土師器



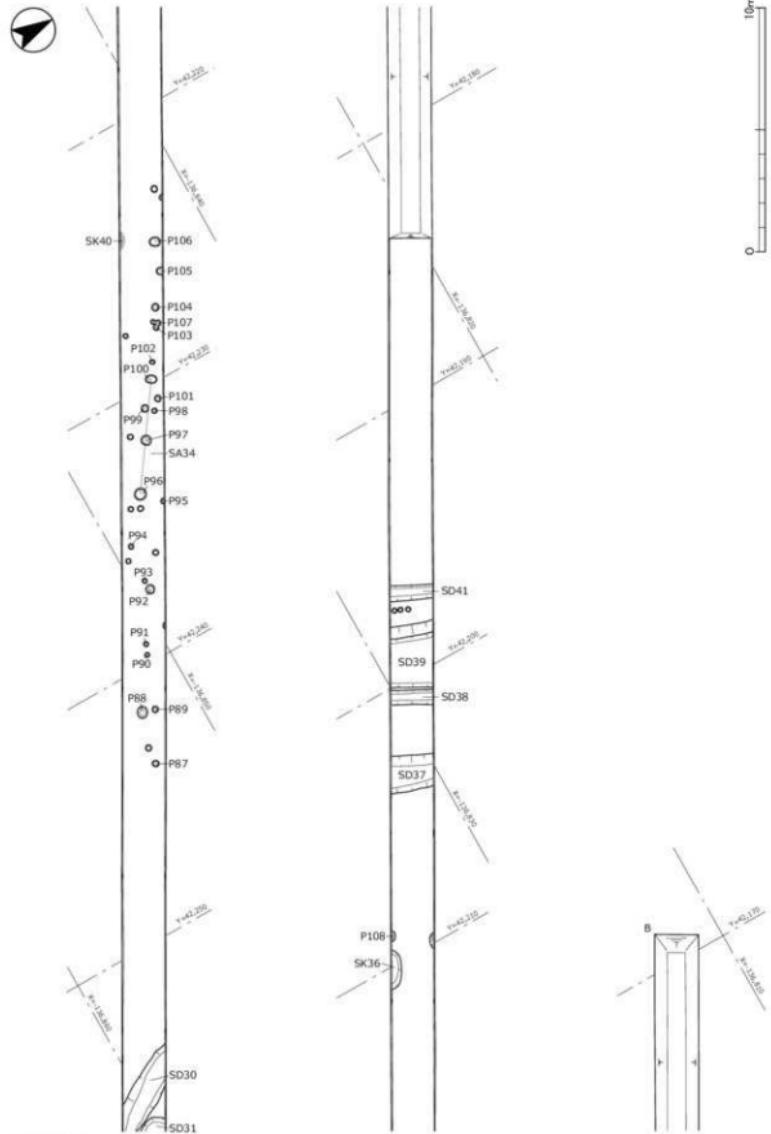
第16図 石名田遺跡南壁土層断面図① (1 / 100)



第17図 石名田遺跡南壁土層断面図② (1 / 100)



第18図 石名田遺跡平面図① (1/200)



第19図 石名田遺跡平面図② (1 / 200)

椀、黒色土器、陶器（山茶椀か）とみられる小片が出土した。

S K 21 S K 19の西側に近接している。北側が調査区外となる。長さ0.48m以上×幅1.68m以上、深さ0.14mの土坑である。S D 24、Pit39と重複しており、古い順からS D 24→S K 21→Pit39となる。

埋土から、図示したものの他、ロクロ土師器、常滑産陶器小片も出土している。

S D 22 S K 19の南西に隣接している。幅0.3m、最深で0.26mの断面形U字状の溝である。向きは調査区とほぼ直交し、S D 11・S D 14と同じN 29° Eである。埋土にはぶい黄褐色シルトをベースとしている。北端はPit（附番なし）と重複しており、S D 22はPitより古い。

埋土からは、図示したものの他、土師器、灰釉陶器、青磁小片が出土している。

S D 23 (第20図) 調査区東端から約105~115mで確認した。幅0.92~2.20m程、検出面からの最深0.76mである。調査区東端から約105m以西では向きが南東~北西(N 41° W)で、溝東端から約110m地点で屈曲し、北東~南西(N 49° E)となるL字状の溝である。断面形がV字状となり、区画溝と考えられる。S K 35、Pit59・60・62・72と重複しており、古い順から、S K 35→S D 23→Pit59・60・62・72となる。埋土は、大きくシルトへ極細砂を基本とする下位2層（南壁144・145層）と、シルトを基本とする上層（南壁141~143層）に分かれれる。

埋土からは図示したものの他、灰釉陶器、綠釉陶器、常滑産陶器片などが出土している。

S D 24 S D 22とS D 23の間で確認した。幅0.5m、検出面からの深さ0.34mの溝である。向きは、S D 23北東~南西(N 49° E)とほぼ揃っている。S K 21、Pit37・38と重複しており、古い順から、S D 24→S K 21・Pit37・Pit38となる。埋土にはぶい黄褐色シルトを基本とし、灰黄褐色シルトブロックを少量含む。

埋土から図示できなかったものの、土師器、ロクロ土師器、黒色土器、時期不明の陶器小片が出土している。

S K 25 調査区東端から約109mで確認した。南側が調査区外となる。長さ1.50m以上×幅0.38m

以上、深さ0.28mの土坑である。底部は平坦で、埋土は灰黄褐色シルトを基調とし、暗褐色シルトを少量含む。

埋土から、図示したものの他、土師器皿（ての字状の皿片を含む）・甕、灰釉陶器、綠釉陶器の小片も出土している。

S K 26 区画溝S D 23の西約1mで確認した。長さ0.96m×幅0.87m、深さ0.21mの土坑である。S D 27より新しい。

埋土からは図示したものの他、土師器、黒色土器小片も出土している。

S D 27 (第20図) S K 26の西隣で確認した。幅0.55m、やや蛇行するが、基本的に南東~北西方向である。S K 26、S D 28より古い。

埋土からは、図示した土師器皿のみ出土した。

S D 28 (第20図) S K 26の西隣で確認した。北側がS D 27と重複しており、幅は0.52m以上、深さ0.51mである。向きもS D 27とほぼ揃っている。S D 27より新しい。

埋土からは図示したものの他に土師器椀・皿・鍋、綠釉陶器、山茶椀の細片が出土している。

S D 29 調査区東壁から約128mで確認した。幅0.28m、最深で0.30mの断面形U字状の溝である。底は、南に向けて低くなる。向きは、N 39° Eである。埋土は褐灰色シルトを基調とする。調査区南壁の層序で包含層上面から掘削しており、重複するS D 30・31より新しい。

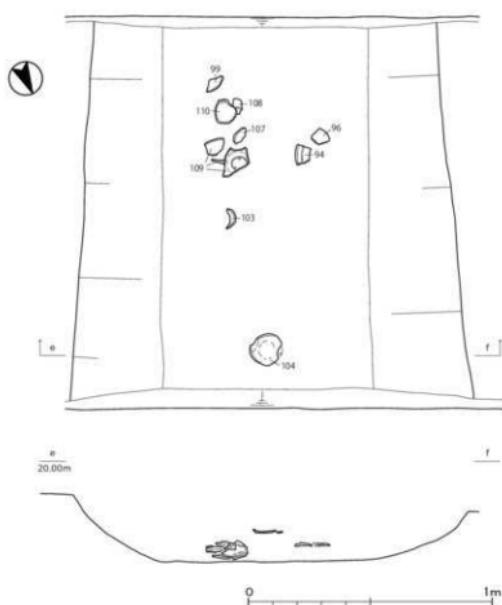
埋土からは、土師器、山茶椀の細片が出土したのみである。

S D 30 S D 29の西側で確認した。幅1.20m、深さ0.40mである。向きはN 32° Wである。埋土は、上層がにぶい黄褐色極細砂ににぶい黄褐色粗砂の互層、下層がにぶい黄褐色粗砂で一定の水流があったとみられる。重複するS D 29・S D 31より古い。

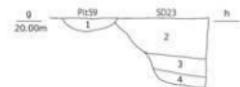
埋土から図示した土師器、須恵器が出土しており、時期は概ね7世紀前半~中頃の所産とみられる。

S D 31 S D 30の北側に接する幅1.02m、深さ0.41mの溝で、東側は幅が狭く、S D 29以西で大きくなっている。調査区北端でほぼ終息する。向きはN 36° Wである。S D 29・S D 30・S K 32・Pit78と重複

SD16



SD23



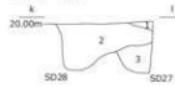
1. 10YR4/2灰黒褐色シルト—SD59埋土
2. 10YR3/2黒褐色シルト+10YR3/3暗褐色シルト5%
3. 10YR4/2灰黒褐色シルト+10YR4/4褐色シルト5%疊合
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色疊合層+10YR4/3に2.5Y3/2暗褐色シルト—SD23埋土

SD27



1. 10YR4/2灰黒褐色シルト+10YR4/4暗褐色シルトブロック5%含む

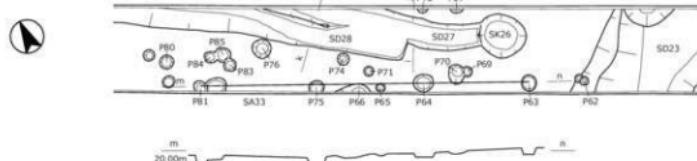
SD27・28



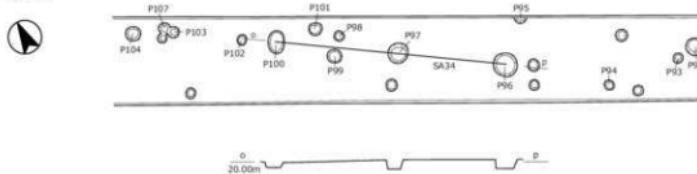
1. 10YR4/2灰黒褐色シルト—SD28埋土
2. 10YR3/2黒褐色シルト+10YR4/4C/5灰黒褐色シルト
ブロック5%含む—SD28埋土
3. 2.5Y3/2深褐色粘土+2.5Y5/4暗褐色シルトブロック5%含む
—SD27埋土



SA33



SA34



第20図 石名田遺跡SD16遺物出土状況見通し図(1/20)、SD23・27・28土層断面図(1/40)、SA33・34平面図・土層断面図(1/80)

しており、古い順から S D 30・S K 32→S D 31→Pit78・S D 29となる。

埋土からは、図示できなかつたが、土師器、縁軸陶器小片が出土している。

S K 32 S D 31の東側で重複している長さ0.96m以上×幅1.76m、最深0.68mのすり鉢状を呈す土坑である。埋土は、上層がオリーブ褐色細砂にぶい黄褐色シルトが混じり、下層は黒褐色シルトである。重複するS D 31より古い。

図示できなかつたが、埋土からは土師器皿・瓶とみられる小片、灰釉陶器小片が出土している。

S A 33 (第20図) 区画溝S D 23の西、S D 27・28の南側で確認した。東から、Pit63、Pit64、Pit75、Pit81で構成され、主軸はW28°N、2.25m等間である。柱穴底の標高は、東から19.83、19.58、19.59、19.76mとなり、中央2箇所が深い。調査区の幅が狭く、柱列での確認となつたが、さらに北側・南側へ広がり、掘立柱建物となる可能性が高い。

埋土からは、図示したものの他に、Pit63から土師器甕、ロクロ土師器小片が、Pit64壠形から縁軸陶器小片、Pit81から黒色土器小片が出土しており、概ね11世紀末～12世紀代のものとみられる。

S A 34 (第20図) 調査区東端から約156～161mで確認した。東から、Pit96、Pit97、Pit100で構成され、主軸はW35°N、2.0m等間である。柱穴底の標高は、東から19.79、19.79、19.80とほぼ同じ高さである。S A 33と同様、柱列での確認となつたが、掘立柱建物となる可能性が高い。

埋土からは図示したものの他、平安時代とみられる土師器小片が出土したのみである。

S K 35 区画溝S D 23の北西隅で確認した。北側が調査区外となる。長さ0.36m以上×幅1.03m以上、深さ0.73mである。

埋土から、図示したものの他に、古瀬戸陶器片、内側にかえりが付く口縁部の東濃型山茶碗小片が出土している。S D 23より新しいと思われる。

S K 36 調査区東端から182mで確認した。調査区南壁土層で確認したもので、規模は推定長さ0.40m以上×幅1.50m以上、深さ0.27mである。

図示できなかつたが、埋土から灰釉陶器小片が出土している。

S D 37 調査区東端から約190mで確認した。幅1.32～1.50m、深さ0.47mの断面形U字状の溝である。向きはN 28°Eを示す。

埋土から、時期不明の土師器、陶器小片が出土したが、図示しうるものはなかつた。

S D 38 S D 37の西約3mで確認した。調査区南壁土層を見る限り、旧水田面の上から掘削しており、新しいとみられる。向きはN 30°Eを示す。

埋土から、図示したものの他に近世磁器小片が出土している。

S D 39 S D 38の西隣で確認した。幅2.62m、最深で0.66mで、溝の西側は、上方では緩斜面だが、途中で勾配が急になる。向きはS D 37とほぼ同じである。

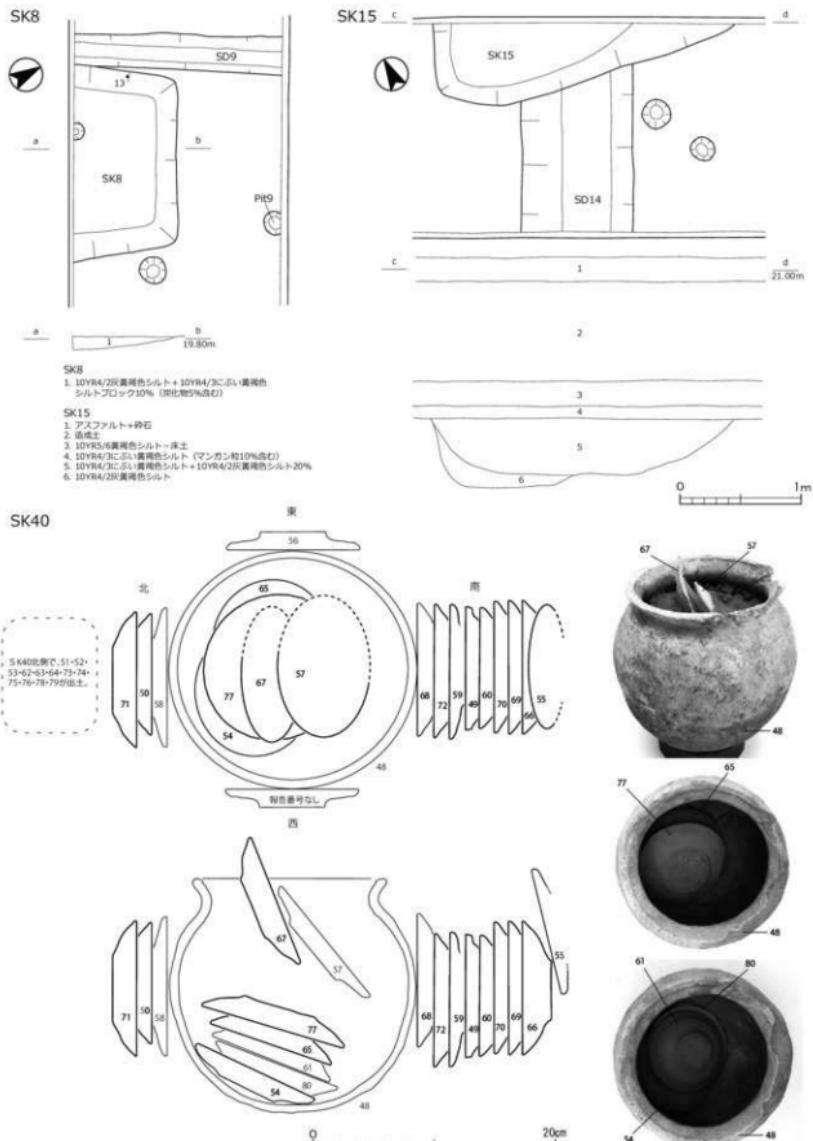
図示したものの他に、土師器甕、ロクロ土師器、灰釉陶器などの小片が出土した。

S K 40 (第21図) 調査区東端から約166.5mの南壁面で確認したもので、平面形態、規模は不明である。最初南壁面にあったロクロ土師器小皿を取り上げたところ、土師器甕1点とロクロ土師器小皿30点以上がまとめて出土した。48の土師器甕の中に底から順に54・80が正位置に、61・65・77を伏せた状態で、口縁部付近で57・67が傾いた状態で認められた。さらには土師器甕を中心に、北側にロクロ土師器小皿が立てた状態で3枚以上、南側も同じようにての字土師器小皿及びロクロ土師器小皿を立てた状態で9枚、東側と西側もロクロ土師器小皿を1枚ずつ立てた状態で確認する結果となつた。48の土師器甕の周辺の土師器小皿類はいずれも内面を土師器甕体部に向けて立てていた。状況から一括埋納した可能性が高い。時期は、雲出島貢遺跡中世成立期、2期新相併行、11世紀後葉～12世紀前葉に相当するとみられる。

S D 41 S D 39の西2mで確認した。幅0.64m、深さ0.20mと浅く、断面形は皿状である。向きはS D 37・S D 39とほぼ揃っている。

埋土からは、時期不明の土師器小片が出土したのみである。

Pit(柱穴)も、東から調査を進め、検出・掘削し、基本的には遺物が出土したものに、1番から順次付



第21図 石名田遺跡SK8・15 平面図・土層断面図 (1/40)、SK40 遺物出土状況模式図 (1/4)

与している。結果、Pit108まで附番した。

Pitは調査区東端から47m以西で確認し、粗密はあるものの、198mのSD41までに限られ、SD41以西では認められなかった。

なかでも特にSD11～SD31の間や、調査区東端から145～170mの間は、Pitが密集している。

Pitについては、規模等基本的な情報は遺構一覧表に掲載し、主だったもののみ記述する。

Pit32 調査区東端から約94mで確認した。0.26×0.22mの楕円形である。SK17掘削後に確認したPitであるが、山茶椀が出土しており、出土遺物からはSK17より新しいと考えられる。

Pit42 調査区東端から102mで確認した。0.26×0.24mの楕円形を呈し、深さは0.16mである。

埋土からは図示したものの他に、ロクロ土師器片が出土している。

Pit47 調査区東端から105mで確認した。0.34×0.30mの楕円形を呈し、根石を確認した。Pit46より古く、Pit48より新しい。

埋土からは図示したものの他に、平安時代末から鎌倉時代にかけての土師器、陶器小片が出土している。

Pit48 調査区東端から105mで確認した。0.30×0.28mの楕円形を呈し、根石を確認した。Pit47より古く。

埋土からは図示したものの他に、平安時代から鎌倉時代にかけての土師器小片が出土している。

Pit49 調査区東端から104mで確認した。0.18×0.18mと小さく、平面形は円形を呈す。Pit43・Pit49より古く。

埋土からは図示したものの他に、平安時代から鎌倉時代の土師器片・山茶椀片が出土している。

Pit54 調査区東端から106mで確認した。0.58×0.56mの楕円形を呈す。Pit55より新しい。

埋土からは図示したものの他に平安時代頃とみられる土師器片・陶器小片が出土している。

Pit62 調査区東端から115mで確認した。0.18×0.18mの円形を呈し、平面規模のわりに0.32mと深い。

埋土からは図示したものの他にほぼ同時期のものとみられる土師器・黒色土器小片が出土している。

Pit63 調査区東端から116mで確認した。SA33の東端にあたる。0.33×0.30mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものの他に平安時代の土師器甕、ロクロ土師器小片が出土している。

Pit64 調査区東端から118mで確認した。SA33の東から2番目の柱穴である。0.40×0.36mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものの他に、土師器・ロクロ土師器小片などが出土している。また、壺形からは233と接合しないものの、縁袖陶器片が出土している。

Pit74 調査区東端から120mで確認した。0.26×0.24mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものの他に、平安時代とみられる土師器小片が出土している。

Pit75 調査区東端から120mで確認した。SA33の東から3番目の柱穴である。0.32×0.22m以上で、調査区南壁より南へ広がる。

埋土からは図示したものの他に、平安時代とみられる土師器小片が出土している。

Pit76 調査区東端から121mで確認した。0.40×0.40mの円形を呈す。

埋土からは図示したものの他に、ロクロ土師器小片が出土している。

Pit78 調査区東端から130mで確認した。0.32×0.31mのほぼ円形で、SD31より新しい。

埋土からは図示したものの他に、柱痕跡部分からの字状の土師器皿片が出土している。

Pit81 調査区東端から122mで確認した。SA33の西端にあたる柱穴で、0.32×0.24mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものの他に、平安時代とみられる土師器・黒色土器小片が出土している。

Pit82 調査区東端から125mで確認した。0.25×0.22mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものの他に、平安時代とみられる土師器・黒色土器小片が出土している。

Pit85 調査区東端から122mで確認した。0.33×0.30mの楕円形を呈す。Pit83より新しい。

埋土からは図示したものの他にタールの付着した土師器皿片が出土している。

Pit88 調査区東端から147mで確認した。0.48×0.40mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものに他に土師器小片が出土している。

Pit96 調査区東端から156mで確認した。S A 34の東端にあたる柱穴である。0.48×0.46mの楕円形を呈す。

埋土からは図示したものに、平安時代頃とみられる土師器小片が出土した。

Pit97 調査区東端から158mで確認した。S A 34

の中央にあたる柱穴である。

出土遺物は認められなかった。

Pit100 調査区東端から161mで確認した。S A 34の西端にあたる柱穴である。0.46×0.32mの楕円形を呈す。図示し得るものは無かったが、平安時代とみられる土師器小片が出土している。

Pit108 調査区東端から184mで確認した。調査区南壁で確認したもので、規模及び平面形態は不明である。

図示したもの以外の出土遺物は認められなかった。

2 遺 物

今回の調査では、小ブケ遺跡と合わせてコンテナパット48箱分の遺物が出土した。

S K 6 (1~3) 1・2はロクロ土師器皿。2の底部は回転糸切り。2を台付小皿とみると、高台と底部の境が消失しつつあることから、12世紀中ごろから12世紀末ごろのもの。3はロクロ土師器椀あるいは皿の高台。

S K 7 (4~11) 4・5は土師器甕。口縁部のみ残存する。口縁端部を内側に巻き込む形状をなす。6はロクロ土師器椀。7はロクロ土師器皿。8はロクロ土師器椀あるいは皿の高台。9・11は灰釉陶器椀。高台の形状からみて11世紀前半ごろのもの。10は山茶椀。高台がやや低く、断面形状が逆三角形状をなすことから、藤澤編年の第4型式にあたり、12世紀前半から中ごろのものであろう。

S K 8 (12・13) 12は山茶椀。底部を欠く。口縁部形状はやや外反し、全体の厚みが底部に向かって増していくことからみて、藤澤編年の第4型式にあたり。13は石鏟。重量135g。

S K 12 (14) 14は山茶椀。底部のみ残存。高台部が低く、断面形状は逆三角形状であることや、口縁部に向かって直線状に立ち上がるようによく見えることから、藤澤編年の第7型式にあたる。13世紀中ごろのもの。

S K 15 (15~18) 15~17は土師器甕。口縁端部を内側へ巻き込む形状は、南伊勢系鍋の特徴を示す。この甕は南伊勢系鍋の前段階。18は山皿。藤澤編年の第4型式にあたるとみられる。

S K 17 (19~21) 19は土師器甕。20は灰釉陶器

椀。底部を欠いているが形状からみて、11世紀中ごろから後半にかけてのものであろう。21は緑釉陶器椀。底部のみ残存。全面施釉しており、近江系の特徴を有する。

S K 18 (22) 22は土師器皿。伊藤編年の中北勢中世IIIa期にあたり、15世紀前半ごろのもの。

S K 19 (23~32) 23~25は土師器小皿。26はロクロ土師器皿。底部は回転糸切り。27~29・31・32は山茶椀。27~29は藤澤編年の第4型式から第5型式にあたり、12世紀前半から13世紀初めごろのもの。31・32は高台がやや低く、31は体部の立ち上がりが直線的であることから、藤澤編年の第6型式から第7型式にあたり、13世紀後半ごろのものであり、やや幅がある。30は山茶椀小椀。高台が消失していることからみて、藤澤編年の第5型式以降のもの。

S K 21 (33~42) 33・34は土師器小皿。35~37は土師器皿。38~42は山茶椀。38は底部から口縁部に向かって直線的に立ち上がっており、藤澤編年の第7型式にあたる。39・42は高台が低く、逆台形状を呈していることから、藤澤編年の第6型式にあたり。40・41はこれらよりも高台が高く、逆三角形状であることや、40は底部が厚いことからみて、藤澤編年の第4型式にあたると考えられ、S K 21出土の山茶椀には、やや年代幅がある。

S K 25 (43・44) 43は土師器皿。44は鉄釘。

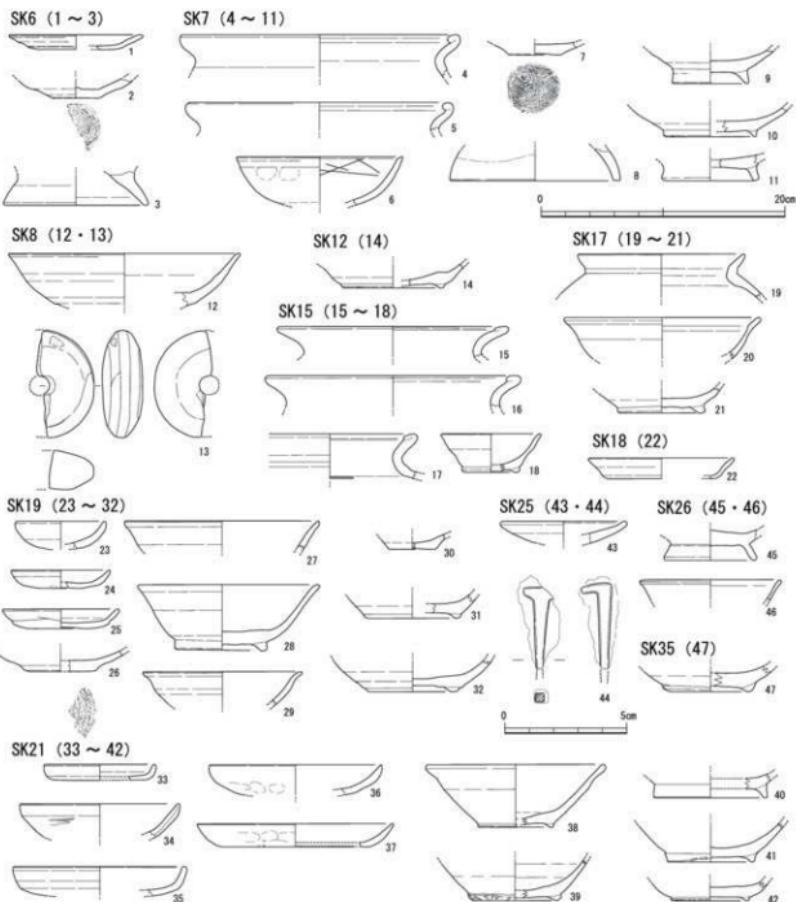
S K 26 (45・46) 45はロクロ土師器台付小皿の高台。46は灰釉陶器椀。11世紀前半ごろのものか。

S K 35 (47) 47は山茶椀。高台が低く逆台形を呈することから、藤澤編年の第6型式のもの。

S K 40 (48~80) 48は土師器甕。49は土師器での字小皿。50~80はロクロ土師器小皿。54・57・61・65・67・77・80は48の甕内部に、それ以外のものはその内面を甕に向け、甕の周囲に立てた状態でSK 40内におさめられていた。甕および小皿はその形状からみて、11世紀中ごろから12世紀初めごろのもの。
S D 2 (81・82・212~216) 212・213は土師器台付甕の脚部。81・214は須恵器杯H蓋。82・215・

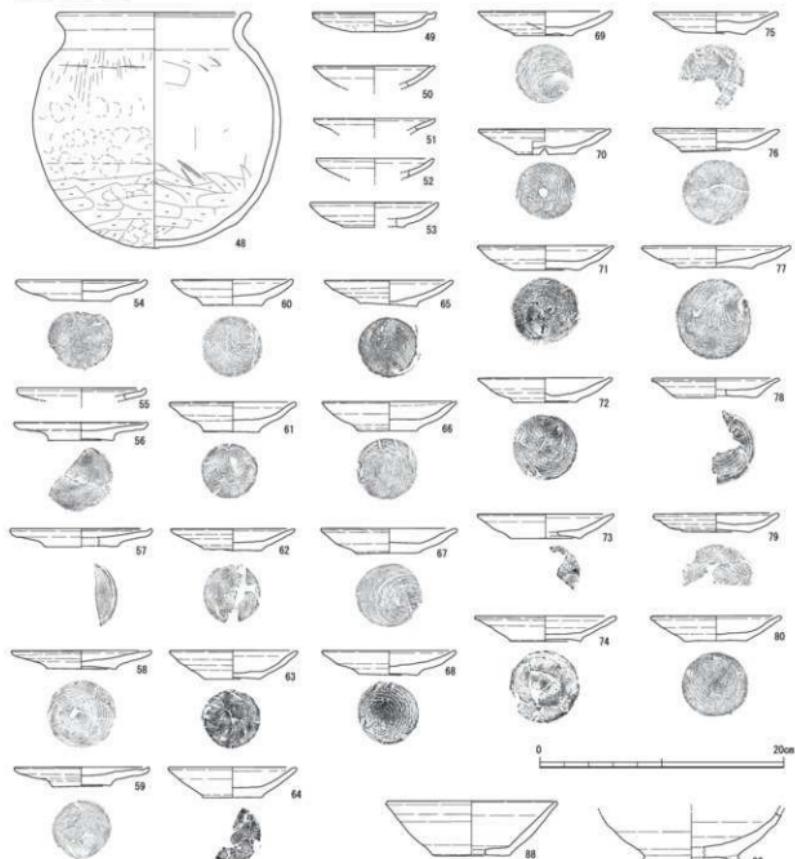
216は須恵器杯H。須恵器杯Hおよび蓋は6世紀後半から7世紀初めごろのもの。

S D 11 (83~91) 83は土師器小皿。84~90は山茶椀。藤澤編年第4型式から第5型式にあたるような高台が逆三角形状のもの(89)、体部下方に丸みをもつもの(90)など、古い特徴を有するものがある一方、第6・第7型式のような高台の低いもの(84~86)や、第8型式以降の高台が消失し、体部が直

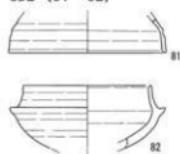


第22図 石名田遺跡出土遺物実測図① (44=1/2、その他=1/4)

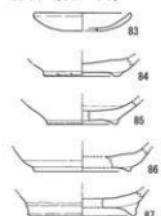
SK40 (48~80)



SD2 (81・82)



SD11 (83~91)



SD14 (92)



線的に立ち上がるるもの（88）があり、出土遺物にはやや年代幅がある。91は常滑焼の甕。

S D 14 (92) 92は土師器甕。口縁端部を内側へ巻き込むことから、南伊勢系土師器鍋の前段階と考えられる。

S D 16 (93～111) 93・94は土師器鉢。95は土師器小皿。96～102は土師器皿。103・104はロクロ土師器台付小皿。105～107は黒色土器（内面黒色）椀。108は灰釉陶器椀。109～111は綠釉陶器椀。全面施釉および高台形態は近江系の特徴を示す。109・111の底部内面には沈線が巡る。いずれも10世紀後半から11世紀初めごろのもの。

S D 22 (112・113) 112・113は山茶椀。藤澤編年の第4型式あるいは第5型式にあたる。

S D 23 (114～164) 114は土師器小皿。115～122は土師器皿。124は黒色土器（内面黒色）台付椀の高台。123はロクロ土師器台付小皿の高台。125～139・141・142はロクロ土師器小皿。140はロクロ土師器壺。143はロクロ土師器皿。144～146は土師器鍋。口縁端部を内側へ折り込む南伊勢系のもので、伊藤編年の南伊勢中世IIa期にあたり、13世紀中頃のもの。147～161は山茶椀。12世紀初めから14世紀初めごろまでのものがあり、やや広い年代幅がみとめられる。162・163は綠釉陶器椀。162は近江産以外の可能性がある。163は施釉範囲や底部内面に巡る沈線が近江系の特徴と合致する。164は鉄釘。

S D 27 (165) 165は土師器小皿。12世紀ごろのものか。

S D 28 (166～204) 166～169は土師器小皿。170～175は土師器皿。土師器皿類は概ね12世紀初めから末ごろにおさまる。176・177は土師器甕。178～182は土師器鍋。南伊勢系鍋の特徴を有しており、13世紀中ごろのもの。183・184はロクロ土師器台付小皿の底部。185・186は黒色土器（内面黒色）椀。187は須恵器甕の口縁部。188・189は灰釉陶器皿。11世紀初めから前半ごろまでのものを含む。190・191は綠釉陶器椀。190は高台部分と全面施釉が近江系の特徴を示す。191は近江産以外の可能性がある。192～203は山茶椀。藤澤編年の第6型式を中心としつつ、灰釉陶器から山茶椀へ移り変わる時期のもの（195）も含む。204は陶器鉢。

S D 30 (205～207) 205・206は土師器甕。207は須恵器杯H。7世紀前半から中ごろのもの。

S D 38 (208) 208は土師器小皿。12世紀ごろのものか。ただし、図化していないものの中に近世磁器小片が含まれているほか、S D 38の検出面が旧水田面であることからみて、208は混入品であろう。

S D 39 (209～211) 209は陶器耳皿。210・211は山茶椀。藤澤編年の第4型式のもの。

Pit 6 (217) 217は土師器皿。中世か。

Pit 8 (218) 218は土師器皿。平安時代～中世。

Pit 22 (219) 219は土師器皿。中世か。

Pit 28 (220) 220は土師器皿。中世か。

Pit 32 (221) 221は山茶椀。藤澤編年第6型式。

Pit 42 (222) 222綠釉陶器椀。近江産以外の可能性がある。

Pit 47 (223) 223は土師器皿。中世。

Pit 48 (224) 224は山茶椀。藤澤編年第6・7型式。

Pit 49 (225・226) 225は土師器皿。226は山茶椀。藤澤編年第6型式。

Pit 54 (227) 227は山茶椀。藤澤編年第5型式。

Pit 62 (228) 228はロクロ土師器椀。10世紀後半以降。

Pit 63 (229・230) 229はロクロ土師器椀。10世紀後半以降。230は鉄釘。

Pit 64 (231～233) 231はロクロ土師器皿。232は灰釉陶器椀。233は綠釉陶器椀。綠釉の色調や胎土の色調から近江産以外の産地が考えられる。ロクロ土師器及び灰釉陶器椀は9世紀後半から10世紀後半ごろの所産か。

Pit 74 (234) 234は黒色土器（内面黒色）椀。10世紀後半以降。

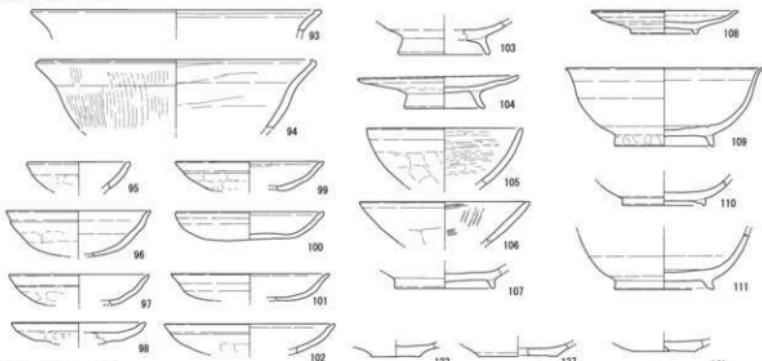
Pit 75 (235) 235は土師器椀。平安時代以降。

Pit 76 (236・237) 236・237は土師器小皿。中世。

Pit 78 (238～247) 238は土師器皿。239～242はロクロ土師器小皿。243（内面黒色）・244（両面黒色）は黒色土器椀。245・246は灰釉陶器椀。247は綠釉陶器椀。近江産以外の可能性が考えられる。いずれも9世紀後半から11世紀後半の範囲におさまる。

Pit 81 (248～250) 248は土師器皿。249はロクロ土師器皿。250はミニチュア土器。いずれも平安時代以降か。

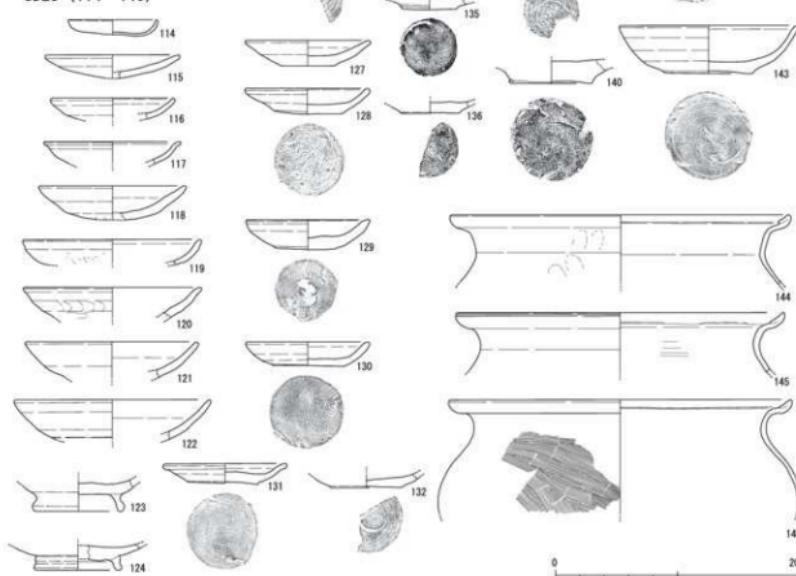
SD16 (93~111)



SD22 (112・113)



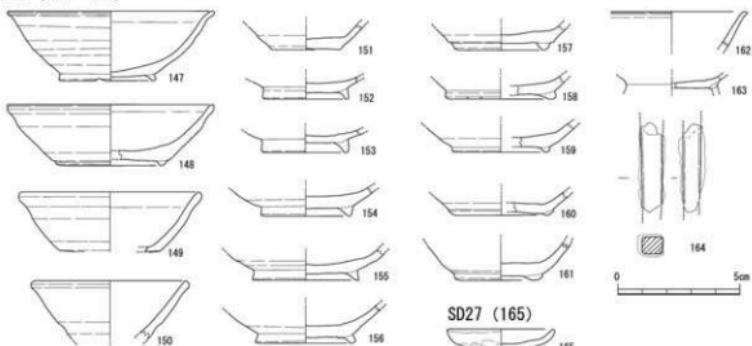
SD23 (114~146)



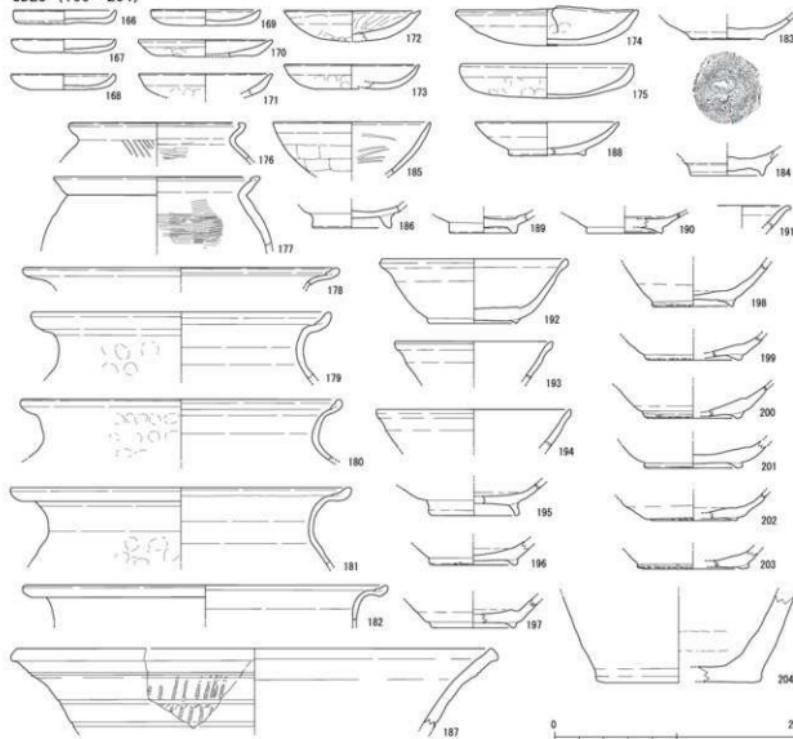
0 20cm

第24図 石名田遺跡出土遺物実測図③ (1 / 4)

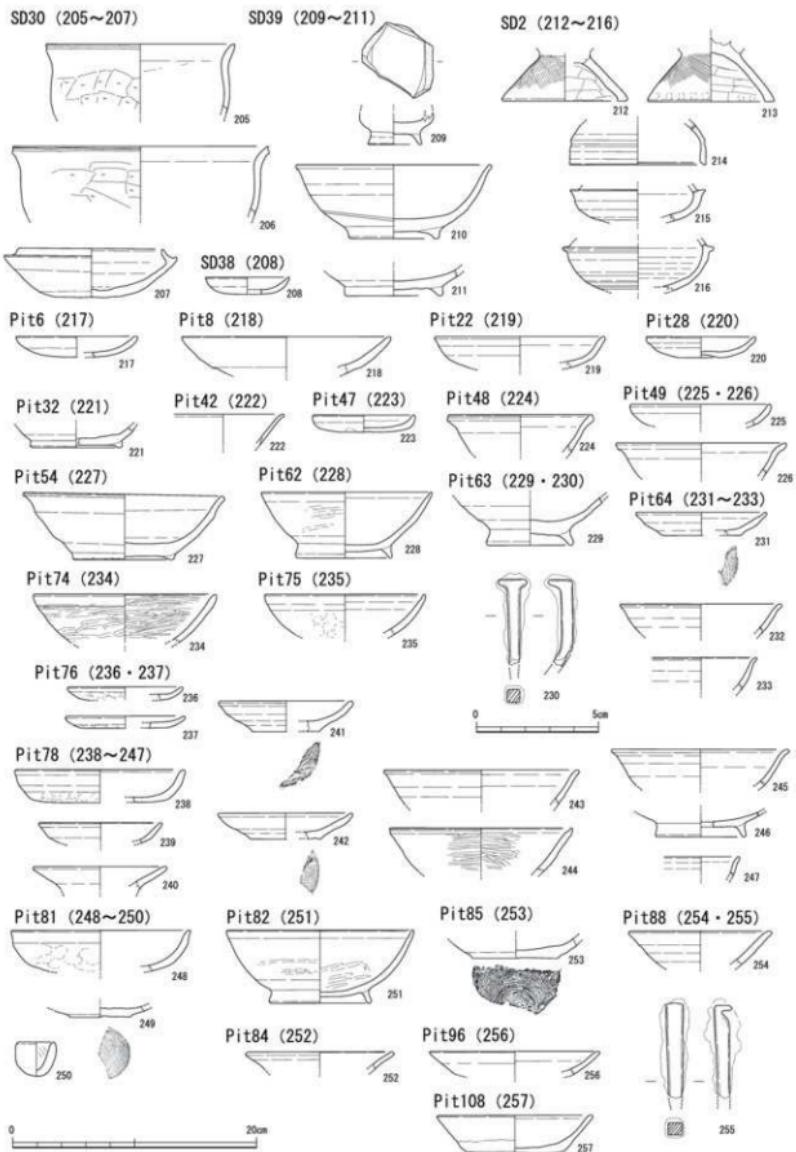
SD23 (147~164)



SD28 (166~204)

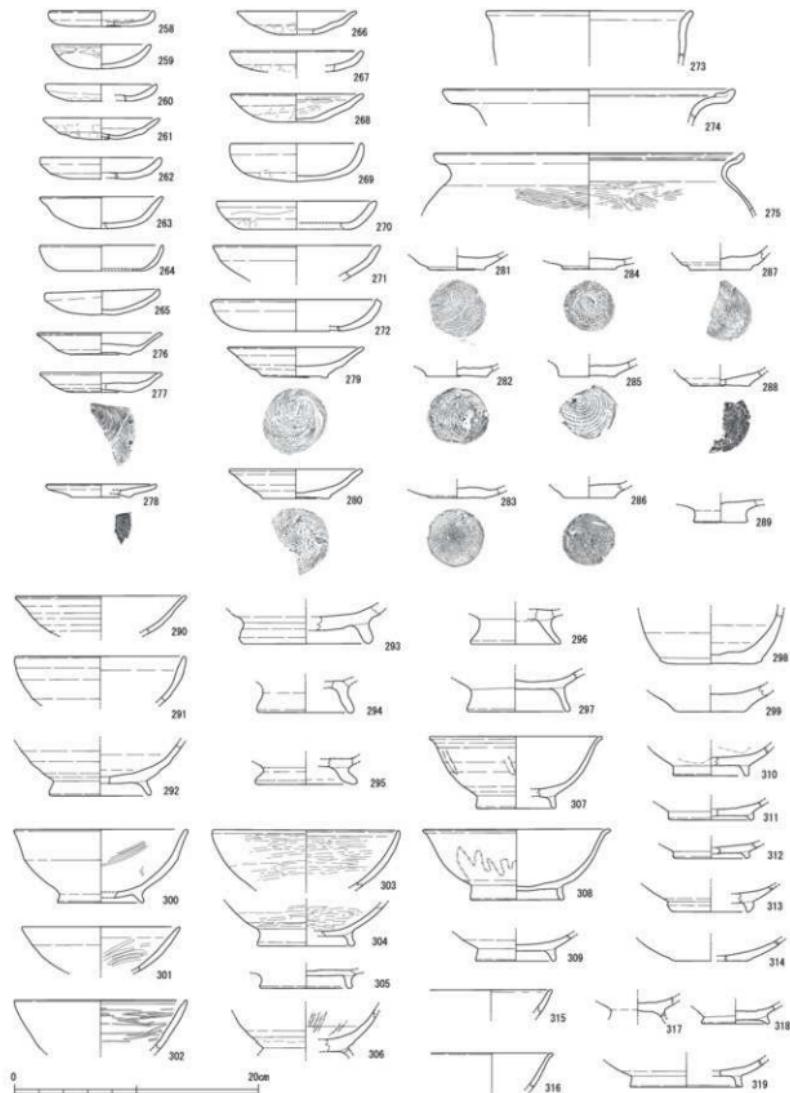


第25図 石名田遺跡出土遺物実測図④ (164 = 1 / 2、その他 = 1 / 4)



第26図 石名田遺跡出土遺物実測図⑤ (230・255 = 1 / 2、その他 = 1 / 4)

包含層 (258~319)



第27図 石名田遺跡出土遺物実測図⑥ (1 / 4)

Pit82 (251) 251は黒色土器(内面黒色)椀。11世紀中ごろのもの。

Pit84 (252) 252はロクロ土師器皿。平安時代。

Pit85 (253) 253はロクロ土師器皿。平安時代～中世。

Pit88 (254・255) 254はロクロ土師器小皿。255は鉄釘。平安時代～中世。

Pit96 (256) 256はロクロ土師器皿。平安時代。

Pit108 (257) 257は土師器皿。平安時代。

包含層(258～362) 258～266は土師器小皿。267～272は土師器皿。273は土師器壺。274・275は土師器鍋。276～288はロクロ土師器皿。289はロクロ土師器台付小皿。290～297・299はロクロ土師器椀。298はロクロ土師器壺。300～306は、黒色土器(内面黒色)椀。307～313は、灰釉陶器椀。314は灰釉陶器皿。315～319は緑釉陶器椀。315は緑釉及び胎土

の色調から近江産以外の可能性が考えられる。316も近江産以外の可能性がある。317～319は施釉範囲や高台形状(319)、底部内面の沈線(317・318)がみられるため、近江産の可能性が高い。320～325は山皿。326～355は山茶椀。356・357は陶器椀。358・359は常滑焼鉢。360は陶製の加工円盤。361・362は白磁碗。

参考文献

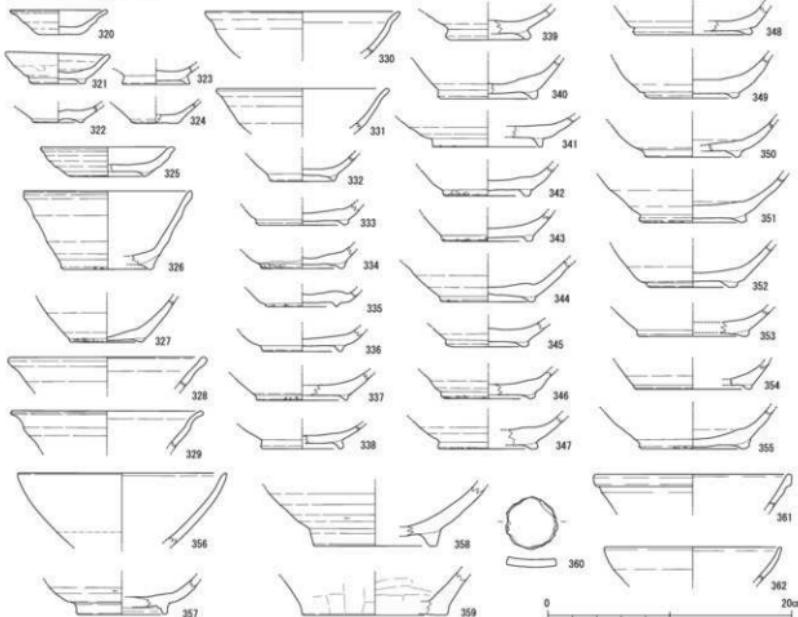
伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相～雲出島貴遺跡出土資料を中心に～」『嶠抜II』三重県埋蔵文化財センター2000

伊藤裕偉「北勢地域の中世土器」『三重県史 資料編 考古2』三重県 2008

伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史 資料編 考古2』三重県 2008

藤原良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号 三

包含層(320～362)



第28図 石名田遺跡出土遺物実測図⑦ (1 / 4)

重畠埋蔵文化財センター 1994

畜宮歴史博物館「第四章 畜宮跡の土器」『畜宮跡発掘調査報告 内院地区的調査 本文編』 2001

愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 黑葉1 古代 猿投系』 愛知県 2015

愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 黒葉3 中世・近世 常滑系』 愛知県 2012

奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告V』奈良文化財研究所学報第94冊 2017

3 小 結

石名田遺跡の調査では、古墳時代後期（7世紀前後）、平安時代後期から鎌倉時代（11～13世紀代）、室町時代（15世紀代）の遺構と遺物が確認された。

古墳時代後期よりも古い遺構・遺物が確認できない点では、隣接する小ブケ遺跡（第4次）2地区と類似し、小ブケ遺跡1区や柳垣内遺跡と様相が異なる。古墳時代後期の遺構面より下位層に砂層が多いことからも、その段階の石名田遺跡は氾濫原となっていたり、人々が定住するのに適していなかったと思われる。古墳時代後期の遺構も溝2条のみで、居住域の縁辺部であったとみられる。

平安時代後期から鎌倉時代の遺構および遺物は多く認められた。遺構では溝・土坑のほか、掘立柱建物になる可能性の高い柱列が確認でき、調査地をふくむ一帯が居住域であったのは明らかである。特に11世紀代の出土遺物は、土師器・陶器の他にロクロ土師器や黒色土器、縁釉陶器などがあり、バラエティーに富んでいる。特に縁釉陶器についてはSD16・SK17・SD23・SD28・SA33などから出土しており、小片が多く図示した点数は16点にとどまるが、破片も含めるとその出土地点の多さは特筆すべきものがある。また、出土した縁釉陶器についてはその大半が近江産であると考えられるが、近江産以外と考えられるものも含んでおり、当地域の交流関係の範囲を示唆する可能性がある。

このほか特筆すべき遺構および遺物として、SK40およびその出土品がある。SK40は、土師器甕の内外に土師器小皿とロクロ土師器小皿を埋納した土坑で、その出土品は11世紀中ごろから12世紀初めごろの一括資料となりうるものである。出土小皿のうち、ての字小皿が1点、それ以外はすべてロクロ土師器小皿である。54～59のロクロ土師器小皿は口縁部に強いナデ調整をほどこすこと、口縁端部を内側に巻き込むような形状をなす。これは、ての字小皿の成形手法が影響していることを示唆するものである可能性がある。

なお、今回確認したSK40は、遺憾ながらトレンドの埋め戻し直前に崩壊の恐れがあった壁面で発見されたため、危険を回避して十分な調査ができなかつた。ただし調査の結果、外容器としての土師器甕があり、その内部には7点のロクロ土師器小皿をおさめ、さらに外容器の外側に接するかたちで少なくとも14点以上の土師器小皿（ての字小皿）とロクロ土師器小皿を埋納したものであることを確認した。それらの埋納状況などを鑑み、可能な限りでSK40の位置づけについて検討を行うこととした。

まず、SK40内に埋納した土器の状況をみてみると、第21回復元図のように土師器甕内のロクロ土師器小皿は、2枚を正位に置いた上に3枚を逆位にのせて合わせ口状になっている。なお、土師器甕の外面部底部が黒色化していることから、埋納前に煮炊きなどに使用したと考えられる。つぎに、甕外に埋納した小皿は、いずれも立てた状態で内面を甕に向けていた。この状況から、埋納には何らかの意図があり、少なくともSK40が単なる廃棄物処理土坑ではないことは明らかである。

甕外に埋納した14点の中には、1点のみではあるが、「ての字小皿」を含んでいる。法量からみて京都産のものではなく、津市雲出島貴遺跡でよくみられる在地産のものであろう。松阪市堀町遺跡では、井戸への埋納でその存在が確認されており、比較的希少なものを埋納したものと考えられている。このことから、SK40の「ての字小皿」も同様の意図があったものとみてよいだろう。

土器の埋納状況や、比較的希少なものを埋納していることから、SK40出土遺物は何らかの儀礼に伴って埋納したものと考えられるが、煮炊具の内部に土器をおさめたものを、皿類などの食器具とともに埋納する類例は、同時期のものを現時点では確認できていない。

しかしながら、時代がやや新しいものではあるが、いくつか類例を確認することができた。まず、愛媛

県松山市梅味四反地遺跡では、土師器甌に土師器皿を3点、うち2点は合わせ口状におさめ、その周囲に残りの1点と石4点をおさめたものを確認した。時期は13世紀後半ごろまでにおさまると考えられ、地鎮あるいは何らかの祭祀によるものとみられている。つぎに、14世紀後半から16あるいは17世紀ごろの土器埋納遺構が大阪府河内長野市天野山金剛寺遺跡などで確認できた。これは真言宗の地鎮手法の一つである「土公供・地天供」と呼ばれる儀式に伴う遺構と考えられている。土坑に埋納した瓦質土釜内部およびその周囲に土師器皿や瓦質の皿・錢貨などをおさめたものであり、同遺跡では複数例見つかっている。それ以外に周囲の寺社境内や府内の遺跡等でも同様の遺構が複数見つかっており、大阪府堺環濠都市遺跡では15世紀末から16世紀初めごろの土器埋納遺構として、土師質鍋に8点の土師器皿をおさめたものが出土している。

これらの類例と今回のSK40を単純に比較することは避けるべきではあるものの、煮炊具に皿類をおさめたものを土坑へ埋納するという点では類似していると言えよう。

今後、県内の地鎮遺構や同時期の土器埋納遺構の類例の増加をまって、改めて検討を行う必要があるものの、以上のことからみてSK40およびその出土

品はその状況からみると、何らかの意図がみられるることは確実である。また、時期の離れた類例ではあるが、真言宗の地鎮式による土器埋納遺構と類似する点があることからは、SK40を地鎮あるいは何らかの祭祀に伴う土器埋納遺構として位置づけることは十分に妥当性があるだろう。

なお、SK40の地鎮あるいは祭祀の候補については、その周囲に建物が確認できていないため、少なくとも建物に伴う地鎮や祭祀ではないと考えられるが、その要因は不明である。しかし、その検出層には土器片が含まれていることから考えると、整地あるいは、この一帯の地鎮や祭祀などが候補としてあげられよう。

参考文献

- 河内長野市教育委員会、河内長野市遺跡調査会『天野山金剛寺遺跡』河内長野市遺跡発掘調査報告29 2000
松山市教育委員会、財団法人松山市文化・スポーツ振興財团埋蔵文化財センター『梅味四反地遺跡』松山市文化財調査報告書151 2011
三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡(第5次)』発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告365 2016
三重県埋蔵文化財センター『船坂II』三重県埋蔵文化財調査報告書212-1 2000

遺構番号	位置	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底レベル (標高m)	備考
SRI	0~16	不明	—	—	—	—	SD3・SD5より古い
SD2	20	古墳	—	2.90	0.50	19.45	
SD3	18	平安～鎌倉	—	2.00	0.32	19.38	
SA4	48~60	不明					5間の柱列、2.4m等間
SD5	10	不明	—	1.40	0.55	19.00	
SK6	65	平安	1.8以上	0.90	0.20	19.65	SK7より古い
SK7	68	平安	1.97以上	1.00	0.28	19.52	SK6より新しい
SK8	72	平安	0.84以上	1.62	0.20	19.67	SD9より古い
SD9	73	不明	—	0.30	0.16	19.80	SK8より新しい
SK10	70	平安	0.3以上	1.50	0.12	19.75	Pit7より新しい
SD11	87	平安～鎌倉	—	4.40	0.84	18.79	SD20より新しい
SK12	81	鎌倉	2.2	0.70	0.14		
SK13	82	鎌倉	0.78	0.54	0.10		
SD14	85	平安	—	0.95	0.18	19.71	SK15より古い
SK15	85	平安～鎌倉	2.5以上	0.68以上	0.56		SD14より新しい
SD16	92	平安	—	1.50～1.66	0.31	19.55	
SK17	94	平安～鎌倉	0.96以上	1.80	0.12	19.76	
SK18	96	平安	1.30以上	2.02	0.12	19.81	
SK19	100	平安～鎌倉	0.5以上	2.20	0.13		
SD20	85	平安	—	0.80	0.56	19.03	SD11より古い
SK21	102	平安	0.48以上	1.68以上	0.14		SD24より新しい、Pit39より古い
SD22	101	平安～鎌倉	—	0.30	0.26	19.71	Pit (附番なし) より古い
SD23	105～115	平安～鎌倉	—	0.92～2.20程	0.76	19.13	区画譜、SK35より新しい。Pit59・ 60・62・72より新しい
SD24	103	平安か	—	0.50	0.34	19.73	SK21・Pit37・38より古い
SK25	109	平安	1.50以上	0.38以上	0.28	19.74	
SK26	116	平安	0.96	0.87	0.21	19.88	SD27より新しい
SD27	117～120	平安か	—	0.55	0.34	19.58	SK26・SD28より古い
SD28	118～125	平安～鎌倉	—	0.52以上	0.51	19.43	SD27より新しい
SD29	128	鎌倉か	—	0.28	0.30	19.71	SD30・31より新しい
SD30	127～131	古墳	—	1.20	0.40	19.61	SD29・31より古い
SD31	128～134	平安～鎌倉か	—	1.02	0.41	19.49	SD30・SK32より新しい。Pit78・SD29 より古い
SK32	127	平安	0.96以上	17.60	0.68	19.09	SD31より古い
SA33	116～123	平安					3間の柱列、2.25m等間
SA34	156～161	平安					2間の柱列、2.0m等間
SK35	113	室町	0.36以上	1.03以上	0.73	19.36	SD23より新しいか

第3表 石名田遺跡遺構一覧表

遺構番号	位置	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底レベル (標高m)	備考
SK36	182	平安か	0.40以上	1.50以上	0.27	19.90	
SD37	190	不明	—	1.32~1.50	0.47	19.78	
SD38	194	近世以降	—	0.95	0.05	19.96	
SD39	195	平安	—	2.62	0.66	19.74	
SK40	166	平安	—	—	—		平面規模不明 南壁土層内に土師器甕1点、ロクロ土 師器壺30点以上まとまって出土
SD41	198	不明	—	0.64	0.20	20.30	
Pit 1	54	平安	0.20	0.18	0.12	19.73	
Pit 2	54	—	—	—	—	—	規模・深さ不明
Pit 3	60	不明	0.28	0.26	0.93	18.82	
Pit 4	62	平安	0.46	0.28	0.37	19.58	
Pit 5	63	平安～鎌倉	0.28	0.28	0.04	19.81	
Pit 6	65	平安～鎌倉	0.22	0.20	—	—	深さ不明
Pit 7	69	不明	0.22	0.14	0.22	19.68	SK10より古い
Pit 8	70	平安～鎌倉	0.51	0.33	0.47	19.41	
Pit 9	72	平安	0.19	0.13以上	—	—	深さ不明
Pit 10	69	平安	0.48	0.47	0.24	19.62	
Pit 11	69	不明	0.30	0.26	0.23	19.63	
Pit 12	78	鎌倉か	0.27	0.23	0.12	19.63	
Pit 13	81	不明	0.14	0.14	0.07	19.65	
Pit 14	93	鎌倉	0.19	0.18	0.36	19.42	
Pit 15	94	平安～鎌倉	0.24	0.20	0.34	19.44	
Pit 16	94	平安～鎌倉	0.36	0.36	0.13	19.65	
Pit 17	95	不明	0.17	0.16			深さ不明 Pit (附番なし) より新しい
Pit 18	96	不明	0.14	0.12	0.17	19.61	
Pit 19	96	不明	0.34	0.28	0.19	19.55	
Pit 20	98	平安～鎌倉	0.44	0.33	0.33	19.52	
Pit 21	98	不明	0.16	0.16	0.19	19.71	
Pit 22	98	平安～鎌倉	0.41	0.36	0.05	19.77	
Pit 23	98	不明	0.16	0.05以上			深さ不明
Pit 24	91	不明	0.29	0.20以上	0.04	19.79	SD16より古い
Pit 25	93	平安～鎌倉	0.23	0.17以上	0.18	19.60	SD16より古い
Pit 26	95	不明	0.20	0.20	0.17	19.63	
Pit 27	97	不明	0.36	0.32	0.35	19.70	
Pit 28	99	平安	0.49	0.32	0.61	19.30	
Pit 29	100	平安～鎌倉	0.28	0.26	0.08	19.79	

遺構番号	位置	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底レベル (標高m)	備考
Pit30	100	不明	0.20	0.20	0.13	19.74	SK19より新しい
Pit31	99	平安～鎌倉	0.26	0.20	0.37	19.41	
Pit32	94	平安～鎌倉	0.26	0.22	0.17	19.57	SK17より新しいか
Pit33	101	平安	0.24	0.14以上	0.26	19.75	
Pit34	101	平安～鎌倉	0.35	0.32	(-) 0.21	(-) 19.74	根石あり、Pit32より新しい
Pit35	102	平安～鎌倉	0.44	0.42	0.21	19.77	
Pit36	102	不明	0.44	0.42	0.21	19.87	
Pit37	103	平安～鎌倉	0.50以上	0.46	0.25	19.77	SD24より古い
Pit38	103	平安～鎌倉	0.27	0.27	0.85	19.16	SD24より新しい
Pit39	103	平安～鎌倉	0.29	0.07以上	0.52	19.53	SK21より新しい
Pit40	100	鎌倉	0.28	0.24以上	0.24	19.74	SD22より古い
Pit41	102	平安	0.33	0.32	(-) 0.16	(-) 19.81	根石あり
Pit42	102	平安	0.26	0.24	0.16	19.81	
Pit43	104	平安	0.37	0.34	0.13	19.81	根石あり Pit49・Pit61より新しい
Pit44	104	平安～鎌倉	0.21	0.20	0.22	19.71	
Pit45	100	不明	0.22	0.10以上	0.12	19.88	
Pit46	104	平安か	0.26	0.22	0.22	19.74	Pit47・Pit48より新しい
Pit47	105	平安～鎌倉	0.34	0.30	(0) —	(19.96) —	根石あり、深さ不明 Pit46より古く、Pit48より新しい
Pit48	105	平安～鎌倉	0.30	0.28	0.42	19.60	根石あり
Pit49	104	平安～鎌倉	0.18	0.18	0.26	19.70	Pit43・Pit50より古い
Pit50	104	平安～鎌倉	0.28	0.28	0.27	19.70	Pit49より新しい
Pit51	104	不明	0.40	0.31	(-0.01) 0.12	(19.98) 19.85	根石あり
Pit52	101	不明	0.32	0.20以上	0.22	19.73	SD22より古い
Pit53	105	不明	0.2	0.10以上	0.24	19.80	
Pit54	106	平安～鎌倉	0.58	0.56	0.54	19.47	Pit54より新しい
Pit55	106	平安～鎌倉	0.42以上	0.32以上	0.27	19.74	Pit54より古い 深い所から縁袖陶器片出土
Pit56	106	鎌倉	0.70以上	0.50	0.11	19.90	SD23より古くPit55より新しい
Pit57	106	平安～鎌倉	0.40	0.40	0.52	19.50	
Pit58	108	平安	0.34	0.10以上			深さ不明
Pit59	110	平安～鎌倉	0.44以上	0.42	0.25	19.78	SD23より古い
Pit60	110	平安	0.50	0.44	0.43	19.57	SD23より新しい
Pit61	104	不明	0.24	0.14以上	0.05	19.91	Pit43より古い
Pit62	115	平安	0.18	0.18	0.42	19.65	
Pit63	116	平安	0.33	0.30	0.25	19.83	SA33
Pit64	118	平安	0.40	0.36	0.36	19.58	SA33 瓶形から縁袖陶器片出土
Pit65	119	不明	0.18	0.18	0.12	19.80	

遺構番号	位置	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底レベル (標高m)	備考
Pit66	119	平安か	0.54以上	0.18以上	0.49	19.59	
Pit67	117	平安	0.26	0.09以上	0.02	20.02	
Pit68	111	不明	0.24	0.22	0.49	19.47	
Pit69	117	平安～鎌倉	0.22	0.21	0.16	19.81	Pit70より新しい
Pit70	117	平安	0.40	0.30	0.19	19.75	Pit69より古い
Pit71	119	平安	0.20	0.20	0.10	19.80	
Pit72	107	平安～鎌倉	0.20	0.20	0.27	19.73	
Pit73	118	不明	0.22	0.09以上	0.13	19.84	
Pit74	120	平安	0.26	0.24	0.13	19.80	
Pit75	120	平安	0.32	0.22以上	0.37	19.59	SA33
Pit76	121	平安	0.40	0.40	0.23	19.33	
Pit77							欠番
Pit78	130	平安	0.32	0.31	0.25	19.71	SB31より新しい
Pit79	124	平安か	0.40	0.35	0.19	19.81	
Pit80	123	平安	0.29	0.28	0.25	19.79	
Pit81	122	平安	0.32	0.24	0.28	19.76	SA33
Pit82	125	平安	0.25	0.20	0.16	19.84	
Pit83	122	鎌倉	0.26	0.24	0.44	19.44	Pit85より古い
Pit84	122	平安	0.24以上	0.24	0.36	19.66	
Pit85	122	平安～鎌倉	0.33	0.30	0.14	19.88	Pit83より新しい
Pit86	127	平安～鎌倉	0.25	0.24	0.32	19.69	
Pit87	145	不明	0.27	0.24	0.46	19.60	
Pit88	147	平安	0.48	0.40	0.52	19.58	
Pit89	147	平安か	0.24	0.24	0.33	19.77	
Pit90	150	不明	0.20	0.20	0.30	19.73	
Pit91	150	平安か	0.20	0.20	0.25	19.81	
Pit92	152	鎌倉	0.36	0.36	0.31	19.74	
Pit93	152	不明	0.19	0.18	0.25	19.80	
Pit94	154	不明	0.20	0.20	0.08	19.97	
Pit95	156	平安～鎌倉	0.22	0.12	0.12	19.92	
Pit96	156	平安	0.48	0.46	0.23	19.79	SA34
Pit97	158	平安か	0.40	0.40	0.25	19.79	SA34。遺物出土せず
Pit98	160	平安～鎌倉	0.22	0.20	0.15	19.90	
Pit99	160	平安～鎌倉	0.28	0.28	0.43	19.60	
Pit100	161	平安	0.46	0.32	0.20	19.80	SA34
Pit101	160	不明	0.26	0.24	0.25	19.76	

遺構番号	位置	時代	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	底レベル (標高m)	備考
Pit102	161	不明	0.22	0.20	0.24	19.78	
Pit103	163	不明	0.24	0.24	0.12	19.91	
Pit104	164	平安～鎌倉	0.28	0.26	0.21	19.86	
Pit105	165	不明	0.30	0.24以上	0.15	19.90	
Pit106	166	不明	0.44	0.37	0.08	19.95	
Pit107	163	平安	0.24	0.23	0.29	19.78	
Pit108	184	平安	—	—	0.40	19.80	調査区南壁で確認
柱穴 1	60	不明	0.28	0.05以上	0.27	19.50	SA4、遺物出土せず
柱穴 2	58	不明	0.28	0.17以上	0.20	19.53	SA4、遺物出土せず
柱穴 3	55	不明	0.54	0.30以上	0.30	19.52	SA4、遺物出土せず
柱穴 4	53	不明	0.40	0.20以上	0.28	19.59	SA4、遺物出土せず
柱穴 5	51	不明	0.50	0.32以上	0.21	19.60	SA4、遺物出土せず
柱穴 6	48	不明	0.55	0.31以上	0.29	19.53	SA4、遺物出土せず

*位置：調査区東端を0として、何mの場所にくるかを示す

*深さ：検出面からの深さを示す

*底レベル：底の標高を示す

*根石のあるものは、深さ及び底レベルの上段に根石上面の数値を、下段にPit 底の数値をそれぞれ記載した

No	実測 標高 位置	種類 (產地)	春種	品種 位置	部位 深度	法量 (cm)			性状・文様の特徴	出土 状況	保護 色調 (外観)	特記事項
						口部	底径	断面				
1	062-06	クロト土師器	圓	98a	口縁部 3/12	10.8	-	1.2	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	浅黄褐 7,038.1	
2	063-01	クロト土師器	圓	98b	口縁部 3/12	-	3.6	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	浅黄褐 7,038.2	
3	067-05	クロト土師器	楕あるいは圓	98c	高台部 1/12	-	11.6	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	浅黄褐	
4	062-01	土師器	甕	98d	口縁部 1/12	22.6	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 10783.3	
5	062-02	土師器	甕	98e	口縁部 1/12	21.2	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 10783.4	
6	062-07	クロト土師器	甕	98f	口縁部 1/12	13.5	-	-	内:ナダ 外:ロクロナダ, 回転柄切	直	浅黄褐 7,038.1	
7	063-02	クロト土師器	圓	98g	底部 12/12	-	4.0	-	内:ナダ 外:ロクロナダ, 回転柄切	直	浅黄褐 7,038.2	
8	062-02	クロト土師器	楕あるいは圓	98h	高台部 1/12	-	13.6	-	内:ナダ 外:ロクロナダ	直	浅黄褐 10783.3	
9	063-03	灰輪陶器	甕	98i	高台部 3/12	-	6.0	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ, 回転柄切	直	灰白 538.1	
10	063-04	山茶樹	甕	98j	口縁部 3/12	-	7.2	-	内:ロクロナダ, 回転柄切	直	灰白 837.1	
11	066-06	灰輪陶器	甕	98k	高台部 1/12	-	7.3	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ, 回転柄切	直	灰白 538.1	
12	062-09	山茶樹	甕	98l	口縁部 1/12	18.9	-	-	内:ロクロナダ	直	灰白 38.0	
13	063-05	石縫品	石縫	98m	-	-	-	-	直径: 8.7cm 等辺: 3.3cm 重さ: 150g	-	-	珍奇
14	063-07	山茶樹	甕	98n	高台部 3/12	-	8.0	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ, 回転柄切	直	灰白 38.0	
15	062-03	土師器	甕	98o	口縁部 1/12	18.6	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 7,038.1	
16	062-04	土師器	甕	98p	口縁部 1/12	20.2	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 7,038.2	
17	066-02	土師器	甕	98q	口縁部 小片	-	-	-	内:ナダ, ハケ	直	浅黄褐 10783.3	
18	066-04	山茶樹	圓	98r	口縁部 2/12	9.0	4.3	3.2	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
19	061-01	土師器	甕	98t	口縁部 2/12	13.6	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 10783.4	
20	065-06	灰輪陶器	甕	98u	口縁部 1/12	16.0	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
21	063-09	灰輪陶器	甕	98v	高台部 6/12	-	6.7	-	内:ロクロナダ, 施輪 外:ロクロナダ, ハラ切り, 施輪	直	灰白 10783.2	近江系鉢
22	062-09	土師器	圓	98w	口縁部 2/12	11.6	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 10783.4	
23	056-02	土師器	小瓶	98x	口縁部 3/12	7.2	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 10783.4	
24	064-03	土師器	小瓶	98y	4/12	8.0	-	1.5	内:ナダ	直	浅黄褐 7,038.2	
25	066-04	土師器	小瓶	98z	全体 1/12	8.8	-	1.6	内:ナダ 外:ナダ	直	灰白 2,387.1	近江小判 38.0
26	066-07	クロト土師器	圓	98aa	口縁部 3/12	-	5.0	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ, 回転柄切	直	灰白 7,038.4	
27	066-01	山茶樹	甕	98ab	口縁部 1/12	15.8	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 7,038.1	
28	056-01	山茶樹	甕	98ac	口縁部 3/12	14.6	7.3	5.3	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
29	055-05	山茶樹	甕	98ad	口縁部 1/12	13.0	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.0	
30	052-01	山茶樹	小瓶	98ae	口縁部 2/12	-	3.8	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 537.1	
31	056-04	山茶樹	甕	98af	高台部 2/12	-	7.2	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
32	056-06	山茶樹	甕	98ag	口縁部 2/12	-	7.0	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
33	066-05	土師器	小瓶	98ai	口縁部 2/12	9.0	-	1.3	内:ナダ 外:ナダ	直	灰白 7,038.4	
34	065-03	土師器	小瓶	98aj	口縁部 2/12	13.0	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	灰白 7,038.2	
35	065-02	土師器	圓	98ak	口縁部 2/12	14.0	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	灰白 10783.4	
36	066-06	土師器	圓	98al	口縁部 2/12	14.0	-	-	内:ナダ, オサニ	直	灰白 2,387.4	
37	066-01	土師器	圓	98am	全体 1/12	16.0	-	1.9	内:ナダ, オサニ	直	灰白 10783.3	
38	066-03	山茶樹	甕	98an	全体 2/12	14.0	6.0	5.2	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	近江小判 38.0
39	066-06	山茶樹	甕	98ao	口縁部 3/12	-	6.8	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
40	066-07	山茶樹	甕	98ap	高台部 3/12	-	9.3	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
41	066-01	山茶樹	甕	98aq	高台部 5/12	-	7.0	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
42	066-02	山茶樹	甕	98ar	高台部 5/12	-	6.5	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
43	066-04	土師器	圓	98as	口縁部 2/12	10.0	-	-	内:ナダ 外:ナダ	直	浅黄褐 10783.2	
44	061-04	燃薪品	針	98at	-	-	-	-	大きさ: 3.8cm 幅さ: 1.6	-	-	
45	065-05	クロト土師器	圓	98au	高台部 4/12	-	7.4	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	浅黄褐 7,038.2	
46	065-08	灰輪陶器	甕	98av	口縁部 3/12	11.2	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.2	
47	066-05	山茶樹	甕	98aw	高台部 6/12	-	6.1	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 2,387.1	
48	011-01	土師器	甕	98ax	定丸	15.5	-	19.2	内:ナダ, 工芸ナダ, ケヌリ 外:ナダ, ハケ, オサニ, ケヌリ	直	灰白 2,387.2	
49	010-06	土師器	小瓶	98ay	定丸	10.7	-	1.6	内:ナダ, オサニ	直	灰白 7,038.2	
50	069-08	クロト土師器	小瓶	98az	口縁部 3/12	9.8	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 7,038.2	板上17%6
51	069-07	クロト土師器	小瓶	98ba	口縁部 2/12	9.8	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 7,038.2	板上17%12
52	069-03	クロト土師器	小瓶	98bb	口縁部 4/12	9.6	-	-	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 10783.6	66.5cm南面
53	067-05	クロト土師器	小瓶	98bc	全体 9/12	10.5	3.9	2.9	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 10783.6	66.5cm南面
54	012-05	クロト土師器	小瓶	98bd	定丸	10.8	5.1	1.7	内:ロクロナダ 外:ロクロナダ	直	灰白 7,038.2	便(18)内出土 No.7

第4表 石名田遺跡遺物観察表

No.	実測 査定 番号	種類 (產地)	容積 単位	高さ 測定度	法量 (cm)			注釈・文様の特徴	地土	保成	色調 (外見)	特記事項
					口幅	底径	断面					
55	012-06	□クロ土師器	小瓶	58.00	口縁部 2/12	10.4	-	内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-1	底上176.1
56	019-04	□クロ土師器	小瓶	58.00	口縁部 6/12	10.7	5.4	1.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-2	底上176.14
57	011-03	□? 土師器	小瓶	58.00	全体 5/12	11.6	6.0	1.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)内出土 No.2
58	010-02	□クロ土師器	小瓶	58.00	完全 6/12	11.7	5.7	1.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-1	底上176.11
59	009-05	□クロ土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	10.9	4.8	1.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底上176.2
60	009-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	完全 6/12	9.8	5.0	2.1 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-2	底上176.5
61	012-03	□クロ土師器	小瓶	58.00	完全 8/12	10.1	4.1	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)内出土 No.5
62	007-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 8/12	10.0	4.7	1.8 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)底面
63	009-01	□クロ土師器	小瓶	58.00	全体 3/12	10.2	4.6	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)底面
64	009-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 4/12	10.3	5.0	2.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)底面
65	012-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	完全 4/12	10.4	4.1	2.1 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)内出土 No.3
66	009-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	10.9	4.9	2.4 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-1	底(8)内出土 No.4
67	011-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 10/12	11.0	5.3	2.1 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-2	底(8)内出土 No.3
68	010-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	完全 10/12	10.8	4.9	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-1	底上176.9
69	009-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	10.9	4.7	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-4	底上176.2
70	009-03	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	10.6	6.7	2.1 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-4	底(8)外底(2)底焼前斜突起
71	010-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 7/12	11.0	5.3	2.2 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底上176.13
72	009-09	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	10.5	5.3	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底上176.8
73	010-05	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 4/12	11.0	5.8	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底上176.8
74	007-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	11.3	5.9	2.1 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-4	底(8)底面
75	008-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 5/12	10.9	5.1	2.0 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)底面
76	007-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 11/12	10.2	4.3	1.9 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-4	底(8)底面
77	012-01	□□ 土師器	小瓶	58.00	完全 12/12	12.0	6.0	1.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)内出土 No.3
78	008-02	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 6/12	10.5	6.5	1.6 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)底面
79	007-03	□□ 土師器	小瓶	58.00	全体 7/12	10.0	5.6	1.6 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	褐 7.5186-6	底(8)底面
80	012-04	□□ 土師器	小瓶	58.00	完全 10/12	10.1	5.2	2.1 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	-	浅黃褐 7.5186-4	底(8)内出土 No.6
81	011-05	菊飾	杯H	58.00	口縁部 1/12	12.8	-	内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
82	014-06	菊飾	杯H	58.00	口縁部 2/12	10.1	-	内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
83	010-03	土師器	小瓶	58.00	全体 3/12	7.8	-	内: ナダ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-2	
84	013-04	山桜紋	瓶	58.00	全体 7/12	7.4	-	内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
85	013-02	山桜紋	瓶	58.00	高台部 5/12	-	5.6	- 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
86	013-03	山桜紋	瓶	58.00	高台部 7/12	-	7.6	- 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
87	013-05	山桜紋	瓶	58.00	高台部 7/12	-	8.1	- 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
88	013-01	山桜紋	瓶	58.00	全体 1/15	13.8	5.0	1.5 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
89	013-07	山桜紋	瓶	58.00	高台部 3/12	-	7.4	- 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
90	013-06	山桜紋	瓶	58.00	全体 5/12	-	7.4	- 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-1	
91	010-01	黄虎地	雙	58.00	口縁部 4/12	-	15.0	- 内: ナダ、タカ	青	火	褐 7.5186-2	
92	014-01	黄虎地	雙	58.00	口縁部 5/12	-	13.8	- 内: ナダ、タカ	青	火	褐 7.5186-2	
93	014-02	土師器	鉢	58.00	口縁部 1/12	-	23.6	- 内: ナダ	青	火	褐 7.5186-2	
94	010-02	土師器	鉢	58.00	口縁部 1/12	-	23.6	- 内: ナダ	青	火	褐 7.5186-2	
95	010-01	土師器	鉢	58.00	口縁部 2/12	22.1	-	内: ナダ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.10 底?
96	010-04	土師器	小瓶	58.00	口縁部 2/12	8.2	-	内: ナダ 外: ナダ オサエ	青	火	褐 7.5186-2	
97	010-02	土師器	瓶	58.00	口縁部 1/12	11.6	-	内: ナダ 外: ナダ オサエ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.9
98	010-03	土師器	瓶	58.00	口縁部 3/12	11.1	-	内: ナダ 外: ナダ オサエ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.9
99	010-06	土師器	瓶	58.00	口縁部 4/12	10.8	-	内: ナダ 外: ナダ オサエ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.9
100	017-01	土師器	瓶	58.00	全体 11/12	12.0	-	2.1 内: ナダ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.11
101	016-05	土師器	瓶	58.00	口縁部 1/12	12.8	-	内: ナダ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-6	
102	016-02	土師器	瓶	58.00	口縁部 1/12	12.8	-	内: ナダ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-6	
103	017-03	□□ 土師器	台付小瓶	58.00	高台部 5/12	-	7.1	- 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.8
104	017-02	□□ 土師器	台付小瓶	58.00	全体 11/12	13.0	6.5	2.7 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	褐 7.5186-2	底上176.11
105	017-06	黑色土師	桶	58.00	口縁部 1/12	12.6	-	内: ナダ、ハラニ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-6	
106	017-05	黑色土師	桶	58.00	口縁部 1/12	13.8	-	内: ナダ 外: ナダ	青	火	褐 7.5186-4	内底黒
107	017-04	黑色土師	桶	58.00	高台部 1/12	-	8.9	- 内: ナダ	青	火	褐 7.5186-2	内底黒
108	017-07	灰輪脚陶	桶	58.00	全体 2/12	11.8	5.2	1.9 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	灰 7.5186-2	底上176.5
109	019-02	輪脚陶	桶	58.00	全体 5/12	13.0	8.0	6.4 内: □ロクナダ 外: □ロクナダ	青	火	灰 7.5186-2	底上176.5 近江系輪脚

No.	実測 面積 (度地)	種類	面積 面積 面積	剖位 面積 面積	法量 (cm)			注記・文様の特徴	地主	保成	色調 (外見)	特記事項
					口幅	底幅	断面					
110	014-07	絞輪鉢	桶	S006	高台部 3/12	-	6.6	- 内: ロクナダ、施錠	青	黄	3380.4	私J7P62
111	015-03	絞輪鉢	桶	S006	高台部 7/12	-	8.0	- 内: ロクナダ、施錠	青	黄	2,508.5	近江系鉢
112	016-01	山茶桶	桶	S002	口縁部 3/12	-	13.6	- 内: ロクナダ	青	黄	507.1	
113	018-02	山茶桶	桶	S002	口縁部 1/12	14.4	-	- 内: ロクナダ	青	灰白	2,387.1	
114	025-02	土脚桶	小皿	S023	全体 9/12	7.2	-	1.2 内: ナダ	青	-	浅黄緑 1018.3	
115	025-04	土脚桶	盆	S023	全体 3/12	10.8	-	- 内: ナダ	青	-	浅黄緑 1018.3	
116	025-06	土脚桶	盆	S023	口縁部 3/12	10.0	-	- 内: ナダ	青	-	灰黄緑 1018.3	
117	025-07	土脚桶	盆	S023	全体 2/12	11.3	-	- 内: ナダ	青	-	灰黄緑 1018.3	
118	025-09	土脚桶	盆	S023	口縁部 2/12	12.0	-	- 内: ナダ	青	-	灰緑 2,708.5	
119	018-04	土脚桶	盆	S023	全体 1/12	14.4	-	- 内: ナダ、オサエ	青	-	12.5-13.5 1018.3	
120	026-06	土脚桶	盆	S023	口縁部 3/12	14.4	-	- 内: ナダ、オサエ	青	-	浅黄緑 1018.3	
121	025-03	土脚桶	盆	S023	全体 1/12	14.0	-	- 内: ナダ	青	-	1018.3	
122	025-05	土脚桶	盆	S023	口縁部 2/12	16.0	-	- 内: ナダ	青	-	2.5-3.5 2,508.5	
123	029-01	口ロコ土器	台付小皿	S021	全体 3/12	-	7.0	- 内: ロクナダ	青	-	1018.3	
124	026-02	黑色土器	台付桶	S022	全体 3/12	-	7.0	- 内: ロクナダ	青	-	7,538.7	
125	018-06	口ロコ土器	小皿	S023	全体 4/12	8.3	7.2	1.2 内: ロクナダ、回転点切	青	灰	12.5-13 7,508.5	
126	020-01	口ロコ土器	小皿	S023	全体 3/12	9.0	8.3	1.6 内: ロクナダ、回転点切	青	灰	12.5-13 7,508.5	
127	026-01	口ロコ土器	小皿	S023	全体 2/12	10.0	4.1	2.1 内: ロクナダ	青	-	1018.3	
128	019-01	口ロコ土器	小皿	S023	全体 9/12	10.0	5.7	2.1 内: ロクナダ	青	-	灰白 1018.3	
129	019-03	口ロコ土器	小皿	S023	全体 10/12	10.0	5.1	2.5 内: ロクナダ	青	-	浅黄緑 2,508.5	底部外面に建成前剥離
130	019-02	口ロコ土器	小皿	S023	完全 9/12	10.0	5.9	2.0 内: ロクナダ	青	-	12.5-13 1018.3	
131	019-03	口ロコ土器	小皿	S023	全体 9/12	9.9	5.7	1.7 内: ロクナダ	青	-	1018.3	
132	020-03	口ロコ土器	小皿	S023	底部 4/12	-	5.8	内: ロクナダ	青	-	2.5-3.5 7,508.5	
133	026-06	口ロコ土器	小皿	S023	底部 12/12	-	6.5	- 内: ロクナダ	青	-	灰白 1018.3	
134	019-06	口ロコ土器	小皿	S023	底部 4/12	-	4.0	- 内: ロクナダ	青	-	2.5-3.5 1018.3	
135	019-05	口ロコ土器	小皿	S023	底部 12/12	-	4.1	- 内: ロクナダ	青	-	12.5-13 1018.3	
136	020-02	口ロコ土器	小皿	S023	底部 5/12	-	4.0	- 内: ロクナダ	青	-	12.5-13 7,508.5	
137	020-04	口ロコ土器	小皿	S023	底部 4/12	-	6.1	- 内: ロクナダ	青	-	浅黄緑 1018.3	
138	025-01	口ロコ土器	小皿	S023	底部 12/12	-	6.0	- 内: ロクナダ	青	-	12.5-13 1018.3	
139	026-07	口ロコ土器	小皿	S023	底部 10/12	-	4.5	- 内: ロクナダ	青	-	灰白 1018.3	
140	026-08	口ロコ土器	曲	S023	底部 11/12	-	6.6	- 内: ロクナダ	青	-	12.5-13 7,508.5	
141	026-09	口ロコ土器	小皿	S023	底部 11/12	-	5.2	- 内: ロクナダ	青	-	浅黄緑 1018.3	底部外面に建成前剥離
142	019-04	口ロコ土器	小皿	S023	底部 9/12	-	5.4	- 内: ロクナダ	青	-	12.5-13 1018.3	
143	018-03	口ロコ土器	組	S023	口縁部 5/12	14.5	7.2	3.9 内: ロクナダ	青	-	灰白 1018.3	
144	021-01	土脚桶	桶	S023	口縁部 3/12	27.6	-	- 内: ナダ	青	-	浅黄緑 1018.3	
145	024-01	土脚桶	桶	S023	口縁部 2/12	26.8	-	- 内: ナダ、ハケ	青	-	1018.3	
146	024-02	土脚桶	桶	S023	口縁部 3/12	29.0	-	- 内: ナダ、ハケ	青	-	1018.3	
147	021-02	山茶桶	桶	S023	完全 12/12	16.1	7.5	5.7 内: ロクナダ	青	灰	灰白 37.0	
148	023-01	山茶桶	桶	S023	全体 4/12	16.8	6.2	5.0 内: ロクナダ	青	灰	灰白 38.0	
149	022-01	山茶桶	桶	S023	口縁部 1/12	14.1	-	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
150	022-02	山茶桶	桶	S023	口縁部 1/12	-	12.3	- 内: ロクナダ	青	灰	38.0	
151	022-03	山茶桶	桶	S023	口縁部 7/12	-	5.6	- 内: ロクナダ	青	灰白	2,387.1	
152	023-01	山茶桶	桶	S023	高台部 12/12	-	6.0	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
153	021-04	山茶桶	桶	S023	高台部 12/12	-	6.6	- 内: ロクナダ	青	灰白	2,387.1	
154	023-04	山茶桶	桶	S023	高台部 12/12	-	7.9	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
155	023-03	山茶桶	桶	S023	高台部 5/12	-	8.6	- 内: ロクナダ	青	灰白	2,387.1	
156	022-04	山茶桶	桶	S023	高台部 5/12	-	7.5	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
157	025-05	山茶桶	桶	S023	高台部 1/12	-	6.8	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
158	022-03	山茶桶	桶	S023	口縁部 2/12	-	8.0	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
159	021-03	山茶桶	桶	S023	高台部 7/12	-	7.6	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
160	021-05	山茶桶	桶	S023	高台部 4/12	-	8.0	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
161	024-05	山茶桶	桶	S023	高台部 11/12	-	6.3	- 内: ロクナダ	青	灰白	38.0	
162	026-04	絞輪鉢	桶	S023	口縁部 小皿	-	-	- 内: ロクナダ、施錠	青	灰白	2,387.1/2	非近江系鉢
163	026-03	絞輪鉢	桶	S023	体部 2/12	-	-	- 内: ロクナダ、施錠	青	灰白	1018.3	近江系鉢
164	001-01	鉢製品	鉢	S023	-	-	-	- 合計: 3.7 個: 1.1 面積: 1.1	-	-	-	-

No	実測 査定 番号	種類 (產地)	品種	品種 原产地	部位 原产地度	流量 (cm) 口径 底径 高さ			出土 復元	色調 (外観)	特記事項	
						内	外	ナデ				
165	031-01	土師器	小瓶	SB02	全体	9.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹	
166	031-05	土師器	小瓶	SB06	全体	9.0	-	1.1	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹	
167	031-03	土師器	小瓶	SB08	全体	7.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹	
168	031-04	土師器	小瓶	SB09	全体	8.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹	
169	031-05	土師器	小瓶	SB09	全体	9.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹	
170	032-04	土師器	瓶	SB20	全体	2.0	11.0	-	1.4	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹
171	032-06	土師器	瓶	SB20	口縁部	3.0	10.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹
172	033-02	土師器	瓶	SB08	全体	3.0	11.0	-	1.0	内:ナデ、タケリ	青	江戸式・直腹
173	033-03	土師器	瓶	SB09	全体	3.0	11.0	-	2.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹
174	033-01	土師器	瓶	SB09	全体	4.0	14.0	-	3.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹
175	033-04	土師器	瓶	SB09	全体	4.0	14.0	-	2.0	内:ナデ、オサエ	青	江戸式・直腹
176	025-19	土師器	甕	SB08	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
177	031-04	土師器	甕	SB09	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
178	031-02	土師器	甕	SB09	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
179	030-02	土師器	甕	SB09	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
180	031-01	土師器	甕	SB09	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
181	030-03	土師器	甕	SB09	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
182	030-01	土師器	甕	SB09	全体	2.0	14.0	-	1.0	内:ナデ、ハケ	青	江戸式・直腹
183	032-02	ヨコロ・土師器	台付小瓶	SB04	全体	12.0	-	6.0	内:ロクナデ	青	江戸式・直腹	
184	032-01	ヨコロ・土師器	台付小瓶	SB04	全体	12.0	-	5.0	内:ロクナデ、回転切	青	江戸式・直腹	
185	032-03	黑色土器	甕	SB08	口縁部	3.0	-	12.0	内:ロクナデ、ケズリ出し・高台	青	内面黑色	
186	030-04	黑色土器	甕	SB08	全体	4.0	-	12.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色	
187	027-01	須恵器	甕	SB09	全体	4.0	-	12.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色	
188	029-03	火輪陶器	皿	SB08	全体	2.0	11.0	6.0	内:ロクナデ	青	内面黑色	
189	029-02	火輪陶器	皿	SB08	全体	2.0	11.0	6.0	内:ロクナデ	青	内面黑色	
190	029-04	火輪陶器	皿	SB08	全体	2.0	11.0	6.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色	
191	029-05	火輪陶器	皿	SB08	全体	2.0	11.0	6.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色	
192	027-02	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	6.0	5.3	内:ロクナデ	青	内面黑色
193	028-05	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
194	028-06	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
195	028-02	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
196	028-07	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
197	028-02	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
198	028-01	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
199	027-05	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
200	027-06	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
201	027-02	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
202	028-04	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
203	027-04	山茶樹	甕	SB08	全体	1.0	15.0	-	5.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
204	029-01	脚器	鉢	SB09	全体	1.0	12.0	-	5.0	内:ナデ	青	内面黑色
205	030-02	土師器	甕	SB09	口縁部	5.0	15.0	-	1.0	内:ナデ、ケズリ	青	内面黑色
206	030-02	土師器	甕	SB09	全体	5.0	15.0	-	1.0	内:ナデ、ケズリ	青	内面黑色
207	030-02	土師器	甕	SB09	全体	5.0	15.0	-	1.0	内:ナデ、ケズリ	青	内面黑色
208	030-01	須恵器	杯	SB09	全体	5.0	15.0	-	1.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色
209	034-03	土師器	小瓶	SB08	全体	7.0	12.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	内面黑色
210	034-04	陶器	耳皿	SB09	全体	7.0	12.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	内面黑色
211	036-03	山茶樹	甕	SB09	全体	7.0	12.0	-	1.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
212	043-02	土師器	台付甕	SB2	全体	7.0	16.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	平出式
213	043-01	土師器	台付甕	SB2	全体	7.0	16.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	平出式
214	044-02	須恵器	杯	SB09	全体	7.0	16.0	-	1.0	内:ロクナデ	青	内面黑色
215	045-02	須恵器	杯	SB07	全体	7.0	16.0	-	1.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色
216	045-01	須恵器	杯	SB07	全体	7.0	16.0	-	1.0	内:ロクナデ、ケズリ	青	内面黑色
217	039-01	土師器	甕	PI08	全体	7.0	17.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	内面黑色
218	039-02	土師器	甕	PI08	全体	7.0	17.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	内面黑色
219	039-04	土師器	甕	PI022	全体	7.0	17.0	-	1.0	内:ナデ、オサエ	青	内面黑色

No	実測 査定 番号	種類 (產地)	春種	播種 時期	播種 密度	苗期 の状態	法量 (cm)	注記・文様の特徴	出土	集成	色調 (外見)	特記事項	
220	039-01	土師器	黒	P11-28	全体 1/12	8.8	-	1.7 内: ナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃褐色 7.05R8.1		
221	039-05	山茶碗	緑	P11-30	口緑部 1/12	-	7.0	- 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	88W		
222	039-06	磁輪御器	緑	P11-62	口緑部 全体	-	-	内: ロクロナデ、施錆 外: ロクロナデ	青	黄	0.55-0.6 1.25-1.35 10R7.3	北近江系縫跡	
223	039-07	土師器	黒	P11-67	口緑部 2/12	9.2	-	1.4 内: ナデ、オサエ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃褐色 10R7.3		
224	039-08	山茶碗	緑	P11-68	口緑部 1/12	11.6	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	88W		
225	039-09	土師器	緑	P11-69	口緑部 1/12	11.4	-	内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃褐色 10R7.3		
226	040-01	山茶碗	緑	P11-69	口緑部 1/12	13.8	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	88W		
227	040-02	山茶碗	緑	P11-51	全体 4/12	16.3	8.0	5.5 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ、施錆	青	灰白	88W		
228	040-03	ロクロ土師器	緑	P11-62	全体 1/12	13.9	7.6	5.4 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ、ミガキ	青	黄	0.55-0.6 1.25-1.35 10R7.3		
229	040-04	ロクロ土師器	緑	P11-63	口緑部 2/12	-	6.8	- 内: ナデ	青	-	淡黃褐色 10R7.3		
230	041-01	瓶	青	P11-63	-	-	-	長さ: 2.7 幅: 1.3 厚さ: 1.3	青	-	-		
231	036-03	ロクロ土師器	緑	P11-66	全体 2/12	10.6	6.6	1.9 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ、四輪赤斑	青	-	淡黃褐色 10R7.3		
232	036-01	灰輪御器	緑	P11-64	口緑部 1/12	13.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	2.05R7.1		
233	036-08	磁輪御器	緑	P11-66	全体 小片	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	7.05R6.1	淡黃褐色 10R7.3	
234	036-04	黑色土器	緑	P11-74	口緑部 3/12	15.0	-	内: ナデ、ミガキ 外: ナデ、ミガキ、オサエ	青	-	淡黃 2.05R7.1	内面墨色	
235	036-05	土師器	緑	P11-75	口緑部 1/12	13.0	-	内: ナデ、オサエ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R7.3		
236	036-07	土師器	小黒	P11-76	口緑部 2/12	9.2	-	内: ナデ 外: ナデ、オサエ	青	-	淡黃 10R7.3		
237	036-06	土師器	小黒	P11-76	全体 2/12	9.2	1.0	内: ナデ	青	-	淡黃 7.05R7.1		
238	037-02	土師器	青	P11-78	全体 3/12	12.6	-	2.7 内: ナデ、オサエ 外: ナデ	青	黄	0.55-0.6 1.25-1.35 10R7.3		
239	037-06	ロクロ土師器	小黒	P11-78	全体 3/12	10.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	紺 7.05R6.6		
240	037-07	ロクロ土師器	小黒	P11-78	口緑部 2/12	10.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 5W7.5		
241	037-03	ロクロ土師器	小黒	P11-78	4/12	10.0	5.6	2.5 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ、四輪赤斑	青	-	淡黃 2.05R7.2		
242	037-08	ロクロ土師器	小黒	P11-78	3/12	11.0	5.6	2.1 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	紺 7.05R7.6		
243	037-01	黑色土器	緑	P11-78	全体 1/12	15.0	-	内: ナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 10R7.3	内面墨色	
244	036-08	黑色土器	緑	P11-78	口緑部 1/12	14.0	-	内: ナデ、ミガキ 外: ナデ、ミガキ	青	黑	10R7.3/1	画面墨色	
245	037-05	灰輪御器	緑	P11-78	口緑部 1/12	13.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 2.05R7.1		
246	037-04	灰輪御器	緑	P11-78	高台部 2/12	-	7.3	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	2.05R7.1		
247	037-09	磁輪御器	緑	P11-78	口緑部 1/12	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 10R7.3	淡黃褐色 10R7.3	
248	038-01	土師器	黒	P11-81	口緑部 2/12	14.6	-	内: ナデ 外: ロクロナデ	青	灰白	2.05R7.2		
249	038-08	ロクロ土師器	黒	P11-82	全体 5/12	-	6.0	- 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 10R7.3		
250	040-05	土師器	ミニマニア 土器	P11-82	泥台	2.8	-	2.8 内: ナデ 外: ナデ	青	-	黑褐 7.05R7.1		
251	040-06	淡色土器	緑	P11-82	全体 2/12	15.2	8.0	6.0 内: ロクロナデ、ミガキ 外: ロクロナデ、ミガキ	青	-	淡黃褐色 7.05R7.1	内面墨色	
252	038-03	ロクロ土師器	黒	P11-84	口緑部 1/12	11.8	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	灰白	10R8.2/2	
253	038-04	ロクロ土師器	黒	P11-85	全体 3/15	-	7.0	- 内: ロクロナデ 外: ロクロナデ、四輪赤斑	青	-	紺 7.05R6.6		
254	038-05	ロクロ土師器	小黒	P11-88	口緑部 1/12	11.4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 2.05R7.4		
255	061-02	瓶	青	P11-88	-	-	-	長さ: 4.1 幅: 1.5 厚さ: 1.2	青	-	-		
256	040-07	ロクロ土師器	黒	P11-90	口緑部 1/12	13.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	青	-	淡黃 10R7.6		
257	038-06	土師器	黒	P11-90	全体 1/12	12.6	8.0	3.2 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R8.6/2		
258	042-07	土師器	小黒	P11-90	食食層	2/12	8.4	- 1.2 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 7.05R7.4		
259	043-06	土師器	小黒	P11-90	食食層	2/12	8.0	- 2.0 内: ナデ、ケズリ 外: ナデ	青	-	淡黃 7.05R7.3		
260	050-01	土師器	小黒	P11-90	食食層	3/12	9.0	1.8 1.4 内: ナデ 外: ナデ、オサエ	青	灰白	10R8.6/2		
261	050-02	土師器	小黒	P11-90	食食層	2/12	9.2	- 1.7 内: ナデ、オサエ 外: ナデ	青	-	淡黃 5W7.5		
262	061-01	土師器	小黒	P11-90	食食層	4/12	9.6	6.0 1.7 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R8.3		
263	043-07	土師器	小黒	P11-90	食食層	2/12	10.0	- 2.6 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R8.7/2		
264	043-08	土師器	小黒	P11-90	食食層	2/12	19.0	- 2.1 内: ナデ 外: ナデ	青	灰白	10R8.6/2		
265	050-03	土師器	小黒	P11-90	食食層	4/12	9.3	- 1.9 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R7.7/2		
266	050-04	土師器	小黒	P11-90	食食層	1/12	9.8	3.7 1.9 内: ナデ 外: ナデ、オサエ	青	-	淡黃 10R7.7/2		
267	046-02	土師器	黒	P11-90	口緑部	2/12	10.8	- 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R7.7/4		
268	046-03	土師器	黒	P11-90	口緑部	7/12	10.7	- 2.2 内: ナデ 外: ナデ	青	中古 青	10R7.8/3		
269	055-06	土師器	黒	P11-90	食食層	10/12	10.4	- 3.1 内: ナデ 外: ナデ	青	-	淡黃 10R7.8/4		
270	057-04	土師器	黒	P11-90	食食層	4/12	13.0	- 2.2 内: ナデ 外: ナデ	青	-	10R7.8/3		
271	043-08	土師器	黒	P11-90	口緑部	13/12	13.6	- 内: ナデ 外: ナデ	青	-	10R7.7/3		
272	049-06	土師器	黒	P11-90	食食層	1/12	13.2	7.3 2.6 内: ナデ 外: ナデ	青	-	10R7.6/4		
273	049-05	土師器	黒	P11-90	口緑部	14/12	14.8	- 内: ナデ 外: ナデ	青	-	10R7.7/4		
274	041-01	土師器	緑	P11-90	口緑部	1/12	23.0	- 内: ナデ 外: ナデ	青	-	10R7.7/4		

No.	実測 面積 (面地)	種類	面積 面積	面積 面積度	法量 (cm)	注記・文様の特徴	地主	権成	色調 (外見)	特記事項	
225	017-01	上耕畠	桝	包合等	口緑頭 1/12	25.2	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、ハサ	青	灰白 2.5W6/2	
226	043-04	口クロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	10.0	1.6	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 7.5W7/1	
227	047-06	口クロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	9.8	5.0	1.4	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	灰白 10W8/2
228	057-06	口クロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	9.8	4.8	1.1	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 7.5W7/1
229	053-05	口クロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	11.0	5.0	2.0	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 10W8/2
230	053-04	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	10.0	5.4	2.4	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
231	053-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	灰白 3.5W6
232	043-03	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	5.0	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
233	046-06	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
234	051-04	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
235	053-06	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.5	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
236	051-01	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	3.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
237	053-06	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	5.0	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
238	050-04	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
239	052-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
240	056-04	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ、回転木切	青	江戸一穂 7.5W7/1
241	056-01	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	13.8	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 7.5W7/1
242	055-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.5	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
243	047-07	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	6.0	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
244	050-01	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.2	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
245	052-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
246	056-01	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
247	055-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
248	054-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
249	056-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
250	050-01	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
251	051-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
252	045-06	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	-	7.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 2.5W6/2
253	055-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	7.8	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 2.5W6/2
254	042-04	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	7.5	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 7.5W7/1
255	054-02	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	8.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
256	048-01	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	7.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
257	051-03	口ロ土耕畠	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	8.2	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
258	045-06	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	14.0	7.0	6.0	内: ハケ、ミガキ 外: ハケ、ミガキ	青	淡黄黒 10W8/3
259	056-05	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	12.9	-	-	内: ハケ、ミガキ 外: ハケ、ミガキ	青	淡黄黒 10W8/3
260	045-05	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	14.0	-	-	内: ハケ、ミガキ 外: ハケ、ミガキ	青	淡黄黒 10W8/3
261	052-01	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	15.2	-	-	内: ハケ、ミガキ 外: ハケ、ミガキ	青	淡黄黒 10W8/3
262	052-02	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	-	7.5	-	内: ハケ、ミガキ 外: ハケ、ミガキ	青	淡黄黒 10W8/3
263	045-02	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	-	7.4	-	内: ハケ、ミガキ 外: ハケ、ミガキ	青	淡黄黒 10W8/3
264	042-02	黒色土耕	桝	包合等	口緑頭 1/12	-	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	淡黄黒 10W8/3
265	056-05	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	14.0	6.0	5.2	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
266	054-04	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	15.0	7.3	5.8	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
267	042-01	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	-	6.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
268	047-04	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	-	6.2	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
269	052-04	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	-	6.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
270	050-01	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	-	5.6	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
271	046-02	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 2/12	-	7.3	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
272	057-03	火耕跡	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	5.8	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
273	056-02	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 小片	-	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
274	041-09	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 小片	-	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	淡黄黒 10W8/3
275	035-05	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 小片	-	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	淡黄黒 10W8/3
276	041-10	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 小片	-	5.2	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
277	041-08	火耕跡	桝	包合等	口緑頭 1/12	-	9.0	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	江戸一穂 10W8/3
278	042-04	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 1/12	7.8	3.2	2.0	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
279	049-04	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 1/12	8.3	3.9	2.0	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
280	042-02	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	4.0	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
281	041-04	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 10/12	-	5.4	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
282	041-05	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	3.4	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 3.5W6/2
283	041-02	白梅	柵	包合等	口緑頭 2/12	19.8	5.9	2.1	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 5W1
284	042-09	白梅	柵	包合等	口緑頭 1/12	13.4	7.3	6.1	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 5W1
285	049-01	白梅	柵	包合等	口緑頭 1/12	-	6.9	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 5W1
286	048-02	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 1/12	16.0	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 5W1
287	052-03	山茶樹	柵	包合等	口緑頭 1/12	15.4	-	-	内: ロクナダ 外: ロクナダ	青	灰白 5W1

No.	実測 番号	種類 (产地)	品種	品種 原産地	剖位 深度	流量 (cm)			注記・文様の特徴	地土	保水 性	色調 (外見)	特記事項
						口径	底径	断面					
330	050-06	山茶樹	桜	包含層	口縁部 1/12	15.8	-	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/1
331	048-05	山茶樹	桜	包含層	口縁部 3/12	14.0	-	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.337/1
332	050-05	山茶樹	桜	包含層	高台部	-	5.0	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/1
333	047-06	山茶樹	桜	包含層	高台部 6/12	-	7.6	-	外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/1
334	048-01	山茶樹	桜	包含層	高台部 7/12	-	6.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	やや重	良	灰白	337/1
335	046-06	山茶樹	桜	包含層	高台部 8/12	-	5.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰	336/1
336	047-03	山茶樹	桜	包含層	高台部 3/12	-	6.4	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.337/1
337	048-03	山茶樹	桜	包含層	高台部 4/12	-	7.4	-	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	重	良	灰白	3.337/1
338	047-05	山茶樹	桜	包含層	高台部 3/12	-	6.5	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/1
339	053-01	山茶樹	桜	包含層	高台部 2/12	-	6.2	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/0
340	052-05	山茶樹	桜	包含層	高台部 3/12	-	7.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	338/0
341	043-03	山茶樹	桜	包含層	高台部 1/12	-	8.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.338/2
342	048-04	山茶樹	桜	包含層	高台部 7/12	-	7.0	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	やや重	良	灰白	337/1
343	047-02	山茶樹	桜	包含層	高台部 6/12	-	7.1	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.337/1
344	052-07	山茶樹	桜	包含層	高台部 3/12	-	7.4	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	338/0
345	052-06	山茶樹	桜	包含層	高台部 12/12	-	6.0	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/0
346	046-01	山茶樹	桜	包含層	高台部 5/12	-	7.0	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	1036/3
347	042-05	山茶樹	桜	包含層	高台部 3/12	-	7.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	338/1
348	041-06	山茶樹	桜	包含層	高台部 1/12	-	9.4	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.338/2
349	049-02	山茶樹	桜	包含層	高台部 12/12	-	6.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.337/1
350	051-06	山茶樹	桜	包含層	高台部 3/12	-	7.2	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/1
351	049-03	山茶樹	桜	包含層	高台部 6/12	-	8.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.337/1
352	046-03	山茶樹	桜	包含層	高台部 12/12	-	7.1	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/0
353	044-06	山茶樹	桜	包含層	高台部 2/12	-	8.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	やや重	良	灰白	338/1
354	052-02	山茶樹	桜	包含層	高台部 1/12	-	9.4	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.338/1
355	049-01	山茶樹	桜	包含層	高台部 9/12	-	8.2	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	337/1
356	045-04	御蒜	桜	包含層	口縁部 1/12	17.0	-	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	2.337/1
357	051-05	御蒜	桜	包含層	高台部 3/12	-	7.6	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	338/2
358	044-04	雪恋樹	桜	包含層	高台部 2/12	-	10.9	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	やや重	良	灰白	2.338/1
359	041-07	常呂	桜	包含層	高台部 3/12	-	11.4	-	外：工具ナダ 内：施鰐	重	良	灰	337/6
360	044-08	御蒜	加工内盤	包含層	高台部 1/12	-	-	-	内：施鰐	重	良	灰白	1036/3
361	051-01	白瑞	桜	包含層	口縁部 1/12	15.8	-	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	338/2
362	050-07	白瑞	桜	包含層	口縁部 1/12	14.4	-	-	内：ロクロナダ 外：ロクロナダ	重	良	灰白	338/1

V 柳垣内遺跡（第2次）

1 基本層序及び遺構

a 基本層序

石名田遺跡に西接し、そのトレンチから85m西へ間隔をおいた柳垣内遺跡東端部に位置する東西トレンチを1区、途中遺構が存在しない部分を挟んで柳垣内遺跡の西端部に位置する南北トレンチを2区としている。

また1区・2区ともに5mごとの小地区を設定して番号を付与した。1区では東端を、2区では南端を起点としている。

1区は、石名田遺跡に西接しているため、基本層序は基本的に同じである。

上からアスファルト・碎石、造成土、暗灰黄色シルト、オリーブ黒色シルトと堆積し、旧水田の床土を含む暗灰黄色シルト（8層）、暗オリーブ褐色シルト（9層）へと続く。8層及び9層は遺物包含層である。9層以深は褐色シルト（10層）、黄灰色極細粒砂、中粒砂へと続く基盤層で、遺構検出は主に10層直上で行った。

2区は南北の標高差が1.6m程あり、北側が高くなる。アスファルト・碎石、造成土以深は暗灰黄色シルト、オリーブ褐色シルト（床土含む）、暗灰黄色シルトと続き、多少差異はあるものの層序の様相は1区と近しい。基盤層はオリーブ褐色シルト（16層）、暗灰黄色極粗粒砂等であり、遺構検出は16層直上で行った。下層確認のため部分的に深く掘削を行うと、南側では地表から1.9m以深で暗灰色～オリーブ黒色粘土層を、北側では地表から1.8m以深で砂礫層を確認した。いずれの箇所も遺構や遺物は見られなかった。

b 1区の遺構

遺物が出土して遺構番号を付与した遺構はSR1だけだが、SR1の東側に接して幅0.5m程の南北溝、7.5m東側にSR1とほぼ同規模の流路状の落ち込みが存在する。

SR1 幅2.8m程の南北流路である。削平のため流路が皿状に残存しただけだが、検出面から0.28mほどの深さが残る。床面は緩やかに波打っているこ

とと、埋土が礫混砂であることから自然流路の残存と判断した。埋土から時期不明の土師器細片が出土したが、図示するものではなかった。

c 2区の遺構

本体工事の進捗に合わせて調査したため、遺構番号は南から北に向かって順次付与した。今回の報告も、基本的に遺構番号順（矢南から北へ）に説明していく。

SZ2 幅27m、検出面からの最深0.65mの浅い皿状の落ち込みである。両端の遺構肩部が平行気味であることから調査時点では流路としていたが、南側から約10mのところに山形テラス状の高まりが存在することと、底面はほぼ同じ高さで面的に広がること、それに大きくなれば上下2層に分かれる埋土が礫を含まないシルトから極細粒砂であることから、流路とするよりは浅い沼状の落ち込み、あるいは中世以降の水田等の地剤の痕跡であろう。

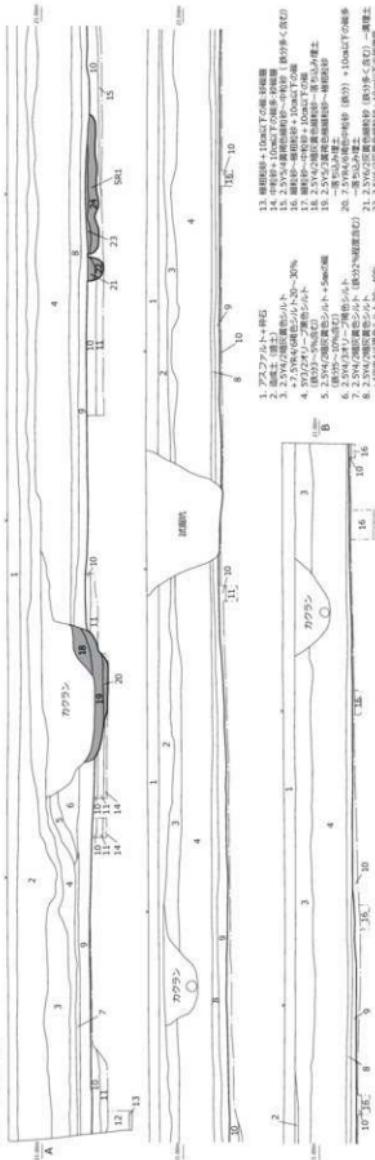
埋土から、時期不明の土師器細片に交じって、15世紀前半となる藤澤編年第10型式の山茶椀が出土している。

SD3 SZ2の2m北側に位置する幅2m、深さ0.5mの溝で、断面形は逆台形状を呈する。埋土は、4層に分層でき、いずれもシルトから極細粒砂を基本としている。

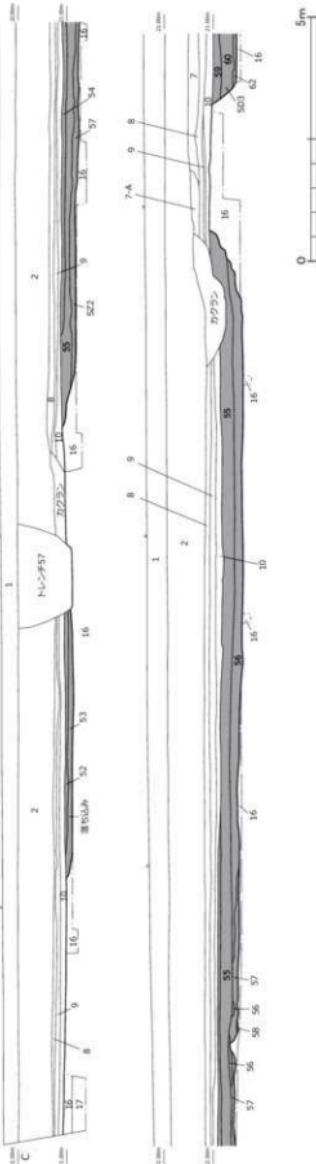
埋土から山茶椀が出土した。

SZ4 幅30m以上、検出面から最深で1.2mの深さをもつ。調査時点では流路として把握し、遺構名を付与していたが、土層断面を詳細にみると、巨視的にはa；68層～71層の溝状落ち込み（72層はそのベース）、b；73層～79層までの溝状落ち込み、c；80層～91層までの幅広の落ち込み状堆積に三分して把握される（さらに72層をベースとして、65・66層の溝状落ち込みと67層の溝状遺構がある）。つまり、SZ4として把握した遺構は、いくつかの流路・落ち込み地形の集積として理解できよう。そして、これらの堆積状況をみると、シルトや極細粒砂が互層状に堆積し、時折極粗粒砂から粗粒砂を交えており、

1区 南壁土層

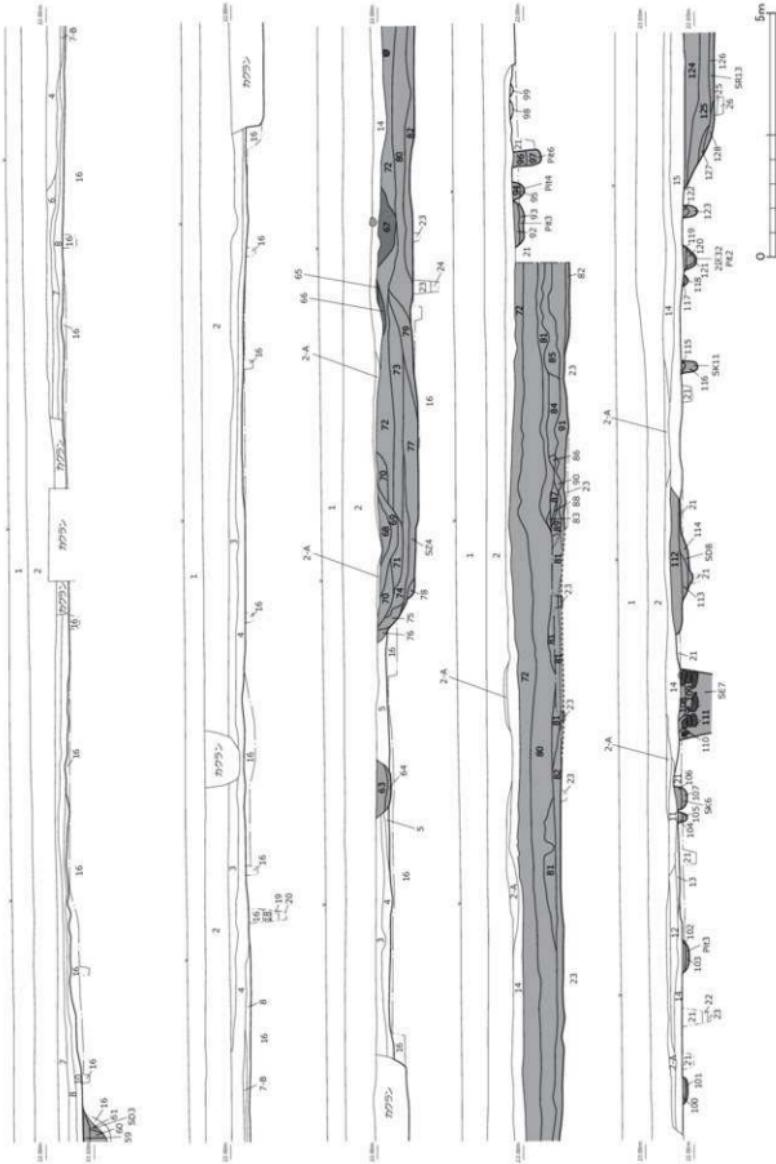


2区 西壁土層



第29図 柳垣内遺跡（第2次） 1区南壁土層断面図、2区西壁土層断面図① (1/100)

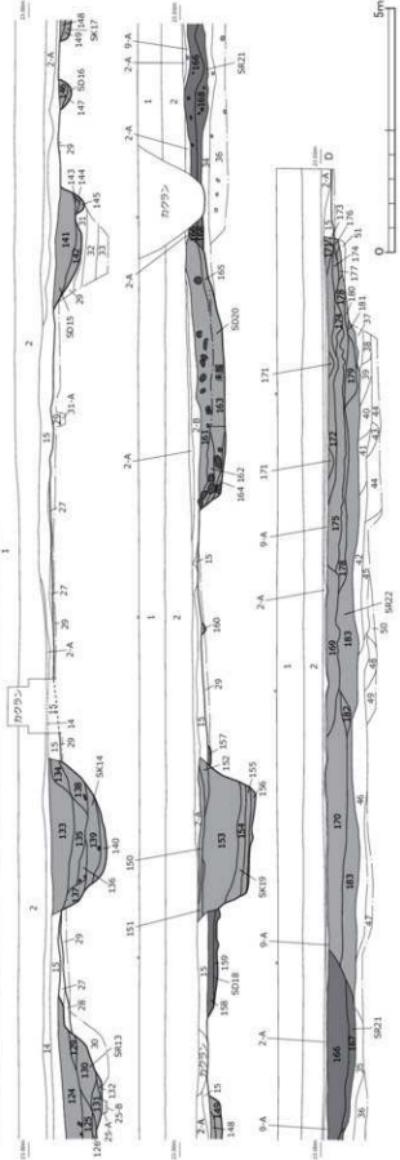
2区 西壁土層



第30図 柳垣内遺跡（第2次）2区西壁土層断面図② (1/100)

2区 西壁土層

第31図 柳垣内遺跡（第2次） 2区西壁土層断面図③（1/100）



1. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン—鉛鉱鉄鉻色のシルトトーン。

2. 黒。

3. 黒。

4. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン—鉛鉱鉄鉻色のシルトトーン。

5. 5~10%のリード-ブリッジ色のシルトトーン—鉛鉱鉄鉻色のシルトトーン。

6. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン+7.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

7. 10%のリード-ブリッジ色のシルトトーン+7.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

8. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン+7.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

9. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン。

10. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン。

11. 黑。

12. 黑。

13. 黑。

14. 黑。

15. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン—鉛鉱鉄鉻色のシルトトーン。

16. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン—鉛鉱鉄鉻色のシルト。

17. 黒。

18. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン。

19. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

20. 黒。

21. 黒。

22. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン。

23. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン+7.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

24. 7.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン+7.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

25. 黑。

26. 黑。

27. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン+2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

28. 黑。

29. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

30. 黑。

31. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルトトーン—鉛鉱鉄鉻色のシルト。

32. 黑。

33. 黑。

34. 黑。

35. 黑。

36. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

37. 黑。

38. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

39. 黑。

40. 5.1%のリード-ブリッジ色のシルト。

41. 5.1%のリード-ブリッジ色のシルト。

42. 5.1%のリード-ブリッジ色のシルト。

43. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

44. 黑。

45. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

46. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

47. 黑。

48. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

49. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

50. 5.1%のリード-ブリッジ色のシルト。

51. 黑。

52. 黑。

53. 5.1%のリード-ブリッジ色のシルト。

54. 黑。

55. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

56. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

57. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

58. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

59. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

60. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

61. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

62. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

63. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

64. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

65. 黑。

66. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

67. 黑。

68. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

69. 黑。

70. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

71. 黑。

72. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

73. 黑。

74. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

75. 黑。

76. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

77. 黑。

78. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

79. 黑。

80. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

81. 黑。

82. 黑。

83. 黑。

84. 黑。

85. 黑。

86. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

87. 黑。

88. 黑。

89. 黑。

90. 黑。

91. 黑。

92. 黑。

93. 黑。

94. 黑。

95. 黑。

96. 2.5%のリード-ブリッジ色のシルト。

97. 黑。

98. 黑。

99. 黑。

100. 黑。

101. 黑。

102. 黑。

103. 黑。

104. 黑。

105. 黑。

106. 黑。

107. 黑。

108. 黑。

109. 黑。

110. 黑。

111. 黑。

112. 黑。

113. 黑。

114. 黑。

115. 黑。

116. 黑。

117. 黑。

118. 黑。

119. 黑。

120. 黑。

121. 黑。

122. 黑。

123. 黑。

124. 黑。

125. 黑。

126. 黑。

127. 黑。

128. 黑。

129. 黑。

130. 黑。

131. 黑。

132. 黑。

133. 黑。

134. 黑。

135. 黑。

136. 黑。

137. 黑。

138. 黑。

139. 黑。

140. 黑。

141. 黑。

142. 黑。

143. 黑。

144. 黑。

145. 黑。

146. 黑。

147. 黑。

148. 黑。

149. 黑。

150. 黑。

151. 黑。

152. 黑。

153. 黑。

154. 黑。

155. 黑。

156. 黑。

157. 黑。

158. 黑。

159. 黑。

160. 黑。

161. 黑。

162. 黑。

163. 黑。

164. 黑。

165. 黑。

166. 黑。

167. 黑。

168. 黑。

169. 黑。

170. 黑。

171. 黑。

172. 黑。

173. 黑。

174. 黑。

175. 黑。

176. 黑。

177. 黑。

178. 黑。

179. 黑。

180. 黑。

181. 黑。

182. 黑。

183. 黑。

184. 黑。

185. 黑。

186. 黑。

187. 黑。

188. 黑。

189. 黑。

190. 黑。

191. 黑。

192. 黑。

193. 黑。

194. 黑。

195. 黑。

196. 黑。

197. 黑。

198. 黑。

199. 黑。

200. 黑。

201. 黑。

202. 黑。

203. 黑。

204. 黑。

205. 黑。

206. 黑。

207. 黑。

208. 黑。

209. 黑。

210. 黑。

211. 黑。

212. 黑。

213. 黑。

214. 黑。

215. 黑。

216. 黑。

217. 黑。

218. 黑。

219. 黑。

220. 黑。

221. 黑。

222. 黑。

223. 黑。

224. 黑。

225. 黑。

226. 黑。

227. 黑。

228. 黑。

229. 黑。

230. 黑。

231. 黑。

232. 黑。

233. 黑。

234. 黑。

235. 黑。

236. 黑。

237. 黑。

238. 黑。

239. 黑。

240. 黑。

241. 黑。

242. 黑。

243. 黑。

244. 黑。

245. 黑。

246. 黑。

247. 黑。

248. 黑。

249. 黑。

250. 黑。

251. 黑。

252. 黑。

253. 黑。

254. 黑。

255. 黑。

256. 黑。

257. 黑。

258. 黑。

259. 黑。

260. 黑。

261. 黑。

262. 黑。

263. 黑。

264. 黑。

265. 黑。

266. 黑。

267. 黑。

268. 黑。

269. 黑。

270. 黑。

271. 黑。

272. 黑。

273. 黑。

274. 黑。

275. 黑。

276. 黑。

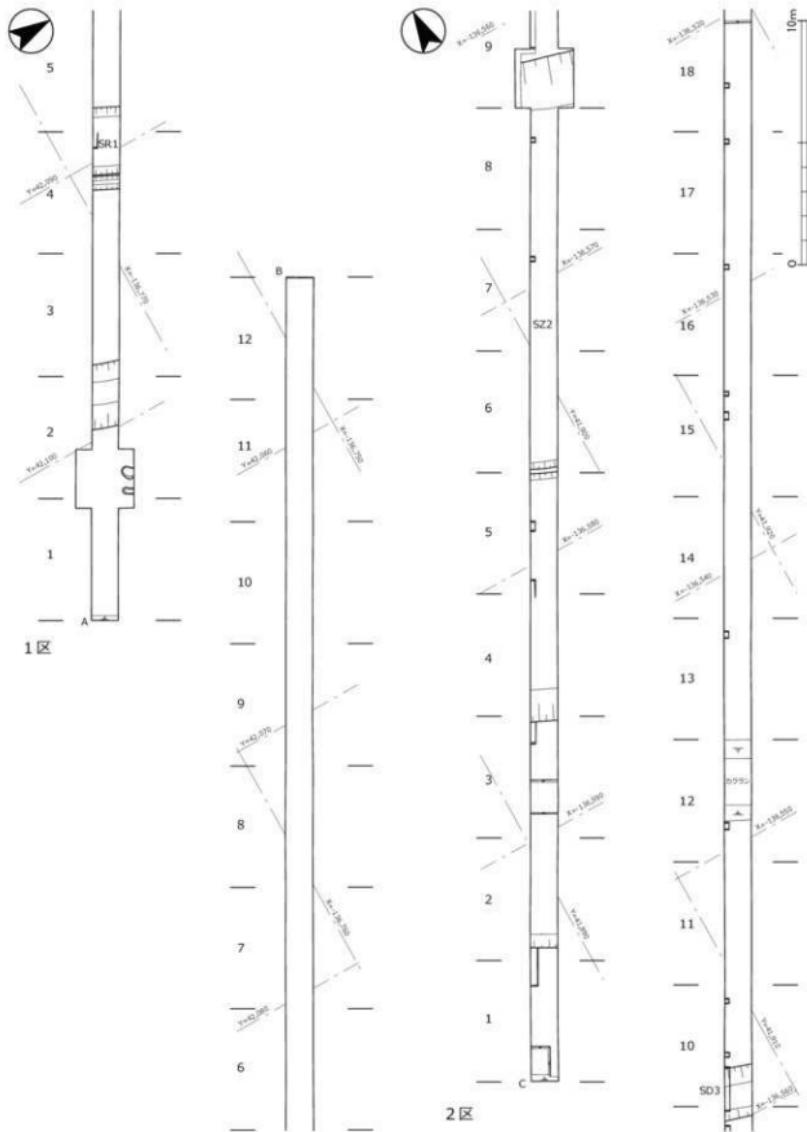
277. 黑。

278. 黑。

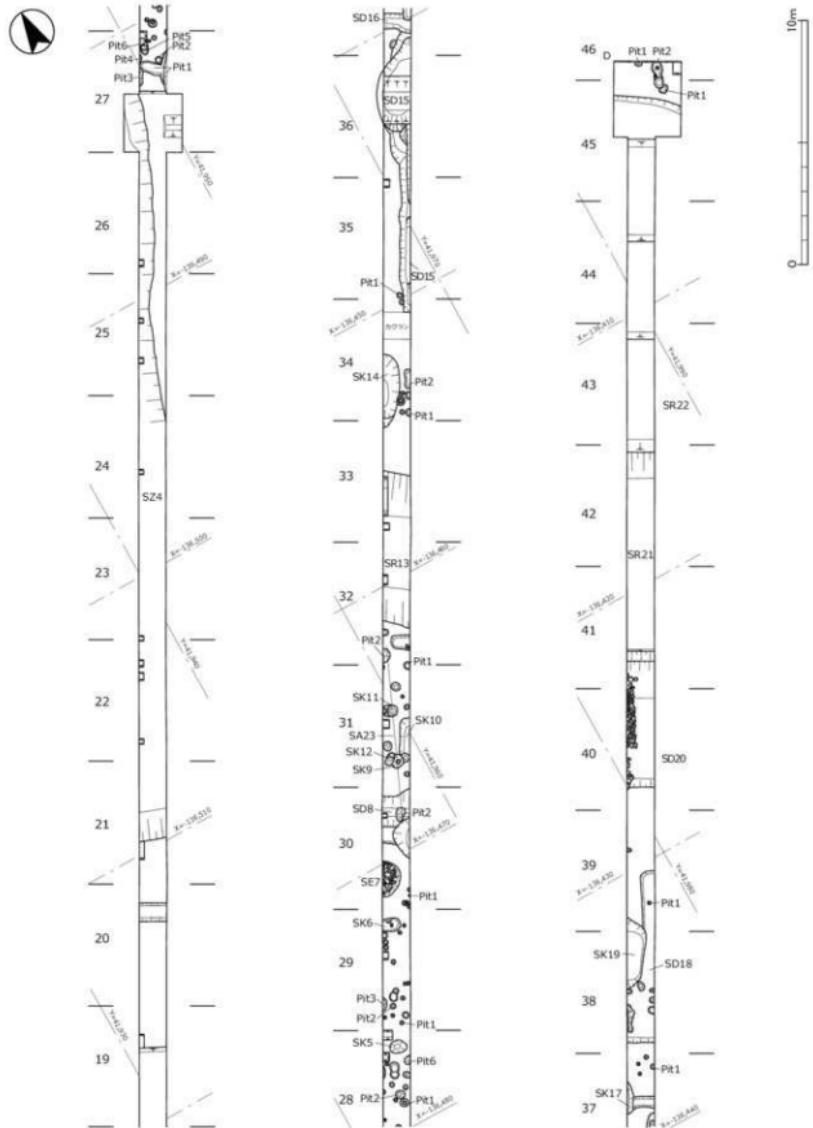
279. 黑。

280. 黑。

281. 黑。



第32図 柳垣内遺跡（第2次）1区・2区平面図① (1/200)



第33図 柳垣内遺跡（第2次）2区平面図② (1/200)

一定の水流があったとみられる。

埋土からは、土師器の小皿や甕、羽釜のほか、山茶椀や山皿が出土した。とりわけ戦国期の羽釜の出土が目立つが、甕や山茶椀類には平安時代末から鎌倉時代に比定しうるものもあり、若干の時期幅と一定期間の断絶がありそうである。土層が示す遺構の集積に対応してようが、層序別に取り上げておらず、それぞれの照応は難しい。

S K 5 (第34図) 長径0.72m×短径0.56m、検出面からの深さ0.3m前後を測る略楕円形を呈した土坑である。

埋土より土師器杯が出土した。

S K 6 (第34図) 西側が調査区外となるが、長径0.72m以上×短径0.58mの楕円形を呈した土坑で、深さ0.28mを測る。埋土は、暗オリーブ褐色シルトである。

埋土から南伊勢系土師器鍋の体部細片が出土しており、中世後期～近世初頭頃の遺構とみられる。

S E 7 (第34図) 西側が調査区外となるが、南北1.44m×東西0.74m以上、検出面からの深さ0.65m以上を測る石組み井戸である。調査区壁面隙で検出されたため、安全上の配慮から完掘はしておらず、石組みも3段分を確認したとどまる。調査区内での検出プランも略半円形を呈するが、本来は円形井戸だったとみられる。石組みは、北側は裏込めがなく、掘形に沿って直接石が積まれているが、南側の石組みは掘形より若干の裏込めを施したうえで積まれている。転落石も多くあり、本来はさらに高さがあったのであろう。埋土は褐色シルト、裏込めは暗褐色シルトである。

完掘しておらず、出土遺物もなかったが、近傍の遺構であるS K 6やS D 8と同じ面から掘り込まれており、中世後期から近世初頭頃の遺構形成とみられる。

S D 8 (第35図) 別の土坑との重複があるが、幅1.9m～2.3m、深さ0.48mを測る溝である。遺構形成当初は幅広ながらも底部がやや尖る逆三角形状の断面形を呈していたが、最上層は浅い幅広の皿状を呈している。3層の埋土はいずれも暗オリーブ褐色シルトを基本としている。

埋土から、図示した土師器皿類の他に、図示しな

かつたが伊藤編年第4段階に相当する南伊勢系土師器鍋の口縁部片が出土しており、16世紀頃の所産とみられる。

S K 9 (第34図) 長径0.56m×短径0.44m以上の略楕円形を呈した土坑として把握された遺構である。検出面から深さ0.46mを測る。後述のS K 12と重複し、S K 12に切られている。ただし、土坑ではなく柱穴であった可能性も残る。

埋土から、伊藤編年第4段階に相当する南伊勢系土師器鍋の口縁部片が出土しており、16世紀頃の所産とみられる。

S K 10 (第35図) ピットとの重複により南側の状況は不明だが、南北1.5m以上×東西0.44m以上、深さ0.1m程の浅い土坑で、残存プランから隅丸方形を呈していた可能性がある。

埋土から土師器鍋・皿類の小片が出土したが、図示し得るものはなかった。

S K 11・S A 23 (第35図) S K 11は西側が調査区外となるが、長径0.62m以上×短径0.48mの土坑として把握された遺構である。ただし、検出面では一連であったが、床面が深さ0.35m・0.38mと若干の高低差があり、ふたつのピットが重複した可能性が高い。

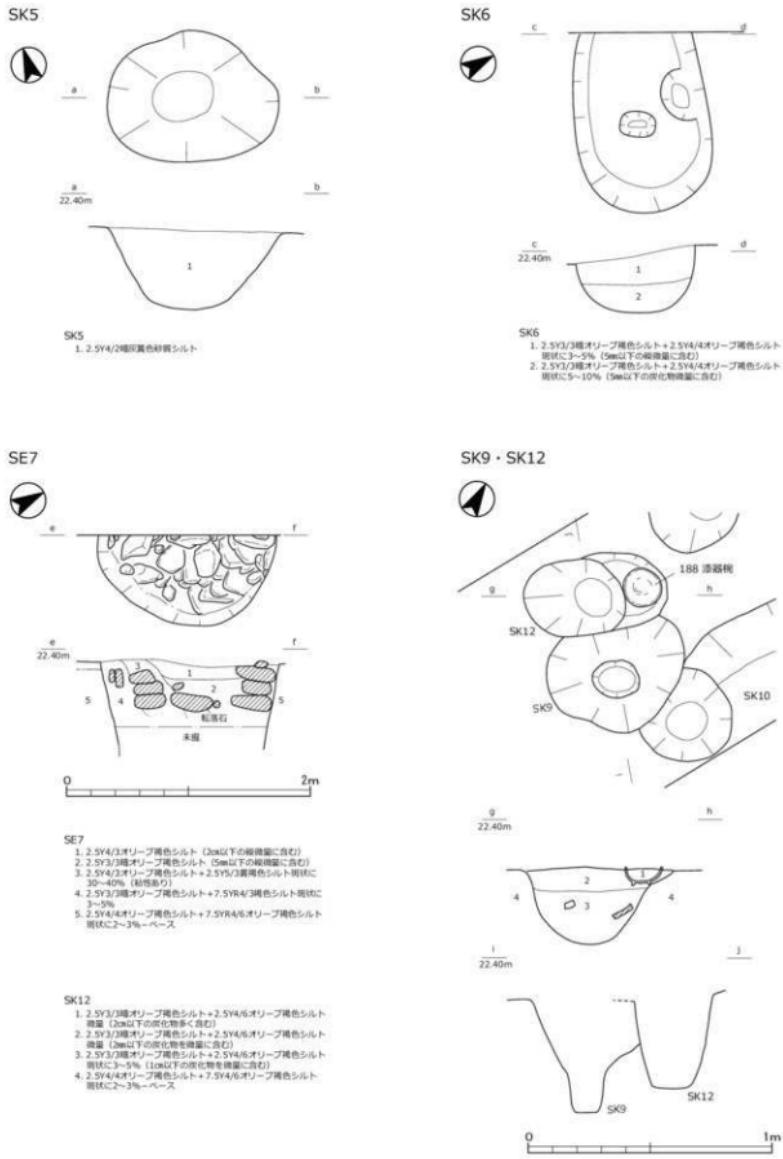
その場合、SD 8内Pit 2—SK 9—SK 11東側—2区32 Pit 2(無遺物のため調査時点でのPit番号の付与なし)は、2.1m等間で一直線に並ぶ。つまり、調査区幅が狭いため断定はできないが、本遺構は柱間3間以上でN 23° Eの掘立柱建物もしくは柱列(S A 23)を構成した柱穴であった可能性がある。

埋土からは、中世の土師器鍋・皿類の小片が出土したが、図示し得るものはなかった。

S K 12 (第34図) 長径0.6m×短径0.32m、深さ0.3mの長楕円形の土坑で、切り合ひ関係からSK 9より新しい。

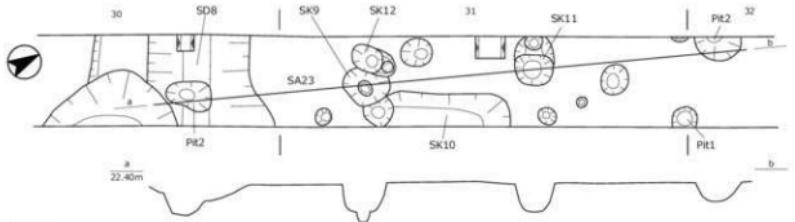
埋土上層から、黒漆塗の漆器椀(188)や鉄器片(189)、鍛冶関連遺物(190)が出土したが、土器の出土はなかった。

S R 13 (第35図) 幅6.2m、深さ0.80mの旧河道で、埋土は下層に黄灰色粘土を含むが、それより上位はシルトから極粗粒砂が交互に堆積した状況をなす。遺構のほぼ中央部の深さ0.4～0.6mの範囲に

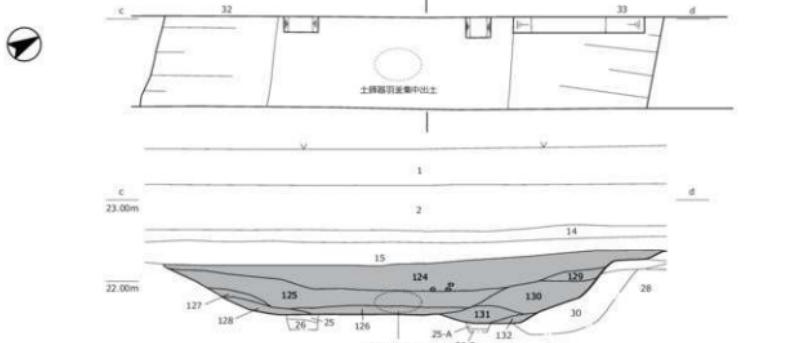


第34図 柳垣内遺跡（第2次）SK5・6・9・12、SE7平面図・土層断面図 (SK5・6・9・12 = 1/20, SE7 = 1/40)

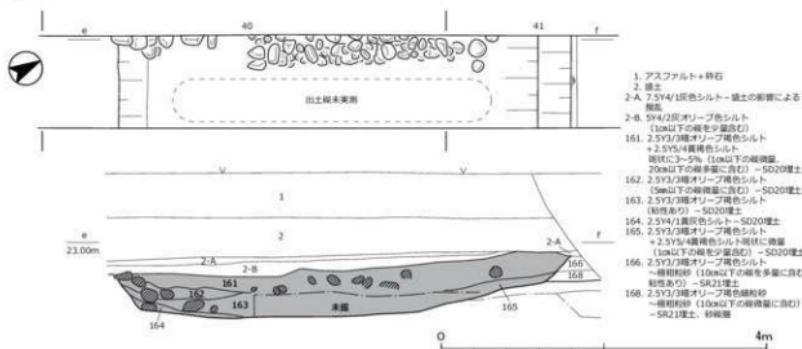
SD8 · SK10 · SA23



SR13



SD20



第35図 柳垣内遺跡（第2次）SD8・20、SK10、SA23、SR13平面図・土層断面図（1/60）

土師器羽釜が集中して出土する地点があり、一括廃棄のような状況を呈していた。

埋土からは、ごく少量の土師器鍋と陶器類を含むものの、大量の土師器羽釜が出土し、その多くが上述の集中出土地点からの出土である。

S K 14 調査区壁際に所在したため全体形は不明だが、東西0.68m以上×南北3.06m以上、深さ1.2m以上の土坑である。近傍に所在するS R 13やS D 15・16などよりも1層上位の15層から掘り込んでおり、層位的にはそれら遺構よりも新しい近世に属する遺構とみられる。

埋土から、皿?とみられる土師器細片や陶器小片が出土したが、図示しうるものはなかった。

S D 15 南側を擾乱、北側をS D 16に切られ、東側は調査区外となるため不確定要素が大きいが、南北11.58m以上×東西0.4~1.12m以上の溝として把握している。深さは、概ね0.3~0.4m程度である。ただし、北側で平面形が膨らむ部分（幅1.12m以上の部分）は、深さも0.56m程度と深く、土坑など別遺構との重複によるものかもしれない。埋土は、シルト系を基本としている。

埋土から、伊藤編年の南伊勢系中世IV期に相当する土師器鍋などが出土しており、16世紀頃の所産であろう。

S D 16 幅0.64~0.8m、深さ0.3mの東西溝で、埋土は暗オリーブ褐色シルトであった。切り合い関係から、S D 15よりも新しい。

埋土からは、図示するに至らない時期不明の土師器細片が出土したのみである。

S K 17 調査区壁際で検出されたため、全体形は不明だが、東西0.3m以上×南北1.35m以上、深さ0.24m以上の土坑である。床面は平坦で、埋土は暗オリーブ褐色シルトを基本としている。

埋土からは、図示するに至らない土師器細片が出土したのみである。

S D 18 後述の土坑S K 19に切られているため、平面形に不明な部分がある。溝として把握されているが、幅が0.58m~1.12mと幅があり、溝とすれば途中屈折して流れる溝であろう。深さは0.2mほどと浅い。

埋土からは、図示するに至らない土師器細片が出

土したのみである。

S K 19 東西0.8m以上×南北2.96m以上、深さ1.16mの土坑で、南北辺は膨らむが、東辺は直線気味である。埋土は、上層より暗灰黄色シルト、暗褐色シルト、暗オリーブ褐色シルト、黒褐色シルトと下へ行くに従い色調が濃くなり、暗オリーブ褐色シルト層の最下面では鉄分が層状に沈着し、硬化している。切り合い関係から、S D 18よりも新しい。

埋土から、土師器やロクロ土師器の小皿が出土した。

S D 20 (第35図) S D 20・S R 21・S R 22は重複関係をもつ溝・旧河道で、土層観察からS R 22→S R 21→S D 20と新しくなる。

S D 20は、旧河道S R 21を切る東西溝で、幅5.6m、深さ0.6mを測る。埋土は、暗オリーブ褐色シルトを基本とし、溝の北端を除く範囲で円礫が大量に出土した。石積みというほどの規則性はないが、西側の調査区外に礫を伴うしがらみ状の施設があった可能性は残る。

埋土から、中世後期の土師器小皿が出土したが、出土遺物は乏しい。

S R 21 南側がS D 20に切られているため、全体幅は不明だが、現況で幅8.6m以上、深さ0.6mを測る旧河道である。埋土は、暗オリーブ褐色シルト～極粗粒砂で、床面に深さのピークが2箇所あることから、存続時期幅内で流路の中心が変化していた可能性がある。

埋土から、図示した土師器小皿類が出土したほか、小片のため図示していないが伊藤編年南伊勢系中世IV期に相当する土師器鍋の口縁部小片も出土しており、概ね16世紀頃の所産とみられる。

S R 22 南側をS R 21に切られているため、全体幅は不明だが、現況で幅15.6m、深さ0.68mを測る。幅の広さに比べて全体に浅いが、埋土はシルトから極細粒砂、極粗粒砂と砂質が強く、層によっては10cm大までの礫を大量に含んでいたり、マンガンと黒色鉄分を大量に含む層があるなど、一定程度流れがあった期間があったとみられる。

埋土からの出土遺物はほとんどなかったが、繩文土器片が1点出土しており、S R 22のみ、形成時期が繩文時代に遡る可能性がある。

2 遺 物

今回の調査では、コンテナバット14箱分の遺物が出土した。ほとんどの出土品が中世後期～近世初頭ごろの所産で、遺構に伴う出土品はすべて2区から出土である。なお、記述で参考とした文献は、章末にまとめて掲載している。

S Z 2 (1・18・37) 1は山茶椀。高台が消失していることから藤澤編年の第10型式にあたり、15世紀前半ごろのものとみられる。18は土師器小皿、37は山茶椀。

S D 3 (2・3) 2・3は山茶椀。2は底部が厚く、高台は台形状を呈する。藤澤編年の第7型式にあたり、13世紀後半ごろのもの。3は高台が消失しており、2との若干の時期差がみとめられる。

S Z 4 (4~42) 4・16・17は土師器小皿。5~15・19~21は土師器皿。4~15・17・20は口縁部内面に明瞭なナデ調整を施し、緩やかに回んだ2段作りの形状をなすもので、底部との境界に棱をもつ。9は内外面ともに黒色。22は土師器甕。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部が内側に肥厚する様相は、南伊勢系土師器鍋の前段階にあたる形状をなす。23~34は土師器羽釜。23・25~32の口縁部は内傾して短く立ち上がるが、24の口縁部はやや直立気味に立ち上がる。そのほか、33・34のように口縁部は内傾が緩やかで、立ち上がりが長いものもみとめられる。いずれも伊藤編年の中北勢中世III期の範囲におさまり、15世紀初頭から16世紀後半ごろのもの。35は山皿。36・38~42は山茶椀。36は底部が厚く、高台が台形状を呈することから、藤澤編年の第6型式にあたる。38の底部外面には「十」の墨書きがみとめられる。

2区 27 Pit 2 (43) 43は土師器鍋。口縁部の形状からみて南伊勢系のものとみられる。伊藤編年の南伊勢中世IV期にあたる16世紀ごろのもの。

2区 27 Pit 5 (44・45) 44は土師器羽釜。法量は小さく、内傾する口縁部は立ち上がりが長い。45は土師器鍋。南伊勢系のもので、口縁部は内傾気味に立ち上がり、端部が内側に肥厚する。いずれも伊藤編年の南伊勢中世III期にあたり、15世紀初頭から16世紀後半ごろのもの。

2区 27 Pit 6 (46) 46は瀬戸焼の大皿。口縁部端部は強いクロナデにより、外反する。15世紀中頃のものと考えられる。

S K 5 (47) 47は土師器皿。15世紀初頭から16世紀後半ごろのものと考えられる。

S D 8 (48~50) 48・49は土師器小皿。14世紀後半から16世紀後半ごろのものと考えられる。50は山茶椀小片。

S K 9 (51) 51は土師器鍋小片。口縁部の形状から、南伊勢系の土師器鍋である。南伊勢中世IV期にあたる。

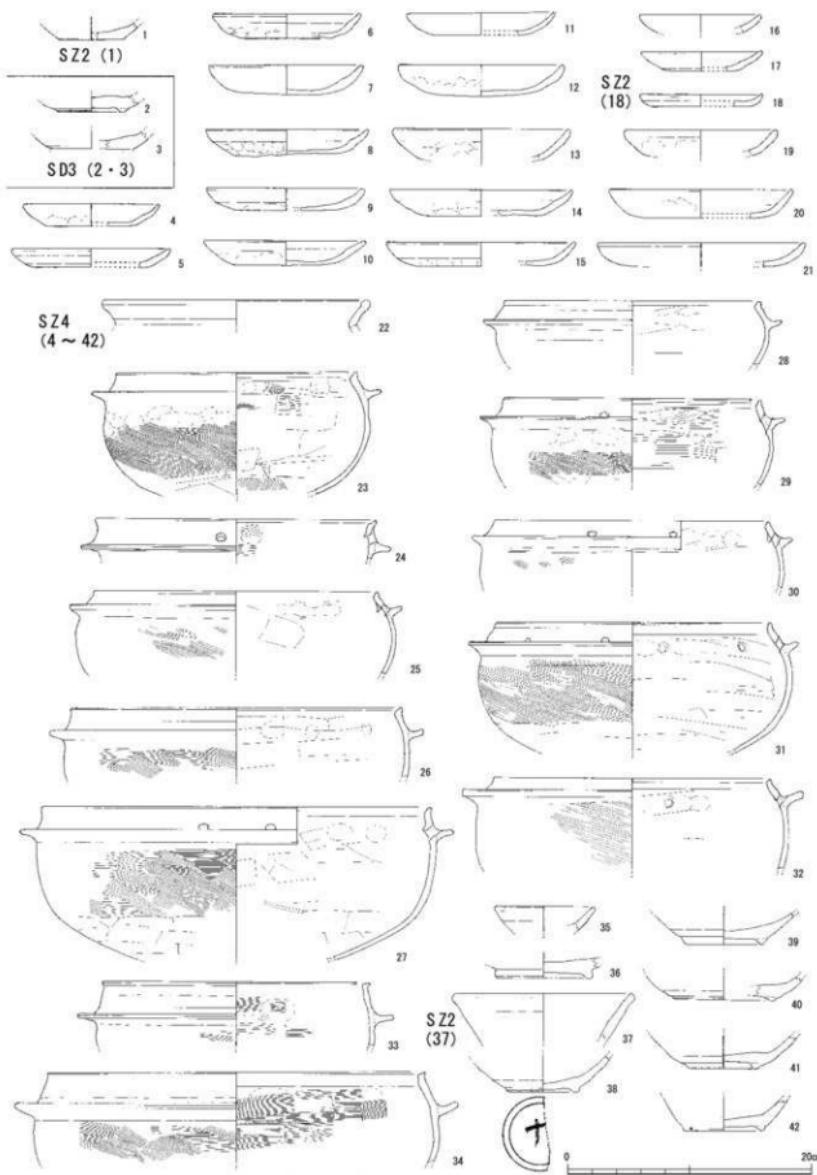
2区 32 Pit 1 (52) 52は土師器小皿。15世紀初頭から16世紀後半ごろのものと考えられる。

S K 12 (188~190) 188は漆器椀。木胎ではなく漆膜のみ残存する。木取りは横木取り征目。内面および外面には赤漆、口縁端部の内面と高台内面には黒漆を塗布している。そのほか、高台外面に「言」の朱書きがみとめられる。189は鉄製品。190は爐炉の炉壁。鉄錆が付着しており、わずかに碰着する。

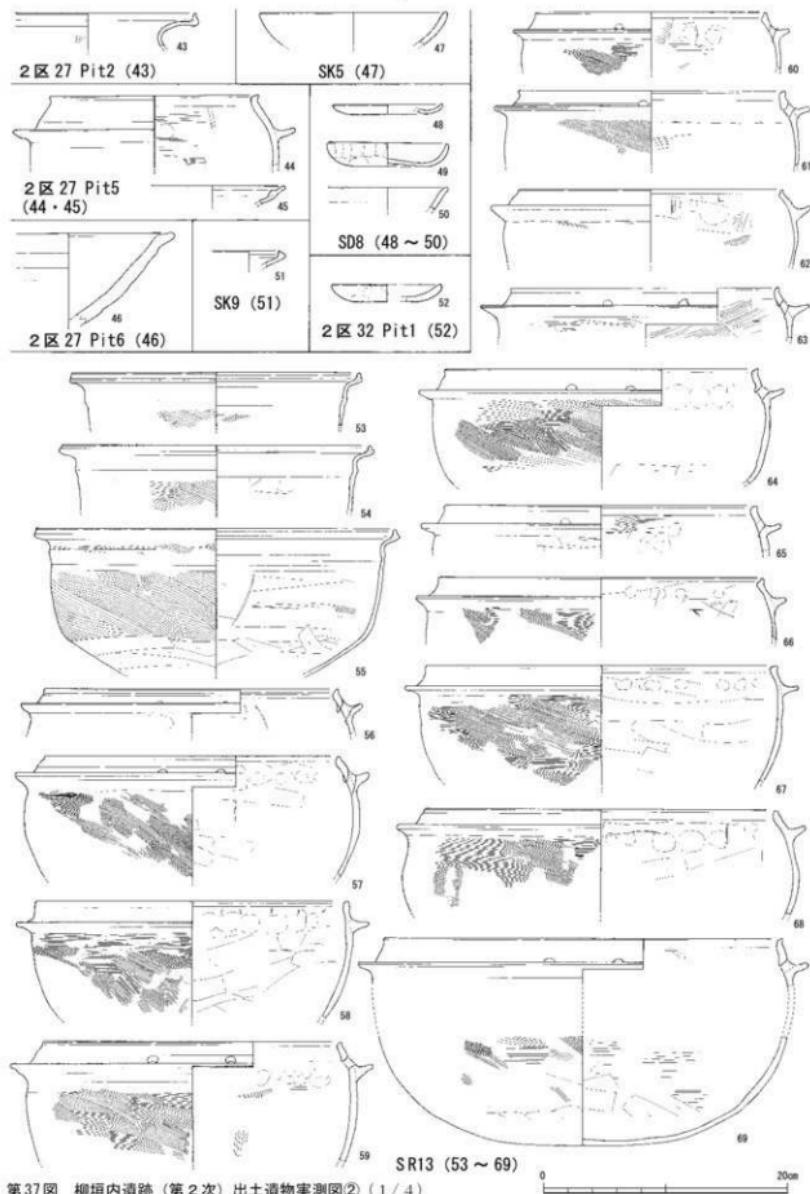
S R 13 (53~143) 53~55は土師器鍋。口縁部の様相から、伊藤編年の南伊勢中世IV期にあたる。56~138は土師器羽釜。ほぼ大半は伊藤編年の中北勢中世III期のものだが、口縁部がやや直立気味に立ち上がるIII期の特徴をもつもの（58・99・114・119・134）もいくつか含まれている。S R 13出土品を含む2区出土の土師器羽釜は、その大半に外面にはススの付着といった使用痕が明瞭に残っていることからみて、周辺域で使用していたものを投棄したと考えられる。139は土師器甕あるいは土師器羽釜の底部。140は土師器小皿。141は常滑焼の片口鉢。142は山茶椀。底部外面に墨痕がみとめられる。143はフイゴの羽口か。

2区 34 Pit 2 (144) 144は土師器皿。やや新しく見えるものの、15世紀初頭から16世紀後半ごろのものか。

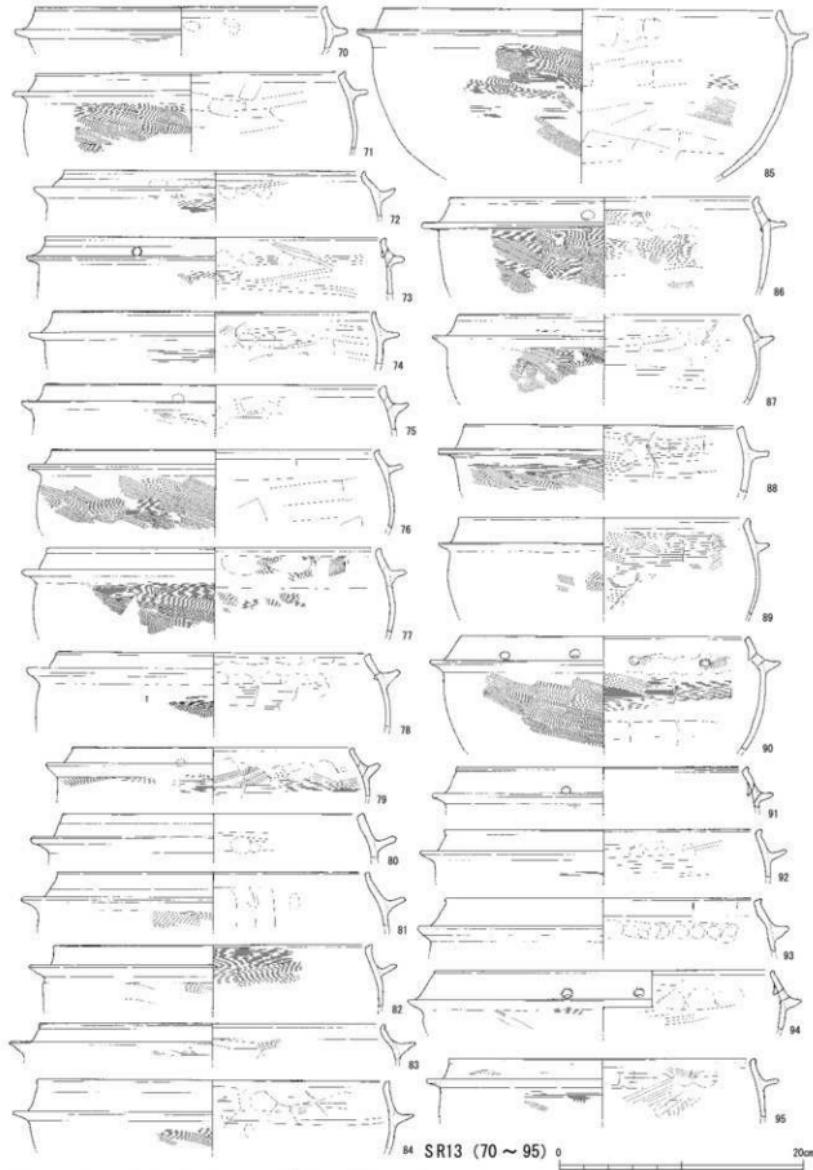
S D 15 (145~148) 145・146は土師器鍋。口縁部形態から南伊勢系のものと考えられ、伊藤編年の南伊勢中世IV期にあたる。147は土師器皿。148は山茶椀小片。



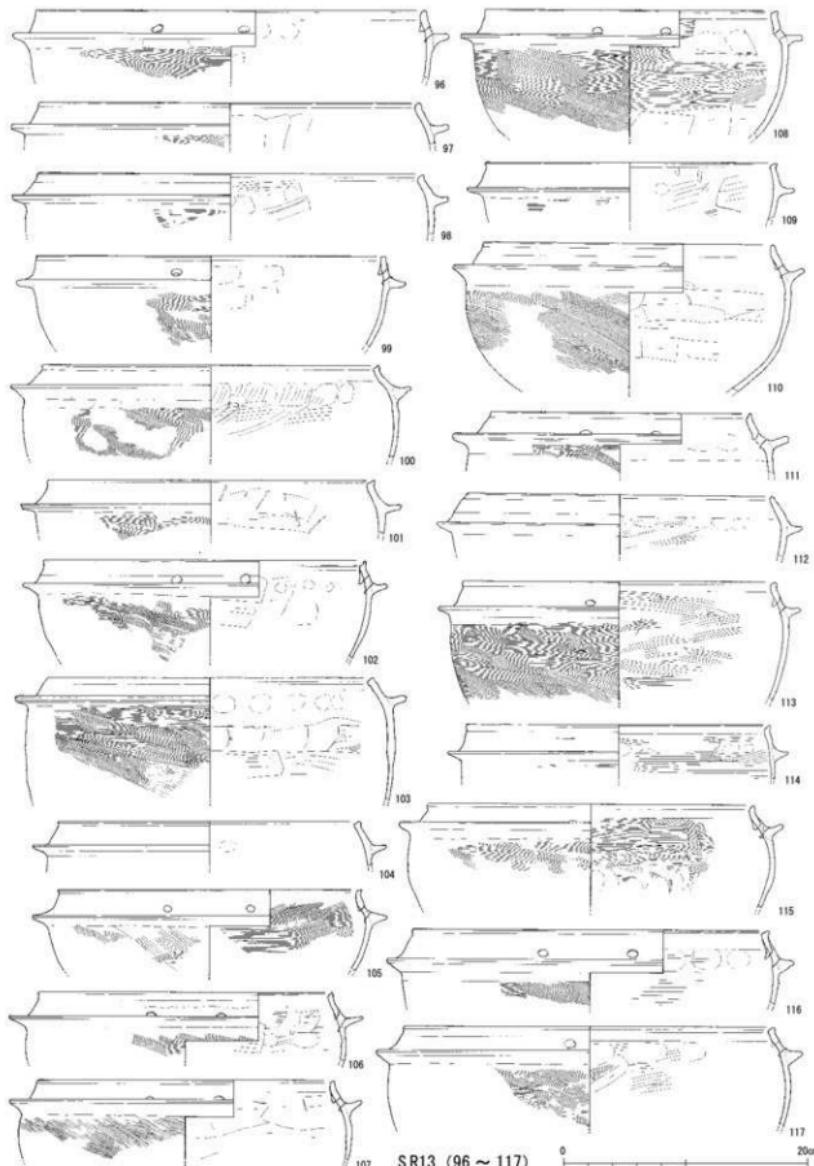
第36図 柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図①(1/4)



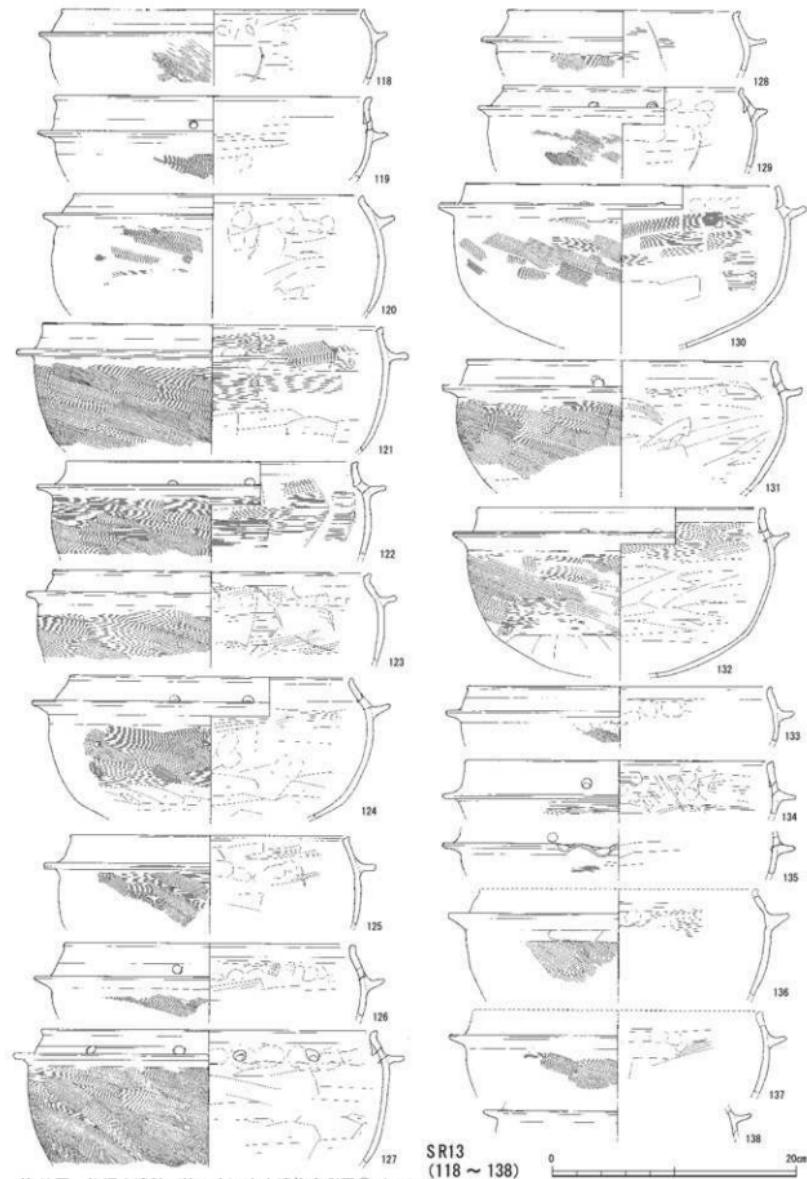
第37図 柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図② (1/4)



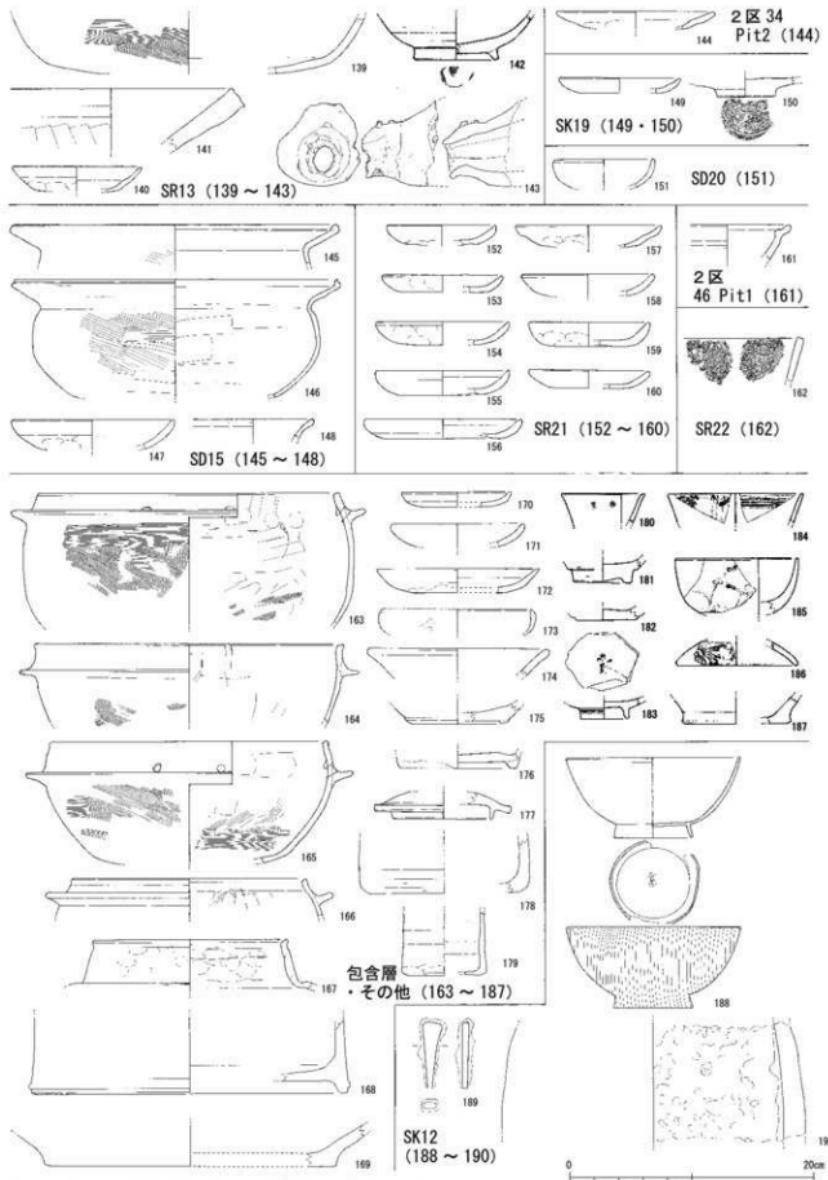
第38図 柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図③（1/4）



第39図 柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図④（1/4）



第40図 柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図⑤（1/4）



第41図 柳垣内遺跡（第2次）出土遺物実測図⑥（1/4）

S K 19 (149・150) 149は土師器小皿。150はクロク土師器台付小皿。底部は回転糸切り。149が15世紀初頭から16世紀後半ごろのものと考えられるのに対し、150は12世紀後半から13世紀前半ごろのものと考えられ、時期差がみとめられる。

S D 20 (151) 151は土師器小皿。15世紀初頭から16世紀後半ごろのものと考えられる。

S R 21 (152~160) 152・153は土師器小皿。154~160は土師器皿。15世紀後半から16世紀末ごろのもの。

2区 46 Pit 1 (161) 161は片口鉢。15世紀初頭ごろのもの。

S R 22 (162) 162は縄文土器の深鉢口縁部片。後期か。

包含層・その他の遺物 (163~187) 包含層と、遺構出土でも明らかな混入遺物はここで扱う。163~

166は土師器羽釜。167は土師器茶釜。168は土師質鉢。169は常滑焼の片口鉢。170は土師器小皿。171~173は土師器皿。174・175は山茶碗。176は陶器瓶類の底部片。177は陶器蓋。178は陶器鉢。179は陶器徳利。180は磁器小杯。181は天目茶碗。182は磁器皿。183~185は磁器碗。186は磁器蓋。187は縄文土器の深鉢。

参考文献

伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相～雲出島貴遺跡出土資料を中心に～」『嶺北II』三重県埋蔵文化財センター2000

伊藤裕偉「中北勢地域の中世土器」『三重県史 資料編 考古2』三重県 2008

藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994

3 小 結

a 遺構について

柳垣内遺跡では、東西2カ所のトレンチ調査を実施した。このうち、西側の柳垣内遺跡2区では、小ブケ遺跡や石名田遺跡では確認できた古墳時代や古代の遺構・遺物はほぼ含まず、16世紀代を中心とした戦国期の遺構・遺物が確認された。

一方、石名田遺跡の西側に接する柳垣内遺跡の1区は、石名田遺跡に近い東端部で溝や流路が確認できた。遺構番号を付与した遺構としては遺物が出土したS R 1だけだったが、他にも旧河道状の落ち込みと溝がそれぞれ1条あり、合計3条溝と流路が存在する。調査区幅が狭いため、当該の遺構が本当に溝や流路なのか、あるいは土坑や池沼状の落ち込みなのかは、平面上確定し難いが、堆積した土層は礫を含んだ粗砂が中心であり、溝や流路とみて大過ないであろう。その場合、当該の遺構は、行政上の遺跡地図上では柳垣内遺跡内に存するものの、石名田遺跡の西端を画する溝や流路だった可能性が高い。出土遺物で明確に時期を示すものはなかったが、西側の2区とは異なり、1区の遺構形成時期は戦国期ではなく、もう少し遡って石名田遺跡の遺構の存続時期と照応した可能性がある。

1区の西側は、ピットや土坑、溝といった遺構が

存在しない部分が続くが、この区域は水田などの生産域だったとみられる。

柳垣内遺跡の西端部の南北トレンチである2区では、見当山丘陵に近いトレンチ北半を中心に、井戸や土坑、溝、ピットなど集落に関わる遺構が多数確認できた。残念ながら、トレンチ幅が狭いため、掘立柱建物としてはまとめきれていないが、おそらく掘立柱建物も存在したとみてよからう。一方、2区南半部は、ピットや土坑といった生活臭のある遺構に乏しく、流路や溝、S Z 4などの広く浅い落ち込みなどが中心で、生産域を含む低湿状となっていた可能性が高い。

b 遺物について

今回の柳垣内遺跡では、中世の土師器、とりわけ中北勢系の羽釜が多数出土したことが注目される。特に、S R 13では狭い範囲から折り重なるように羽釜が出土した。柳垣内遺跡では、少量ながら南伊勢系の鍋も出土しており、今後、それぞれの編年的関係を改めて整理していくなかでも重要な資料といえよう。

また、柳垣内遺跡では、藤澤編年第10型式に下る、高台が消失した新しい時期の山茶碗も出土している。

これらは、15～16世紀の戦国期に相当する山茶碗としては終末段階の資料である。北伊勢ではこれまでにも注意されてきたが、中伊勢の安濃郡としては珍しい資料で、先の中北勢系羽釜や南伊勢系の鍋を考えていくなかで、あらためて評価してく必要がある。

c 遺跡範囲について

今回の柳垣内遺跡の調査区は、1区は遺跡範囲の南端部分、2区は西端部分に相当する。しかし、調査の結果、東西トレーニングの1区では東端部に南北方向の流路・溝が確認できた。また、南北トレーニングの2区でも、北半部に東西方向の流路や溝、西側に続く土坑やピット、南半部でも東西溝や東西に続く流路や落ち込みが存在した。つまり、今回の調査によって、柳垣内遺跡の遺跡範囲は、東南部がさらに南側

へ、西側はさらに西側へ遺構が続いていくことが確定し、遺跡範囲が拡大することが明らかとなった。

このうち、西側については、西側に位置する桜垣内遺跡が至近まで迫ってきており、柳垣内遺跡と桜垣内遺跡は一体の遺跡として捉えられよう。その場合、現道の状況などから、行政手続き上の遺跡把握としては、桜垣内遺跡への東側への範囲拡大として整理することが適切であろう。

『安濃町史』資料編によれば、桜垣内遺跡では山茶碗をはじめとする中世の遺物が広範囲に濃密に散布するとされており、柳垣内遺跡の調査結果とも照応する。今後、桜垣内遺跡に西接する出屋敷遺跡も含め、安濃城膝下の戦国期集落として、その構造解明が進むことが期待される。

遺構番号	地区	小地区	時代	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
SR1	1	4・5	不明	—	2.8	0.28	自然流路か
SZ2	2	3~9	戦国期	—	27	0.65	
SD3	2	9・10	戦国期	—	2	0.5	
SZ4	2	21~27	戦国期	—	30以上	1.2	複数の流路・落ち込みで構成か。平安末～鎌倉期の遺物も含む。
SK5	2	28	戦国期	0.72	0.56	0.3	
SK6	2	29	中世後期～近世初期	0.72以上	0.58	0.28	
SE7	2	30	中世後期～近世初期か	1.44	0.74以上	0.65	石組み
SD8	2	30	戦国期	—	1.9~2.3	0.48	
SK9	2	31	戦国期	0.56	0.44以上	0.46	SK12より先行。柱穴の可能性あり。
SK10	2	31	不明	1.5以上	0.44以上	0.1	
SK11	2	31	戦国期か	0.62以上	0.48	0.38	2個のピット重複の可能性あり。柱列SA23を構成か。
SK12	2	31	戦国期か	0.6	0.32	0.3	
SR13	2	32・33	戦国期	—	6.2	0.80	羽釜集中出土
SK14	2	33・34	近世か	2.06以上	0.68以上	1.2以上	
SD15	2	34~37	戦国期	11.58以上	1.12以上 (北側±0.56)	0.3~0.4	SK16より先行
SD16	2	37	戦国期	—	0.64~0.8	0.3	
SK17	2	37	不明	1.35以上	0.3以上	0.24以上	
SD18	2	38・39	不明	—	0.58~1.12	0.2	SK19より先行
SK19	2	38・39	戦国期	2.96以上	0.8以上	1.16	平安末～鎌倉の遺物も混じる
SD20	2	40・41	中世後期	—	5.6	0.6	円錐大量に出土
SR21	2	41・42	戦国期	—	8.6以上	0.6	SD20より先行
SR22	2	42~45	調文期？	—	15.6以上	0.68	SR21より先行
SA23	2	30~32	戦国期				SD9~Pit2~SK9~SK11東側-2区32Pit2で構成 3個 2.1m等間
Pit2	2	27	戦国期	0.3	0.28	0.18	
Pit5	2	27	中世後期	0.56	0.34	0.48	
Pit6	2	27	中世後期	0.34	0.24以上	0.45	
Pit1	2	32	戦国期	0.3	0.3	0.27	
Pit2	2	34	中世後期	0.8	0.24以上	0.11	
Pit1	2	46	中世後期	0.28	0.16以上	0.16	

*位置：本文で触れたピット（2区）のみ、小地区を示した

*深さ：検出面からの深さを示す

第5表 柳垣内遺跡（第2次）遺構一覧表

No	実測 高さ (cm)	種類 (地名)	基準 標高	断面 形状	断面 部位	土質 (cm)		柱脚・支障の特徴	出土 遺物	傳承	色調 (外見)	特記事項	
						口徑	壁厚						
1	829-1	山系樹	樹	2区4	S22 直筒	近底 5/12	-	5.9	- 内：クロナガ、白木端 外：コロナガ、ホカリ端	地中 地中	灰白 灰白		
2	829-2	山系樹	樹	2区10	S09	近底 5/12	-	5.2	- 内：クロナガ、ホカリ端	地中 地中	灰白 灰白		
3	829-3	山系樹	樹	2区18	Q10	直筒狀	-	-	- 内：クロナガ、ホカリ端 外：クロナガ、ホカリ端	地中 地中	灰白 灰白		
4	043-3	上傾面	小木	2区28	S21	直筒	13.9	-	1.8	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	江戸・明治・昭和7/3 内面×外壁スリット
5	043-4	上傾面	木	2区21	S24-N2	2/12	12.4	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	江戸・明治・昭和7/2	
6	041-2	上傾面	木	2区21	S21	5/12	12.6	-	1.9	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ、ナガ	地中	灰白 灰白	江戸・明治・昭和7/2
7	041-3	上傾面	木	2区23	S21	3/12	10.8	-	1.8	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	清高麗1.6/3
8	042-2	上傾面	木	2区22	S21	尖形	12.8	-	1.9 2.5	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ	地中	灰白 灰白	改高麗10/10/3 外面×外付垂
9	041-3	上傾面	木	2区23	S21-N2	2/12	12.8	-	1.8	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ、ナガ	地中	灰白 灰白	江戸・明治・昭和7/2
10	041-5	上傾面	木	2区21	S21	定形	13.2	-	2.0 2.5	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ、ナガ	地中	灰白 灰白	西高麗10/10/3
11	040-3	上傾面	木	2区21	S21-N2	5/12	12.6	-	1.8	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	清高麗10/10/3
12	042-2	上傾面	木	2区21	S21	4/12	13.2	-	2.6	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	改高麗10/10/3
13	043-5	上傾面	木	2区21	S24-N2	1/12-2/12	14.2	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	西高麗10/10/3
14	040-5	上傾面	木	2区21	S21	1/12	13.0	-	2.1	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ、ナガ	地中	灰白 灰白	江戸1.3/2/3 内面スリット
15	043-3	上傾面	木	2区22	S21	3/12	13.4	-	2.0	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ	地中	灰白 灰白	西高麗10/10/3
16	040-7	上傾面	木	2区21	S21	1/12-2/12	8.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	西高麗10/10/3
17	040-6	上傾面	小木	2区26	S21	1/12	8.8	-	1.6	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	灰白1.3/10/3
18	040-6	上傾面	小木	2区7	S22	1/12	10.0	-	1.0	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	江戸・明治・昭和7/3
19	040-4	上傾面	木	2区21	S21	口縫-底張 3/12	12.4	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ、ナガ	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
20	040-2	上傾面	木	2区23	S21-N2	1/12	10.8	-	2.3	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、オサシ	地中	灰白 灰白	灰白1.3/2/3
21	040-6	上傾面	木	2区23	S24-N2	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	西高麗10/10/3
22	040-3	上傾面	木	2区21	S21	1/12-2/12	10.6	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端	地中	灰白 灰白	灰白1.3/10/3
23	042-2	上傾面	羽茎	2区22	S24	口縫-底張 3/12	19.6	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ、ナガ	地中	灰白 灰白	江戸・明治・昭和7/2 S3付垂、中北伊勢系
24	040-2	上傾面	羽茎	2区21	S21	口縫-底張 3/12	12.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付	地中	灰白 灰白	明治2.3/8/1 S3付垂
25	044-2	上傾面	羽茎	2区21	S21	1/12	13.2	-	-	- 内：ナガ、底張端、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目	地中	灰白 灰白	清高麗2.3/8/15
26	040-5	上傾面	羽茎	2区22	S24-N2	1/12-2/12	20.6	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目	地中	灰白 灰白	西高麗10/10/3 S3付垂、中北伊勢系
27	040-2	上傾面	羽茎	2区21	S21	1/12-2/12	20.6	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目 内：ナガ、ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ヘカリ端	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3 S3付垂、中北伊勢系
28	040-6	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	20.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、鷹鉢端	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
29	040-6	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	20.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
30	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12-2/12	20.2	-	-	- 内：ナガ、底張端、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ	地中	灰白 灰白	清高麗2.3/8/3
31	042-5	上傾面	羽茎	2区22	S21	9/12	20.4	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3 S3付垂、中北伊勢系
32	040-6	上傾面	羽茎	2区22	S21-N2	1/12-2/12	20.4	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ヘカリ端	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3 S3付垂、中北伊勢系
33	040-6	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	20.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ、ナガ	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
34	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	21.8	-	-	- 内：ナガ、ハケ目、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
35	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	21.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
36	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	21.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
37	040-6	上傾面	羽茎	2区26	S23	口縫-底張 1/12	22.6	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目	地中	灰白 灰白	西高麗1.3/10/3
38	042-2	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	22.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
39	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	23.0	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
40	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	23.0	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
41	040-1	上傾面	羽茎	2区22	S21	1/12	23.0	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、鷹鉢付、ハケ目、ケズリ	地中	灰白 灰白	江戸1.3/10/3
42	040-1	上傾面	羽茎	2区4	S22	下層	口縫-底張 1/12	23.4	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端、ホセラ端	地中 地中	灰白 灰白	灰白10/10/3
43	040-1	上傾面	羽茎	2区21	S21	底張1/12	-	5.6	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホカリ端、ホセラ端	地中	灰白 灰白	西高麗1.3/10/3
44	040-5	山系樹	樹	2区21	S21	底張1/12	-	4.8	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
45	040-1	山系樹	樹	2区21	S21	底張1/12	-	4.8	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
46	040-4	山系樹	樹	2区23	S21	底張1/12	-	4.12	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
47	040-4	山系樹	樹	2区23	S21	底張1/12	-	5.5	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
48	040-1	山系樹	樹	2区21	S21	底張1/12	-	7.6	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
49	040-1	山系樹	樹	2区4	S22	下層	口縫-底張 1/12	18.4	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中 地中	灰白 灰白	灰白10/10/3
50	040-1	山系樹	樹	2区21	S21	底張1/12	-	8.6	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	西高麗1.3/10/3
51	040-5	山系樹	樹	2区21	S21	底張1/12	-	9.8	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
52	040-1	山系樹	樹	2区21	P113	1/12	10.4	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
53	040-4	山系樹	樹	2区21	P113	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
54	040-4	山系樹	樹	2区21	P113	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
55	040-4	山系樹	樹	2区21	P113	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
56	040-6	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
57	040-6	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
58	040-6	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
59	040-5	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
60	040-6	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
61	040-5	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
62	040-4	山系樹	樹	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
63	040-1	上傾面	繩	2区21	P112	1/12	10.4	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
64	040-4	上傾面	繩	2区21	P113	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
65	040-4	上傾面	繩	2区21	P113	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
66	040-4	上傾面	繩	2区21	P113	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
67	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
68	040-7	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
69	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
70	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
71	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
72	040-5	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
73	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
74	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
75	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
76	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
77	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
78	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
79	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
80	040-6	上傾面	繩	2区21	P116	1/12	10.8	-	-	- 内：ナガ、ヨコナガ 外：ヨコナガ、ホセラ端	地中	灰白 灰白	江戸10/10/3
81	040-6	上傾面	繩	2区21									

No	実測番号	種類(遺跡)	層番	測量区	測量	部位	部位	主張 (cm)		法則・特徴の特徴	出土	傳承	色調(外観)	特記事項
								口徑	深度					
100	023-1	土蔵器	前室	2区33	SK13	口縁部	1/12	25.4	-	内:ナガ、ヨコナガ、横底面、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、斜底面ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
101	029-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	26.7	-	内:ヨコナガ、斜粘付、クサ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
102	019-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	4/12	26.9	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、クサ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
103	019-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	2/12	26.7	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
104	002-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	4/12	24.7	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
105	017-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	4/12	24.6	-	内:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
106	026-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	2/12	24.2	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
107	017-4	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	6/12	21.2	-	内:ケズリナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒 7.30W.1	スス付番、中北伊勢系
108	013-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	5/12	23.6	-	内:ケズリナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
109	037-6	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	23.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
110	011-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	4/12	23.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
111	005-2	土蔵器	前室	2区33	SK13	口縁部	1/12	21.5	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
112	001-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	23.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
113	016-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	23.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
114	026-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	23.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
115	029-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	26.7	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
116	015-1	土蔵器	前室	2区33	SK13	口縁部	5/12	26.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
117	023-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	30.2	-	内:ナガナガ、斜粘付、ナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系	
118	026-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	24.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
119	001-4	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	26.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
120	009-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	23.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
121	011-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	2/12	27.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、ケズリ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
122	013-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	5/12	23.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、ケズリ	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
123	016-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	2/12	26.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
124	016-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	8/12	23.1	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
125	027-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	22.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
126	019-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	6/12	23.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、ケズリ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
127	011-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	13/12	23.5	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
128	006-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	19.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系	
129	022-4	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	6/12	26.5	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
130	010-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	3/12	25.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ナガ	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
131	015-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	2/12	25.3	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ケズリ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
132	011-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	6/12	25.1	-	内:ナガ、ヨコナガ、ケズリ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	中古	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
133	001-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	25.1	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ナガ	新	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
134	015-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	25.3	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ナガ	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
135	011-2	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	4/12	25.1	-	内:ナガ、ヨコナガ、ケズリ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目、ナガ、ケズリ	中古	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
136	001-1	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	24.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
137	026-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	1/12	22.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
138	006-3	土蔵器	前室	2区32	SK13	口縁部	13/12	22.5	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ハケ目	新	-	にぶく濃黒	スス付番、中北伊勢系
139	007-1	土蔵器	側面	2区32	SK13	底盤	-	-	-	内:ナガ、ヨコナガ、ヨコナガ 外:ヨコナガ、斜粘付、ナガ	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
140	010-2	土蔵器	小室	2区33	SK13	口縁部	1/12	26.1	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、オサエ	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
141	007-3	陶器	片口・全体	2区32	SK13	底盤	-	-	-	内:ロクナガ、ナガ 外:ロクナガ、ナガ、工具ナガ	新	出	2.31W.0.9	青滑
142	010-2	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	1/12	22.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	西濃黒	スス付番、中北伊勢系
143	007-2	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	1/12	26.4	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑
144	032-2	土蔵器	桶	2区32	PK12	1/12	22.6	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑	
145	032-2	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	1/12	26.4	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑
146	030-1	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	1/12	26.4	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑
147	031-1	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	2/12	23.2	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑
148	032-2	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	1/12	23.2	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑
149	029-6	土蔵器	桶	2区32	SK13	底盤	1/12	26.8	-	内:ナガ、ヨコナガ、ナガ 外:ヨコナガ、ナガ、ナガ	中古	-	2.51W.0.9	青滑

No.	実測番号	種類(道地)	都道府県	測量区	測量年月	測量精度	測量位置	測量点名	測量 (cm)		柱法・矢跡の特徴	出土	焼成	色調(外観)	特記事項
									日付	時間					
150	630-2	ロアリ土解器	台付小窓	2区38	9K19	昭和57/12	-	A.4.5	-	-	内：クロナゲ 外：ロコナゲ、赤モチ	少少 少	-	緑 1000-8	
151	630-3	土解器	小窓	2区40	5020	2/12	3.0	-	-	-	内：ナガ 外：オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰白 10100-2	
152	630-4	土解器	小窓	2区41	5021	1/12	8.8	-	-	-	内：ナガ 外：オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰 7.50E-1	
153	631-2	土解器	小窓	2区42	5021	3/12	9.6	-	1.1	-	内：ナガ 外：オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰白 10100-2	
154	631-3	土解器	無	2区42	5021	2/12	10.8	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰 7.50E-1	
155	631-4	土解器	無	2区42	5021	2/12	11.6	-	1.9	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰白 10100-2	
156	631-2	土解器	無	2区42	5021	3/12	11.8	-	1.6	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰白 10100-2	
157	631-8	土解器	無	2区42	5021	1/12	13.8	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰白 10100-2	
158	631-6	土解器	無	2区42	5021	3/12	16.6	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰 10100-4	
159	631-7	土解器	無	2区42	5021	1/12	19.9	-	2.0	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰 10100-3	
160	631-7	土解器	無	2区42	5021	2/12	9.6	-	1.3	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ、ナガ	少少 少	-	灰 10100-4	
161	631-5	陶器	片口輪	2区46	P110	小窓	-	-	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、ナガ	未 未	-	灰白 2.50E-1	
162	630-5	陶瓦土器	圓筒	2区45	5022	2種類組合	-	-	-	-	内：ロクナゲ 外：エコナゲ、ナガ	未 未	-	灰 12.50E-1	
163	630-2	土解器	別室	2区32	5022	1/12	23.6	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、西脇物、ナガ	未 未	-	灰白 10100-2	ヌエ・ヨウ材質、半北伊勢系
164	630-2	土解器	別室	2区32	5022	1/12	25.3	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、西脇物、ナガ	未 未	-	灰 2.50E-1	ヌエ付箋、半北伊勢系
165	630-1	土解器	別室	2区24	5022	1/12	22.4	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、西脇物、ハグ目、オサヌ、ナガ	未 未	-	灰 ヌエ付箋、中北伊勢系	
166	630-2	土解器	別室	2区16	5022	1/12	26.1	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、西脇物、ハグ目、オサヌ、ナガ	未 未	-	灰 2.50E-1	ヌエ付箋、中北伊勢系
167	630-2	土解器	多室	2区18-19	5022	1/12	25.8	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、西脇物、ナガ	未 未	-	灰 12.50E-1	
168	630-1	土解器	無	2区26	5023	1/12	25.6	-	-	-	内：ナガ 外：ナガ	未 未	-	灰 7.30E-1	
169	630-4	土清器	片口輪	1区22	5023	1/12	22.2	-	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ	未 未	-	灰 12.50E-1	
170	630-6	土解器	小窓	2区31	5023	1/12	8.8	-	1.29	-	内：ナガ 外：エコナゲ、西脇物	未 未	-	灰 灰 2.50E-2	
171	630-4	土解器	無	2区31	5023	1/12	16.6	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ	未 未	-	灰 10100-1	
172	630-1	土解器	無	2区26	5026	1/12	15.2	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ、オサヌ	未 未	-	灰 2.50E-1	
173	630-5	土解器	無	2区29	5026	1/12	13.2	-	-	-	内：ナガ 外：エコナゲ	未 未	-	灰 2.50E-1	南伊勢系
174	630-2	山系糸	無	1区23	5026	1/12	14.6	-	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、ナガ	未 未	-	灰白 0.51/1	
175	631-1	山系糸	無	2区30-19	5026	1/12	17.8	-	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、ナガ	未 未	-	灰白 0.51/1	
176	630-3	陶器	瓶型	1区23	5026	2/12	19.7	-	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、瓶型	未 未	-	灰 0.51/1-2017/1 ホーリー・スズ2016/1	
177	630-1	陶器	無	2区30-19	5026	4/12	8.6	-	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、ロコケリ	未 未	-	灰 灰 0.51/1-2017/1 ホーリー・スズ2016/1	
178	631-7	陶器	無	2区30-19	5026	直周3/12	-	12.5	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、直周	未 未	-	灰 灰 0.51/1-2017/1 ホーリー・スズ2016/1	
179	631-6	陶器	瓶型	2区30-19	5026	直周3/12	-	4.6	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコナゲ、瓶型	未 未	-	灰 灰 0.51/1-2017/1 ホーリー・スズ2016/1	
180	630-5	破片	小糸	2区30-19	5026	直周3/12	-	8.6	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ	未 未	-	灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1	
181	631-5	陶器	天目系糸	2区30-19	5026	直周3/12	-	8.6	-	-	内：ロクナゲ 外：ロコケリ	未 未	-	灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1	
182	630-6	破片	無	2区31	5026	直周3/12	-	-	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ	未 未	-	灰 明治25-30/1-3017/1 ホーリー・スズ2016/1	加工用盤か
183	630-2	破片	無	2区30-19	5026	直周3/12	-	3.8	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ、奈付	未 未	-	灰 灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1 ホーリー・スズ2016/1	
184	630-3	破片	無	2区30-19	5026	直周3/12	-	31.6	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ、奈付	未 未	-	灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1 ホーリー・スズ2016/1	
185	630-4	破片	無	2区30-19	5026	直周3/12	-	16.8	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ、奈付	未 未	-	灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1 ホーリー・スズ2016/1	
186	630-7	破片	無	1区23	5026	直周3/12	-	9.7	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ、奈付	未 未	-	灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1 ホーリー・スズ2016/1	
187	630-1	陶瓦土器	圓筒	2区21	5214	直周2/12	-	8.2	-	-	内：ナガ 外：ロクナゲ	未 未	-	灰 1.00E-1 明治25-30/1-3017/1	
188	630-1	破片	無	2区31	5031	-	-	-	-	-	-	未 未	-	桶木敷弓・絆豆	
189	630-1	破片	無	2区31	5031	-	-	-	-	-	-	未 未	-	桶木敷弓・絆豆	
190	630-1	土解器	印壓	2区31	5031	-	-	-	-	-	-	未 未	-	桶木敷弓	

VI 結語

1 小ブケ遺跡・石名田遺跡・柳垣内遺跡の遺構形成

平成25年的小ブケ遺跡から始まった中勢沿岸流域下水道（志登茂川処理区）安濃北幹線工事に伴う発掘調査は、今回の報告書刊行をもってすべて終了した。最終的な発掘調査面積は、小ブケ遺跡（第1次・3次・4次）1,204 m²、石名田遺跡414 m²、柳垣内遺跡334 m²の合計1,952 m²である。

溝渠設置に伴う調査だったため、トレンチ幅は多くが1 m～2 m、一部ボックス部分のみ2.8 mという非常に幅狭の調査だったが、小ブケ遺跡では延長701 m、石名田遺跡では延長230 m、柳垣内遺跡では延長286 mを開けることができ、3遺跡での総延長は1,217 mに及んだ。

さらに、平成24年度に実施した範囲確認調査では、小ブケ遺跡のさらに南側に位置する太田南遺跡から柳垣内遺跡までの総延長5,290 mの間に63ヶ所の調査坑を設けて調査している。この成果も含めると、内多地区の美濃屋川右岸の沖積部の遺跡形成の様相を、概略ながら一通り把握できるようになった。

以下、今事業で実施した発掘調査の成果に基づいて、小ブケ遺跡・石名田遺跡・柳垣内遺跡の遺跡形成と遺構の変遷についてまとめておきたい。

縄文時代

小ブケ遺跡（第3次）調査1区で後期中葉～後葉の深鉢、第1次調査で晚期の突審土器が出土したほか、柳垣内遺跡の北西端に位置するSR 22で後期とみられる深鉢小片が出土した。ちょうどこの3遺跡の西端と東端で縄文時代遺物が確認できたことになる。

小ブケ遺跡の縄文土器は、いずれも包含層や基盤層からの出土で遺構に伴うものではないが、破片としては大形であり、流入等ではない可能性が指摘されていて、近傍での遺構の存在も予想される。晚期の突審土器は、東側にある辻の内遺跡からも出土しており、縄文時代晚期には当地でも人間活動が徐々に始まりつつあった状況が窺われる。

一方、柳垣内遺跡の縄文土器は、流路からの出土で、周辺部からの流入や投棄であることも考えられ

る。今後、周辺部の状況を注視していく必要がある。

弥生時代中期

小ブケ遺跡（第3次）調査2区北端で中期中葉の堅穴建物が2棟確認されており、美濃屋川付近に局的に形成された小規模な微高地に遺構形成された可能性が指摘されている。このほか、弥生中期の土器が小ブケ遺跡（第1次）調査及び第3次調査で断片的に出土したことから、調査区周辺でごく少数の遺構が存在した可能性はある。しかし、全体として、この時期の遺構形成は低調で、まだあまり開発は進んでいなかったと推定される。

弥生時代後期～古墳時代前期

近畿の畿内第V様式及び東海の山中式に相当する時期を弥生時代後期、近畿の庄内式及び東海の廻間式以降を古墳時代とみた場合、少數ながら第1次調査SH 2など弥生後期とみられる遺構がある。また、小ブケ遺跡（第1次・第3次）調査で確認された旧河道や溝には、遺物の主体は古墳時代前期に下るもの、第1次調査SR 3など弥生時代後期の土器も一定量含まれているものがあり、形成時期が弥生時代後期に遡る可能性がある。

古墳時代に入ると、小ブケ遺跡では流路と溝を中心ながら、遺構数は増加し、遺物量も多く、盛期を迎える。ただし、この時期の遺構は、第1次調査区と第3次調査区、それに第4次調査でも東側の1区に限られ、小ブケ遺跡でも東側に限定されている。居住に関わる遺構は、第3次調査SH 320のほか、第1次調査SH 7とSH 32も古墳時代の可能性があるが、確認数は少なく、小規模な居住域が点在していた状況が窺える。石名田遺跡や柳垣内遺跡では、この時期の遺構は全く確認されておらず、集落の中心は小ブケ遺跡の東半からさらに東側に求められよう。

古墳時代中期

遺構形成は低調になるが、小ブケ遺跡（第3次）調査SR 304やSR 308はこの時期の形成とみられる。第4次調査SD 402も前期の遺物を含むものの、中期の土器が主体となる。また、前期に形成された

S R 315 や S R 301 では、中期に土器の集中投棄が行われている。

古墳時代後期～飛鳥時代

再び形成が始まるのは古墳時代後期でも 6 世紀後半以降である。ただし、遺構数は乏しく、石名田遺跡 S D 2 が 6 世紀後半から 7 世紀、S D 30 が 7 世紀前半から中頃とみられるほか、小ブケ遺跡（第 3 次）調査 S D 310 と S D 316 もこの時期の遺構形成である。また、S D 306 や S R 301 は、遺構形成は前期に遡るが、埋土上層に古墳後期～飛鳥時代の遺物を包含しており、遺構としての埋没時期を迎える。

奈良～平安時代

奈良時代では、小ブケ遺跡（第 1 次）調査 S K 18 や第 3 次調査 S R 317 が形成されるが、奈良時代の遺構形成はまだ低調である。前代に形成された S D 316 はまだ溝としての機能が続いているが、S D 316 は埋没時期を迎える。

遺構形成が進むのは、平安時代である。小ブケ遺跡（第 3 次）調査 S D 313 や S D 318、第 4 次調査 S D 415・S D 422・S D 426、石名田遺跡 S D 16・S D 23・S D 27・S D 28、柱列 S A 33 や S A 34、S K 40 などがこの時期に形成された。

特に、石名田遺跡では、遺物も近江灘を中心とした縁軸陶器が多数出土しており、安濃川流域の諸遺跡の中でも目立った特徴となっている。調査区幅が狭いため、確実な掘立柱建物は確定しなかったが、掘立柱建物を構成するとみられるこの時期の柱列やピットは多数出土しており、複数の掘立柱建物が存在していたと推定される。石名田遺跡から小ブケ遺跡西半にかけては、この時期の安濃川左岸集落群でもかなり有力な存在だったと目される。

また、石名田遺跡 S K 40 は、土師器小皿とロクロ土師器小皿が土師器甕の内外から折り重なり納められた状態で出土し、埋納遺構とみられる。

鎌倉時代

小ブケ遺跡でも西部に位置する第 4 次調査 2 区 S D 411・S D 413、石名田遺跡 S K 12・S K 19・S K 35 などがこの時期の遺構である。小ブケ遺跡（第 4 次）調査 2 区や石名田遺跡では、包含層や古い時期の流路への混入もしくは埋没時の堆積土中からこの時期の遺物が多数出土しており、周辺部にも多

くの遺構の存在が予想される。総じて、前代の平安時代の集落領域を踏襲して新たな遺構形成がされている状況が窺える。

なお、実際は石名田遺跡の北部域に相当するが、昭和 59 年柳垣内遺跡（第 1 次）調査区でも 14 世紀初頭前後とみられる古瀬戸四耳壺が出土しており、石名田遺跡でも今回の調査区よりも北方には、この時期の遺構が存在している可能性がある。

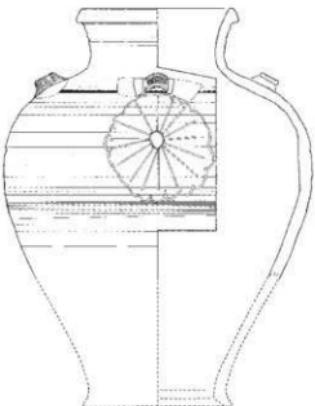
室町時代～江戸時代初頭

小ブケ遺跡（第 4 次）調査で断片的な室町時代の遺物出土はあるものの、石名田遺跡や小ブケ遺跡では明確な当該時期の遺構はみられなくなり、集落の中心はより西方の柳垣内遺跡の西部へ移っていく。

集落の変遷と画期

弥生時代中期に小ブケ遺跡の北東側でわずかに確認できた居住域は、弥生時代後期から古墳時代前期には小ブケ遺跡の東半部に拡大した。遺構の状況から、集落はさらに小ブケ遺跡の東側へ広がっていたことが想定される。

古墳時代中期を境に遺構形成は低調となるが、飛鳥時代以降、集落の中心は小ブケ遺跡西半から石名田遺跡へ移り、10 世紀後半から 11 世紀以降、集落と



第 42 図 柳垣内遺跡（第 1 次）調査出土の古瀬戸四耳壺

しての盛期を迎える。

鎌倉時代も引き続き小ブケ遺跡西半部から石名田遺跡で遺構形成が続くが、徐々に低調化し、室町時代、とりわけ戦国期になると柳垣内遺跡の西端部での遺構形成が活発化し、集落はさらに北西側の桜垣内遺跡方面へ広がっていたことが想定される。

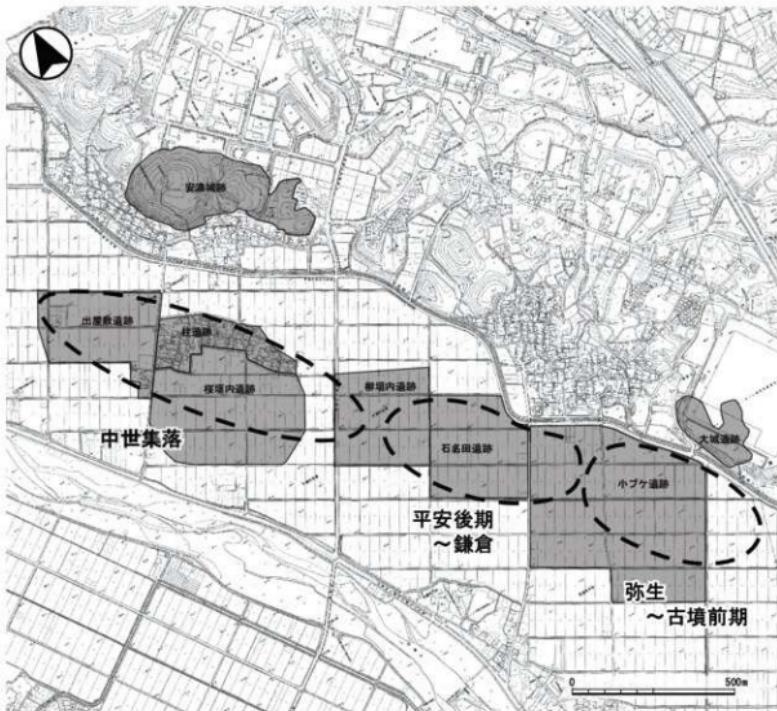
総じて、美濃屋川の流路に沿うように、北西に位置する柳垣内遺跡から南東側の小ブケ遺跡に向かって微高地があるが、集落域の中心はそれに沿うように、下流側から上流側へ向かって変転していったとみられる。

2 条里との関係

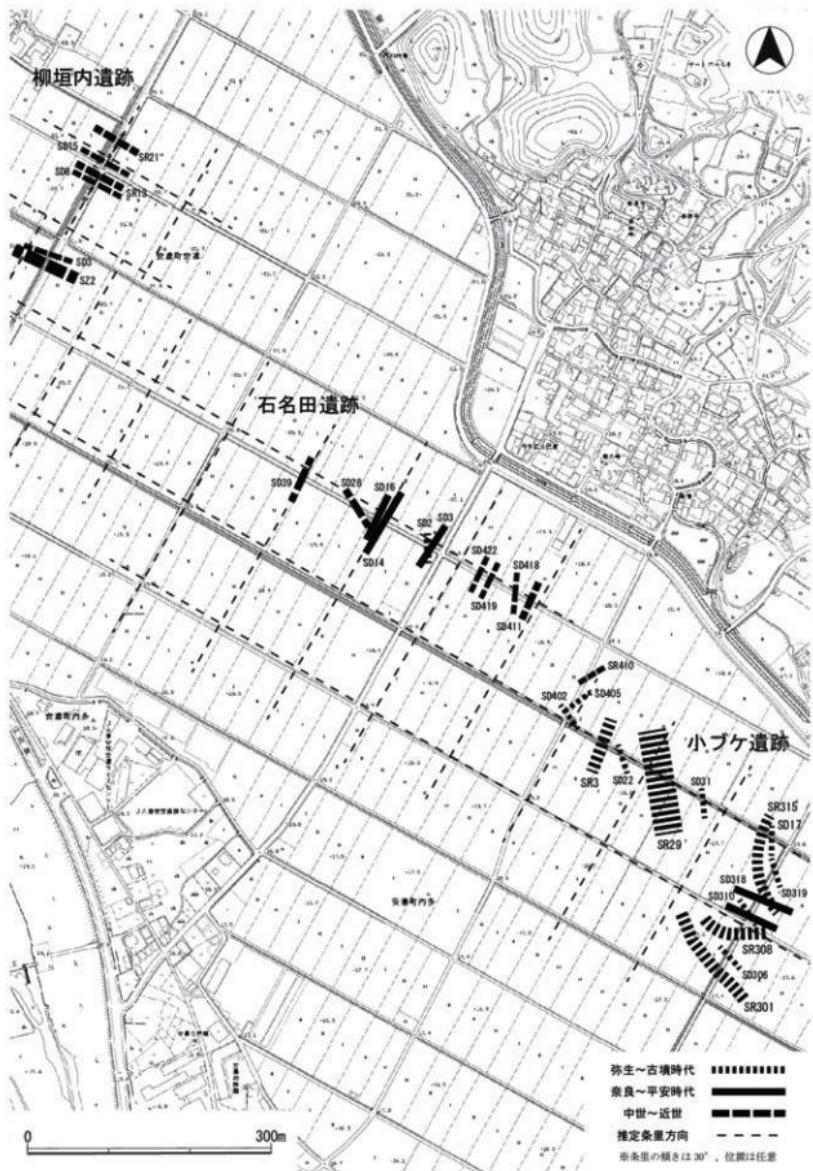
旧安濃郡は974（天禄4）年に神郡となり、伊勢神宮の領地となつた。条里の施行時期や範囲は明確ではないが、安濃川下流域の冲積地を中心とした条里地割が認められる。地割の主軸方向はN 30° Eであるとされる¹⁾。

今回調査した遺跡群の付近では、古く遡る可能性

のある条里地割は明確ではないが、内多地区には一の坪という小字名が残ることや、14世紀代に下る文書ではあるものの、『太神宮法楽寺所司等立申文書粉失記』に「十二条西内田里」という記述があることから²⁾、安濃川下流域と同じく平安時代末期頃には条里が施行されていたものとみられる。



第43図 集落域の変遷模式図



第44図 調査区の溝・流路と条里方向

本遺跡群の北端に位置する柳垣内遺跡では、SD 3・8・15、SR 13・21、SZ 2が条里方向に沿うと思われるが、その多くから16世紀代を中心とした土師器などが出土しており、条里と関係するかどうかは不明である。

その南側に位置する石名田遺跡では、平安時代に埋没したと考えられるSD 3・14・16が概ね条里方向に沿っていることから、条里と関係する構の可能性がある。特にSD 16は、平安時代後期から末期の年代が与えられることから、安濃川下流域における条里制の施行時期とも一致する。

さらに南に進んだ小ブケ遺跡では、第3次調査において条里方向に沿うと思われるSD 310・318が検出されている。両者とも掘削が飛鳥・奈良時代に遡る可能性があるが、条里との関係は不明瞭である³⁾。

第4次調査では、条里方向に沿う構としてSD 411・419・422が確認された。いずれも鎌倉時代に位置付けられる遺構である。

以上の考古学的検討より、本遺跡群周辺における条里地割の施行は、奈良時代以前に遡るかは依然不明瞭であるものの、平安時代後期から末期までには行われたものと考えられる。これは安濃川下流域とも連関する動きであり、一定程度の広域性を帯びた

土地整備が当該期におこなわれた可能性を視野に入れつつ、安濃川下流域における更なる発掘調査の成果を待ちたい。

なお、今回調査した小ブケ遺跡・石名田遺跡・柳垣内遺跡と同じ安濃川左岸のさらに上流域となる津市芸濃町萩野から西岡本にかけての付近では、近年まで条里地割が遺存していた。同地には、平安時代の道路遺構が発見された松山遺跡や古代から中世の有力集落である桙本南方遺跡がある。

今回の調査は、これら安濃川左岸の古代遺跡と条里及び古代官道について検討するための基礎資料と位置づけられる。今後、さらなる検討を加えていくたい。

註

- 1) 仲見秀雄 1979『奄芸・安濃・一志郡の条里』『伊勢湾岸地域の古代条里制』 東京堂出版
- 2) 安濃町史編纂委員会(編) 1999『安濃町史』通史編 安濃町
- 3) 石井智大・渡辺和仁(編) 2019『小ブケ遺跡(第3次)発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター



第45図 津市芸濃町萩野付近に残る条里地割(『三重県デジタル地図』)

写 真 図 版

写真図版1（小ブケ遺跡第4次・遺構1）



遺跡遠景（西から）



1区0~20m全景（南から）



1区80~100m全景（南から）

写真図版2（小ブケ遺跡第4次・遺構2）



SK401（東から）



SD405（南から）



SK408（南から）



SK409（南から）



2区 0~20m 全景（西から）



2区 40~60m 全景（東から）

写真図版3 (小ブケ遺跡第4次・遺構3)



2区 80~100m 全景 (西から)



2区 100~122m 全景 (西から)



SD411 (北東から)



SD412 (北西から)



SD413 (北東から)



SD414 (北東から)

写真図版4（小ブケ遺跡第4次・遺構4）



SD416（北東から）



SD419 遺物出土状況（西から）



SK420（南東から）



SD422（北東から）



SK423（東から）



SD424（西から）



SK425（南東から）

写真図版5 (小ブケ遺跡第4次・遺構5)



SB427 (東から)



SB427 柱穴4 (上位から 104 白磁出土) (北から)



SD433 (右側: SB427 柱穴5) (北から)



SD429 (北西から)



SB431 (東から)



Pit11 (SB431) (北から)

写真図版6（小ブケ遺跡第4次・遺物1）



写真図版 7 (小ブケ遺跡第4次・遺物2)



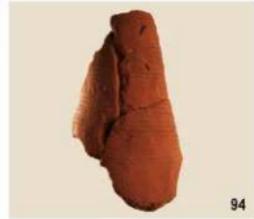
写真図版8 (小ブケ遺跡第4次・遺物3)



写真図版9 (小ブケ遺跡第4次・遺物4)



写真図版10（小ブケ遺跡第4次・遺物5）



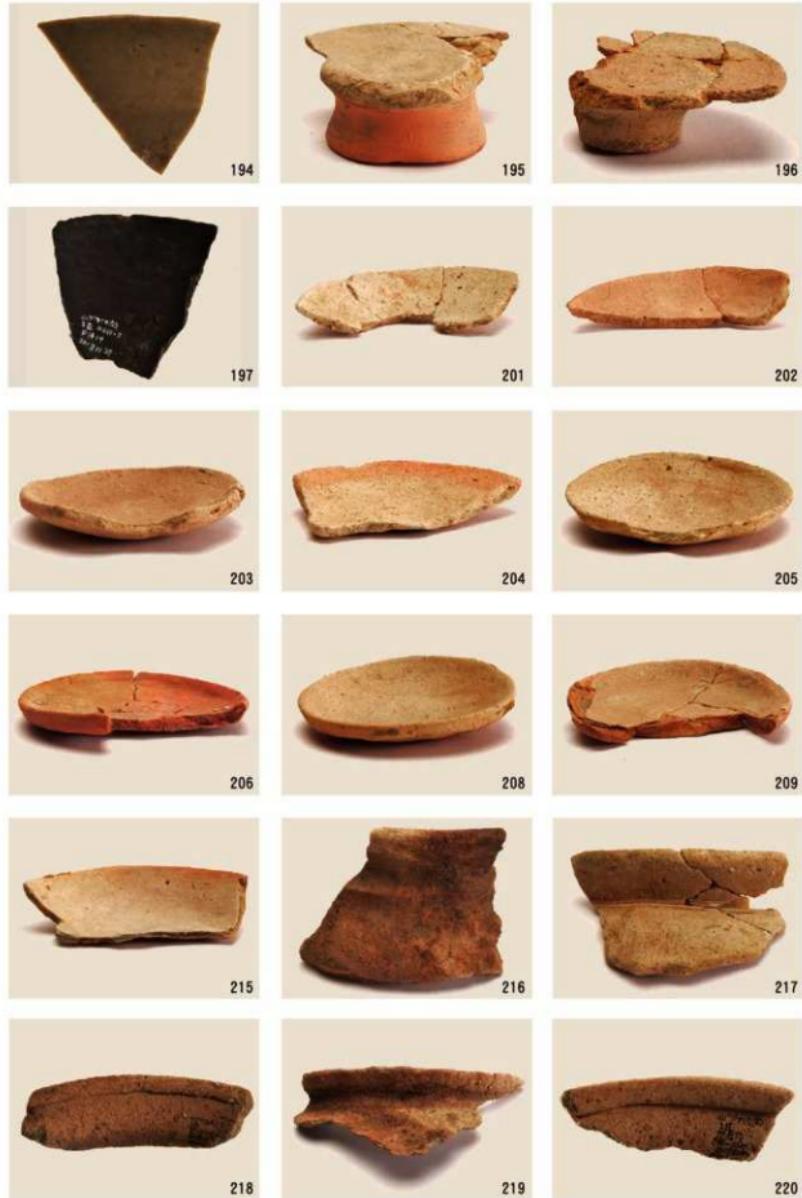
写真図版11 (小ブケ遺跡第4次・遺物6)



写真図版12（小ブケ遺跡第4次・遺物7）



写真図版13 (小ブケ遺跡第4次・遺物8)



写真図版 14 (小ブケ遺跡第4次・遺物9)



写真図版15 (石名田遺跡・遺構1)



遺跡遠景（南西から）



0~20m 全景（西から）



40~60m 全景（東から）

写真図版16（石名田遺跡・遺構2）



60～80m 全景（西から）



80～100m 全景（西から）



100～120m 全景（東から）



120～140m 全景（東から）

写真図版17 (石名田遺跡・遺構3)



140～160m 全景（西から）



180～200m 全景（西から）



SA4（西から）



SK8（西から）



SD11（北東から）



SK12・SK13（東から）

写真図版18（石名田遺跡・遺構4）



SD14・SK15（東から）



SD16（北から）



SD16 緑釉陶器出土状況（北から）



SD16 緑釉陶器出土状況（北東から）



SD16 土師器出土状況（南から）



SK17（北から）



SK18（北から）



SK19（南から）

写真図版19 (石名田遺跡・遺構5)



SK21・SD24 (南西から)



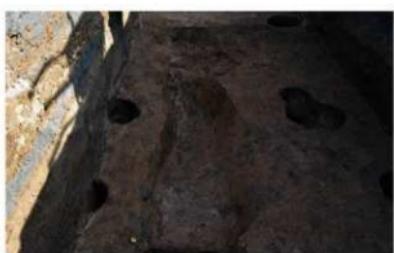
SD23 (南西から)



SK25 (北から)



SD28 (東から)



SK26・SD27 (西から)

写真図版20（石名田遺跡・遺構 6）



SD29 (北東から)



SK32 (北東から)



SD30 + SD31 (西から)



SA33 (北西から)



SA34 (南東から)

写真図版21（石名田遺跡・遺構7）



SD37 (北東から)



SD38・SD39 (北東から)



SK40 土師器甕出土状況 (北から)



調査風景



90～100m Pit群 (下: SD16) (北東から)



100～110m Pit群 (下: SD22) (北東から)



Pit51 (北から)



Pit41 (北から)

写真図版 22 (石名田遺跡・遺物 1)



SK40 出土遺物



綠釉陶器

写真図版23(石名田遺跡・遺物2)



写真図版24 (石名田遺跡・遺物3)



写真図版25 (石名田遺跡・遺物4)



写真図版26(石名田遺跡・遺物5)



写真図版27 (石名田遺跡・遺物 6)



写真図版28（柳垣内遺跡第2次・遺構1）



遺跡遠景（南東から）



1区調査前状況（東から）



1区1～7全景（東から）

写真図版29（柳垣内遺跡第2次・遺構2）



2区調査前状況（南から）



SZ2（北西から）



2区1~4全景（南から）



2区23~28全景（北から）



2区29~32全景（南から）

写真図版30（柳垣内遺跡第2次・遺構3）



2区34~40全景（北から）



SK4（南から）



SK4 土器出土状況（南から）



SK5（北から）



SE7（南東から）



SK10（北から）

写真図版31 (柳垣内遺跡第2次・遺構4)



SK12 漆器椀出土状況（南東から）



SK12（南東から）



SK14（北から）



SR13（南から）

写真図版32（柳垣内遺跡第2次・遺構5）



2区29～32全景（北から）



SD15（南から）



SD18・SK19（南から）



SK17（東から）



2区45・46 Pit（南から）

写真図版33 (柳垣内遺跡第2次・遺構6)



SD20 (北から)



調査風景 (SK12 漆器梶取り上げ) (北から)



SD20 砥出土状況 (南から)

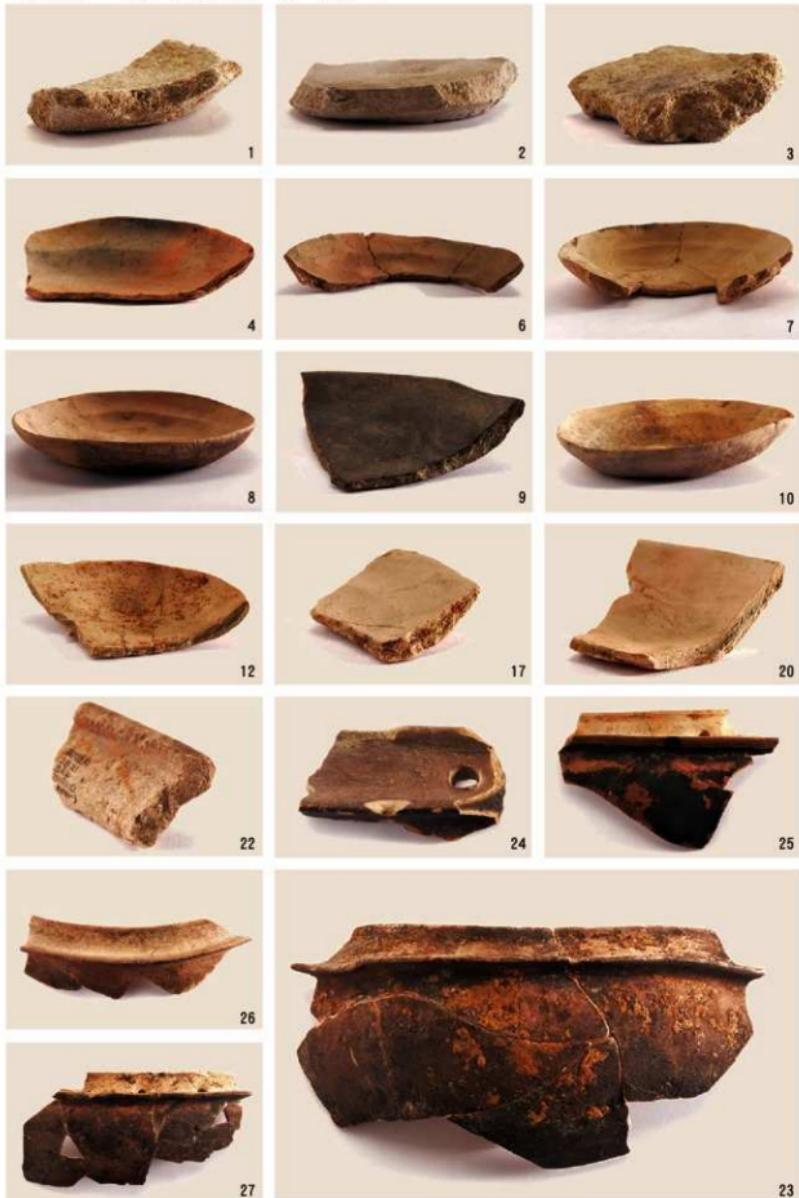


SD20・SR21 (南から)



SR22 (南から)

写真図版34（柳垣内遺跡第2次・遺物1）



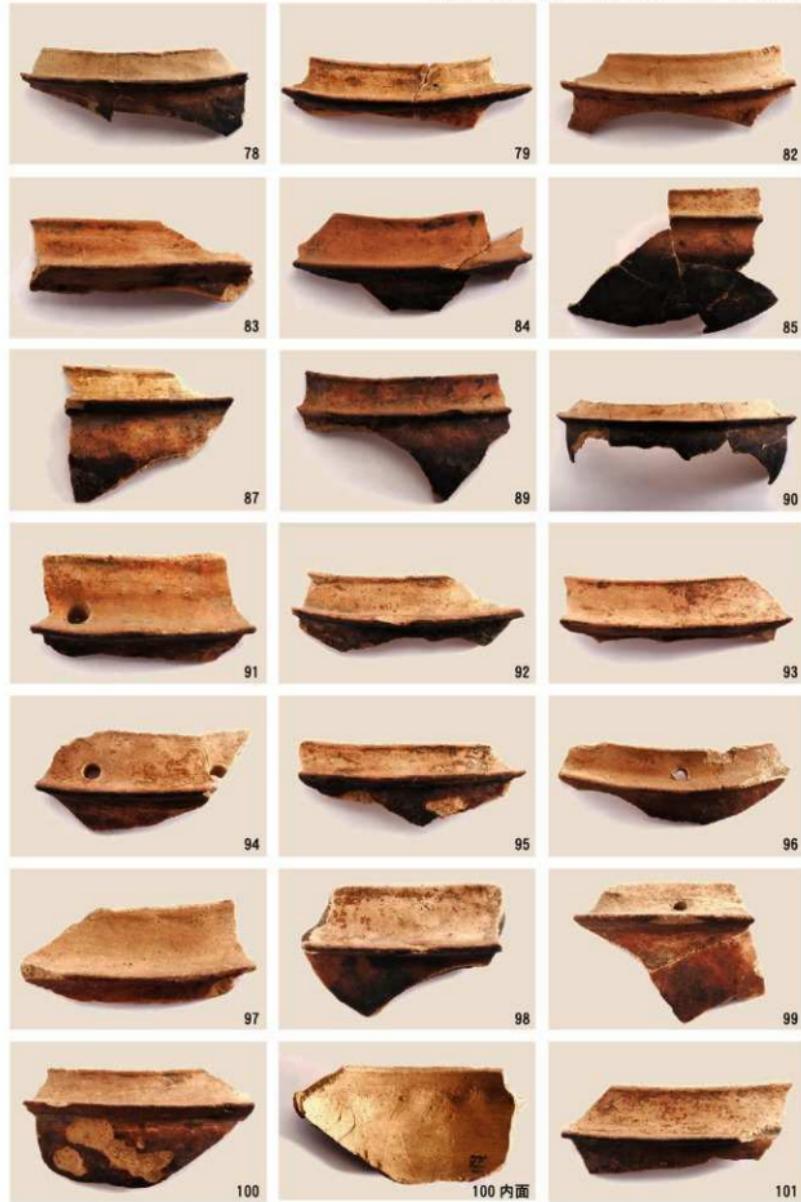
写真図版35 (柳垣内遺跡第2次・遺物2)



写真図版36（柳垣内遺跡第2次・遺物3）



写真図版37 (柳垣内遺跡第2次・遺物4)



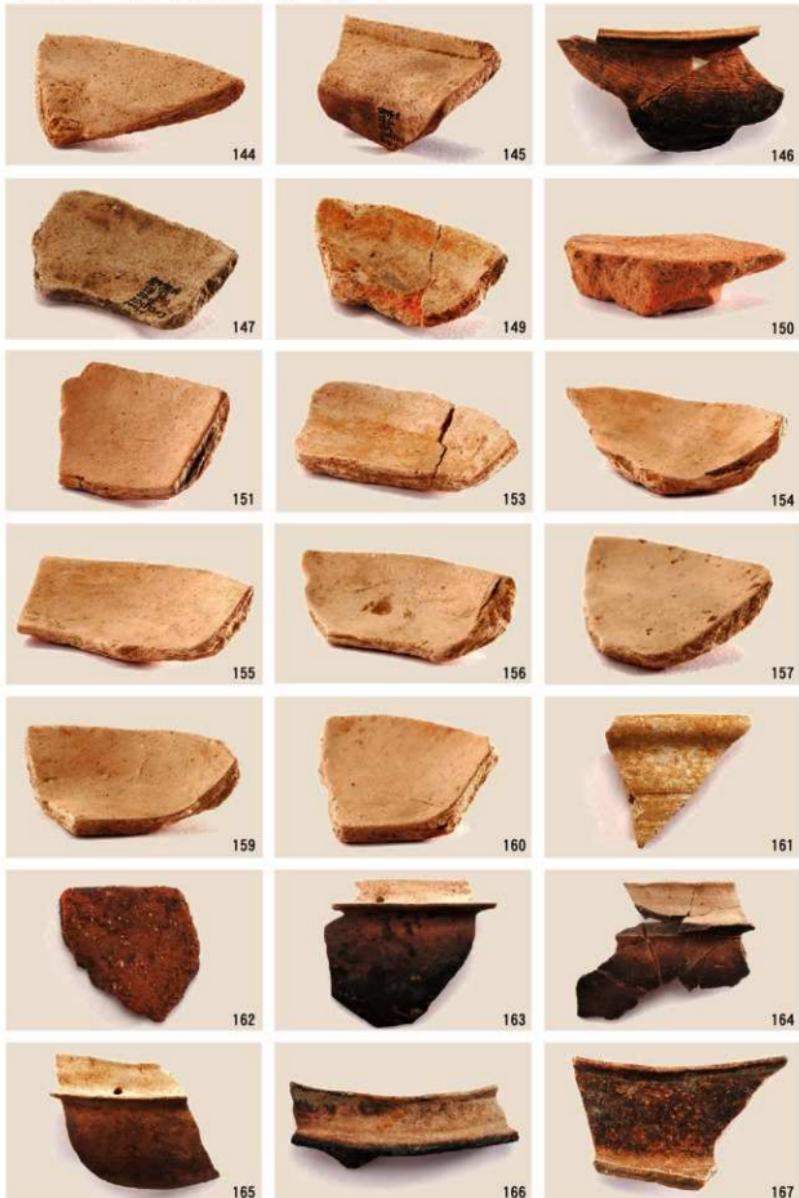
写真図版38（柳垣内遺跡第2次・遺物5）



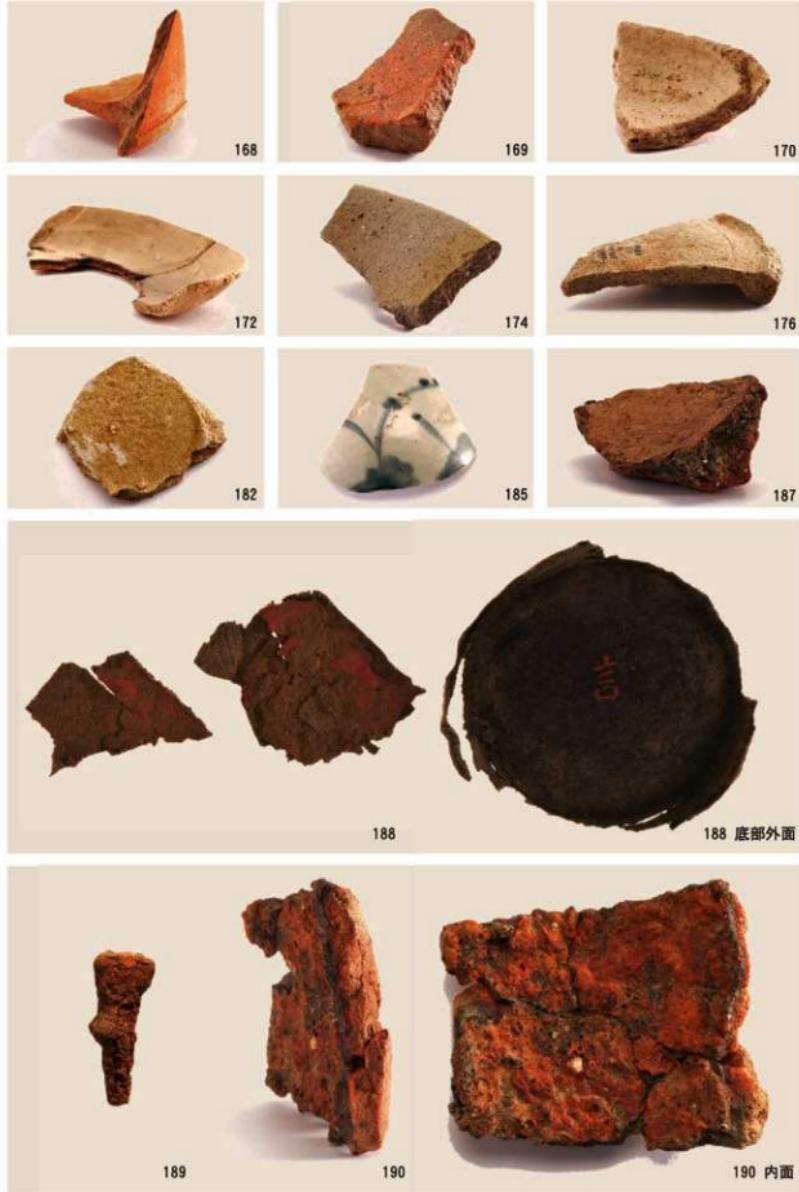
写真図版39 (柳垣内遺跡第2次・遺物6)



写真図版40（柳垣内遺跡第2次・遺物7）



写真図版41 (柳垣内遺跡第2次・遺物8)



報 告 書 抄 錄

三重県埋蔵文化財調査報告 397

小ブケ遺跡（第4次）・石名田遺跡・柳垣内遺跡（第2次）
発掘調査報告
—津市安濃町内多—

2021（令和3）年3月
編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 ミフジ印刷株式会社
